教育・研究年報

令和2年度

徳島文理大学人間生活学部

教育・研究年報

令和２年度

徳島文理大学
人間生活学部

ま　え　が　き

令和２年度人間生活学部教育・研究年報を刊行いたします。ご覧下さいまして、年報のありかた、あるいは教員の活動に対し、ご指導を賜りますことを願っております。

人間生活学部は 6 学科からなり、各学科が連携し、人間生活学の魅力的な教育・研究を展開させています。学科構成の多様性が人間生活学部の特徴・メリットです。しかし、平成 29 年度には日本高等教育評価機構による認証評価において定員充足率の向上が重大な課題であると指摘を受け、平成 30 年度から令和 2 年度の 3 年間、各学科の広報活動を強化させるとともに、教育の質の向上に懸命の努力をしてきました。

このような課題を念頭におきまして、令和 2 年度を振り返り、多くの出来事の中から各学科の活動や特徴を紹介しましょう。

まず人間生活学科から紹介します。教育内容は、生活経営学、食物学、被服学、住居学、コミュニティデザイン、保育・保健・養護学の各分野から構成されています。心理学科と共に養護教諭の養成に工夫を重ね、模擬保健室を活用し、より実際的・具体的な実習・教育を展開しました。人間生活学科は「人生 100 年時代における生活の質向上」を探究し、社会と生活の変化に対応して活躍する人材を育成します。

食物栄養学科では、管理栄養士国家試験に合格できる学力をつけることを教育の基本にして、冬期講習等、国家試験合格率向上のための工夫を重ねてきました。さらに、栄養や保健、衛生の高度な学識と技術をもち、「人間栄養学」を実践できる管理栄養士を養成し、生活習慣病を予防する栄養教諭の養成にも力を注ぎました。これらの目的のために、栄養学、解剖生理学、病理学、臨床栄養学を深く学ぶことができます。

児童学科では、国公私立の小学校・幼稚園・保育所・認定こども園等の就職合格率も向上しました。また学生による合唱の発表等、音楽活動にも力を入れました。小学校教諭 1 種免許状などを取得するとともに、教育情報処理を学び、実践現場でコンピュータ類を有効に活用できる高度な教育的実践力の形成につとめ、小学校で外国の身近な生活や文化に親しませる基礎的な英会話の指導ができるようにします。

メディアデザイン学科は、IT 社会にふさわしい情報技術関連のスペシャリストを目指す学科であり、メディアテクノロジーを活用して問題を解決する能力を養成します。総合的に「情報領域」「調査分析領域」「コンテンツ領域」などを学ぶことができるという他大学にはない特色を活かしつつ、地域社会活性化プロジェクトに積極的に参加しました。

建築デザイン学科では、3 次元のモノ作りである 3D プリンタの応用やドローンなど最先端技術を積極的に取り入れ、4 年になるまでにコンピュータによる設計ができるように CAD 教育に力を入れています。一方、地域に密着した活動も継続しています。そして人と生活と環境を大切にして、建築の 3 要素である「強・用・美」をそなえた建築・インテリアを創造する人材を育成しています。

心理学科は公認心理師法の施行（平成 29 年 9 月）で注目を集めています。中四国における臨床心理士養成校のパイオニアとしての永年の経験を元に、公認心理師養成に向けてカリキュラム等の整備をしました。教員自身が、第 1 回公認心理師試験（平成 30 年 9 月）に合格して着実に教育体制を整えています。心の問題は学校教育現場においても重要で、心理学を学び養護教諭をめざす人材の育成にも力を入れています。

このように、各学科が多くの課題に果敢に挑戦していることの一端をお分かりいただけると思います。

令和２年度は、新型コロナウイルス感染症が人々の生命と生活をおびやかし、未だ収束の兆しは見えません。感染を防ぐために対面授業から遠隔配信授業に切り替え、コロナ禍にあっても勉学が遅滞しないように努めました（別表参照）。学生は対面授業と遠隔配信授業の変化に柔軟かつ賢明に対応しましたが、実習系の授業科目には課題が残りました。

日本の大学を取り巻く状況は大変厳しいものがありますが、本学 130 周年に向けて、上に記したような各学科の取組を一層発展させていけば、我々は本学の明るい未来を必ず見出していくことができるものと確信しています。

人間生活学部長　森 田 孝 夫

別表　2020年度の授業の記録（対面授業と遠隔配信授業）

入学許可の式	4月02日(木)
授業開始は感染防止の健康観察期間をとって10日間遅らせて4月20日とする。この2週間分は4月26日～7月25日の土曜日授業により確保する。	徳島県は緊急事態宣言を4月3日～5月14日発出。
遠隔配信授業	4月20日(月)
〃	～ 6月13日(土)
新入生・編入生オリエンテーション	6月15日(月)
対面授業	6月16日(火)
〃	～ 7月06日(月)
臨時休校（学生感染）	7月07日(火)
遠隔配信授業	7月08日(水)
〃	～ 7月25日(土)
前期試験（遠隔）	7月27日(月)
〃	～ 7月31日(金)
夏季休業（8月7日～9月04日）	
（前期実習系授業の補講）	適宜
（後期実習系授業の先行）	適宜
前期終わり	9月19日(土)
後期始まり	9月20日(日)
対面授業	9月23日(水)
〃	～10月21日(水)
臨時休校（学生感染）	10月22日(木)
遠隔配信授業	10月23日(金)
〃	～10月31日(土)
対面授業	11月02日(月)
〃	～12月23日(水)
冬季休業（12月24日～1月7日）	
遠隔配信授業（帰省による感染への予防的措置）	1月08日(金)
〃	～ 1月14日(木)
共通テストによる休講（1月15日～1月17日）	
対面授業	1月18日(月)
〃	～ 1月20日(水)
遠隔配信授業（学生感染）	1月21日(木)
〃　　（学生感染）	～ 1月27日(水)
後期試験（対面・遠隔）	1月28日(木)
〃	～ 2月05日(金)
春季休業（3月16日～3月31日）	

令和２年度　人間生活学部自己点検・自己評価報告書

目　次

まえがき　人間生活学部長　森田　孝夫

第１章　人間生活学部の概要
第１節　学部の沿革と基本理念 …… 1
第２節　学部の構成 …… 3
第３節　学部運営組織（各種委員会の構成） …… 5
第４節　学部各種委員会活動報告 …… 8

第２章　学科スタンダード
第１節　人間生活学科 …… 28
第２節　食物栄養学科 …… 29
第３節　児童学科 …… 30
第４節　メディアデザイン学科 …… 31
第５節　建築デザイン学科 …… 32
第６節　心理学科 …… 33

第３章　卒業生満足度評価
第１節　大学全体 …… 34
第２節　人間生活学部 …… 35
第３節　卒業生満足度評価アンケートの結果に対する総評 …… 35

第４章　学生の授業評価アンケート
第１節　大学全体 …… 36
第２節　人間生活学部 …… 38
第３節　令和２年度授業評価アンケートの結果に対する総評 …… 40

第５章　研究授業報告 …… 41

第６章　教員活動状況の調査
第１節　人間生活学科 …… 42
第２節　食物栄養学科 …… 52
第３節　児童学科 …… 76
第４節　メディアデザイン学科 …… 104
第５節　建築デザイン学科 …… 114
第６節　心理学科 …… 126

編集後記 …… 144

第１章　　人間生活学部の概要

第１節　学部の沿革と基本理念

（１）沿革

本学園は明治 28（1895）年、学祖村崎サイ先生が「女も独り立ちできねばならぬ」と唱え、自立協同を建学の精神として、私立裁縫専修学校を創立したことに始まるが、その後、この専修学校が時代の変化・要請と共に拡大発展し、昭和 36（1961）年には徳島女子短期大学（家政科）、次いで昭和 41（1966）年に徳島女子大学（家政学部）が設置された。現在の人間生活学部はこうした歴史的発展のうえに成り立っているものである。

〔沿革の概要〕

昭和 41（1966）年	徳島女子大学家政学部家政学科設置
昭和 42（1967）年	管理栄養士専攻設置
	管理栄養士専攻設置が管理栄養士養成施設として認可
昭和 45（1970）年	児童学科設置
昭和 49（1974）年	被服学科設置（昭和 61 年廃止）
平成 5（1993）年	家政学専攻科設置
平成 6（1994）年	生活環境情報学科設置
平成 9（1997）年	大学院家政学研究科食物学専攻・生活環境情報学専攻修士課程設置
平成 10（1998）年	大学院家政学研究科に児童学専攻修士課程設置
	人間発達学科設置
	大学院家政学研究科に人間生活学専攻博士後期課程設置
	大学院家政学研究科児童学専攻臨床心理学コースが臨床心理士養成機関に指定
平成 12（2000）年	児童学科が保育士養成施設として指定認可
平成 14（2002）年	家政学部を人間生活学部に名称変更
	家政学科管理栄養士専攻を食物栄養学科に、生活環境情報学科を生活情報学科と住居学科に改組転換
	家政学科家政学専攻を人間生活学科に名称変更
平成 15（2002）年	人間福祉学科設置
	人間発達学科を心理学科に名称変更
平成 18（2006）年	生活情報学科をメディアデザイン学科に名称変更
平成 19（2007）年	人間福祉学科を人間福祉学部人間福祉学科として独立
平成 21（2009）年	住居学科を建築デザイン学科に名称変更

（２）基本理念

家政学部は昭和 41 年に設置されたが、その後、科学技術の急速な進歩や産業構造の高度化に伴って、社会構造も複雑化し、その結果、教育の大衆化、生活様式や価値観の多様化、情報化、少子高齢化、さらには心の問題、ヒューマンリレーションの欠如といった諸々の問題が生じてきて、人間生活が大きく変貌してきた。

このような人間生活をめぐる社会的諸事象の変化に即応可能な人材を育成するため、従前のような衣食住を中心とする伝統的な家政学の分野を超えた新しい学部の在り方や内容を発展的・総合的に再検討する必要が生じてきた。そこで、これまでの歴史的・社会的役割とその成果は継承しつつ、有意な教育・研究体制を確立して、より一層の社会的貢献を果たすべく、平成 14 年に家政学部を人間生活学部として新しくスタートさせ、今日に至っている。

現在、本学部は、それぞれに特色ある目的・内容を持った 6 学科と専攻科より構成

されている。このいずれもが人間の「生」と深く関わったものである。人間は環境（文化的・社会的・自然的環境等）との相互作用によって規定され得る生命体であるが、この観点から言えば、人間の「生」の問題は、取りも直さず生命の保持、健康の維持・促進、人間としての成長と発達、人間らしい生活の営みと行動の在り方、対人関係、文化の習得とその創造などと常に不可分の関係にある。しかし、そこには幾多の解決されねばならない課題も存在しているため、本学部では人間の自立と環境との共生という観点から、これらの課題解決に向けて常に科学し、新しいビジョンの下に創造していくことのできる人材、従って社会の新しい分野を担うことのできる人材の育成を目指している。それだけに本学部は諸科学、つまり人文科学、自然科学、社会科学等が有機的に連関するところに成り立つ特色ある学部であると言える。人間の開発・人間の自立の問題も、こうした関連科学の探究によってこそ保障されるものであると考えられる。

ところで、 現代は「知識基盤社会」と言われ、知の伝達、知の創造と発見、知の応用が大切であるとされるが、快適で健全なる人間生活の創造を考えるとき、「知識基盤社会」にふさわしい人間の教育をこそ重視していかねばならない。このため、本学部では建学の精神に立脚して、次のような人間の育成をめざすものである。

第一は、豊かな人間性を身に付けた人材の育成である。 教育の目的は、まさしく人格の完成にある。このため、充実した教育・研究を通じて、倫理観に裏付けられた知性と技能を有する個性豊かな品位ある人間の育成を目指す。このことは「人間の自立」、「知性と人間性の尊重」における根本精神でもある。

第二には、 高度な専門的知識・技能の習得を目指すことにある。基礎・基本の習得と幅広い教養教育の確立を前提として、知の時代にふさわしい先端的な知識・技能を広い視野から身に付けた人材、つまり社会から常に必要とされ、しかも地域社会においてのみならず、国際的にも貢献できる実践的な専門家の養成をねらいとする。

第三には、 意欲的で創造的な人間教育である。学生のやる気・意欲を喚起し、夢と情熱を持って新しい事柄や未知の分野に柔軟な思考力で挑戦していく教育、従って知識・技能の応用力を高めつつ、学問的なパイオニア精神を培い、豊かな創造力を身に付ける教育を重視する。変化に対応できる人間教育である。

第 2 節　学部の構成

現在、人間生活学部は 1～4 学年をあわせて 1,202 名（5 月 1 日現在）の学生を擁し、それぞれに特色ある人間生活、食物栄養、児童、メディアデザイン、建築デザイン、心理の 6 学科と専攻科から構成された学内最大の学部である。

ここで各学科の特性について要約的に述べれば、まず**人間生活学科**では、人間生活に関する衣食住のみならず、育児・保健・家族、さらには家庭経済や消費、環境問題、地域防災などを含めた内容を総合的に学びつつ、より健全なる人間の生き方を総合的に追究していく。学部のなかでは最も伝統ある学科である。**食物栄養学科**は、化学や生物などの内容を把握し、同時に人体の構造特性や機能等を理解したうえで、生活習慣病の予防をも視野に入れながら、人間の生命や健康に関わる食物栄養の特性などを実験等によって深く追究していく学科である。このため、管理栄養士養成を主たる目的としている。**児童学科**は、総合的な人間力を身につけた教育・保育の専門家を養成する学科である。乳幼児期から児童期に於いて、子どもの健全なる成長・発展と確かな学力を保障し、かつ、生きる力を育むことのできる専門的力量と豊かな指導性を養う学科である。

さらに**メディアデザイン学科**は、IT 社会にふさわしい情報技術関連のスペシャリストを目指す学科であり、ソフトウェアの開発・ネットワークの構築技術、さらにはインストラクショナルデザインなどを幅広く習得して、常に進展し続ける IT 社会に即応可能な人材育成に力点を置いている。平成 19 年 1 月のメディアセンターの完成により、最先端の情報施設・設備が整えられたことから、今後さらなる教育・研究の充実が期待される学科である。**建築デザイン学科**は、21 世紀のよりよい住まいの創造、即ち住生活空間をまちづくりや環境共生、インテリアなどの観点から、常にフレッシュな感覚を持って、総合的・実践的に指導する学科である。**心理学科**は、国家資格・公認心理師法の施行で社会の注目を集め、複雑化する社会ならびに学校教育現場においてクローズアップされている心の問題に正面から取り組み、心のメカニズムや対人関係のあり方、人間の考え方（思考方法）、そして、カウンセリングの方法などを具体的・実践的に学び、メンタルヘルスに関わる専門的知識・技能を習得している。

専攻科については、平成 17 年度から従来の家政学専攻科を人間生活学専攻科に名称変更し、これに伴って家政学専攻も人間生活学専攻となり、現在では児童学専攻と人間生活学専攻の 2 専攻となっている。これらの専攻科では、学部の内容を踏まえた上で、さらに内容の深化・発展を図ることになる。

なお、これらの学科（専攻科含む）で取得可能な免許・資格及び定員については以下の別表のとおりである。

(別表)

学　科　名	取得可能な免許状・資格	入学定員	編入定員
人間生活学科	教員免許高一種・中一種（家庭・保健)、養護教諭一種、二級建築士受験資格（実務1または2年）フードスペシャリスト、社会福祉主事の任用資格、医療秘書、福祉住環境コーディネーター、防災士、上級情報処理士（N)	40	※
食物栄養学科	管理栄養士国家試験受験資格（実務経験不要)、栄養士、栄養指導員・食品衛生監視員・食品衛生管理者の任用資格、教員免許高一種・中一種（家庭)、栄養教諭一種、医療秘書	90	※
児童学科	教員免許小一種・幼一種、保育士、中学校英語二種・レクリエーション・インストラクター、スポーツ・レクリエーション指導者、准学校心理士・社会福祉主事・児童指導員・社会教育主事（任用資格)	100	※
メディア デザイン学科	教員免許高一種（情報)、上級情報処理士(N)、社会調査士、プレゼンテーション実務士、Web デザイン実務士	30	※
建築 デザイン学科	教員免許高一種・中一種（家庭)、一級建築士受験資格（実務２年)、二級建築士受験資格（実務不要)、一級・二級建築施工管理技士受験資格、インテリアプランナー、インテリアコーディネーター、福祉住環境コーディネーター検定	45	※
心理学科	養護教諭一種、認定心理士、社会福祉主事・児童指導員の任用資格、医療秘書 （公認心理師、臨床心理士は大学院修士修了受験資格)	100	※
※印の編入定員については、定員に余裕がある場合にのみ受け入れる。		(計) 405	

〔専攻科〕

専攻科	専 攻	修業年限	取得可能な免許状	入学定員	入学資格
人間生活学専攻科	人間生活学専攻	1年	教員専修免許/高・中（家庭)、養護教諭	8	大学卒業者
	児童学専攻		教員専修免許/小・幼	6	

第 3 節　学部運営組織（各種委員会の構成）

人間生活学部における運営組織については、教授が参加する学部教授会、全教員が参加する学部教授総会、学部長および各学科長による学科長会議、各学科の教員による学科会議、ならびに役割に応じた各種の委員会（全学的委員会への参加および学部独自に設置された各種委員会）がある。

学部教授総会は第 2 火曜日に開催することを原則としている。学部教授会は学部教授総会の一部として実施される他、必要に応じて学部長が招集する。

全学的委員会への参加を表 1 に、学部の各種委員会の構成を表 2 に示す。大学院等と学部を兼ねている教員もいるため、大学院等の委員会も含めて示している。

なお、学部の「教員養成推進委員会」については、平成 17 年度に全学的な視点からの教員養成対策委員会並びに教員養成対策室が設けられたことから、従来の「教育実習委員会」をこれに対応させて「教員養成推進委員会」に名称変更した。

学部の各種委員会について、各委員は 2 年毎に交代することを原則としている。令和 2 年度の学部委員会は 10 の委員会から構成されており、それぞれにおいて選出された委員長（委員会によっては副委員長も選出）のリーダーシップの下に、学部教授会での決議事項等を踏まえて、その役割を果たしている。

各種委員会の会議については、委員会活動の課題に応じて適宜開催されるが、その具体的な活動内容については委員長が毎年 3 月末に学部長に報告することになっている。

表１　令和２年度委員一覧（全学的委員会）

2020 年 4 月 16 日現在

区分	委員会＼学科		各学科委員						備　　考
			人間生活	食物栄養	児童	メディアデザイン	建築デザイン	心理	
全学的委員会	学生指導・支援協議会				松本有				○ 学生支援課関係　1名（任期2年）（29, 30年度：食物栄養） ○ 学部学生指導委員会委員長とする（R1, 2年度：児童学科）
	人権教育推進委員会				仁宇				○ 学生支援課関係　1名（任期2年） （30年度：人間生活学科）（R1, 2年度児童学科）
	紀要編集委員会			坂井堅					○ 教育研究支援課関係1名（任期2年） （27年度～30年度：森田）（R1, 2年度：食物栄養・博士号あり）
	全学入試委員会							小板	＊30,R1年度：食物栄養学科, R2,3年度 心理学科
	センター試験委員				津守				＊30,R1年度：食物栄養学科, R2,3年度：児童学科
	ハラスメント防止委員会	防止員	竹内						○ 学生部関係 30,R1年度：心理学科, R2,3年度：人間生活学科
		相談員				古本			○ 学生部関係 30,R1年度児童学科, R2,3年度 メディアデザイン学科
	インターンシップ推進委員会						山田		○ 就職支援部関係　1名（任期2年） 30,R1年度：児童学科, R2,3年度：建築デザイン学科
	就職支援委員会							渡邉	○ 就職支援部関係　1名（任期2年）（30年度：建築デザイン学科） ○ 学部就職支援委員会委員長とする（R2,3年度：心理学科）
	教育開発機構	教務委員会						青木	○ 教務部関係, 学科長輪番, 29,30年度：食栄, R1,2年度：心理 ○ 学部教務委員会委員長とする。
		一般教育研究部会			森				○ 全学共通教育センター・語学センター関係（含む新入生教育）　＊ 29年度：食栄, 30,R1年度：児童, R2,3年度も児童にお願いしたい。
		SD推進委員会					森田		SD推進委員会設置要項にもとづき学長が指名する学部長
		FD研究部会						原田	26-27北川　28-29河口　30山城　R1笠井　R2-3心理
	教職課程委員会			松本風	○三橋 川端			貴志	○ 教務部関係　4名（任期2年：R2,3年度） ○ 教職科目担当　3名(内2名は児童学科, 1名は心理学科) ○ 学部代表　1名(教職免許取得者の多い学科) 生活と栄養が交互(29, 30年度：生活)（31, R2年度：食栄）
	倫理審査委員会		藤田	石堂					○ 教育研究支援部関係2名（任期2年）　R2-3年度も留任 石堂委員長・藤田副委員長（医師1名, その他1名）＊
	研究者倫理教育委員会							岡林	任期2年, 30-R1年度藤田, R2-3年度心理学科＊
	選挙管理委員会					古本			総務関係　1名(任期1年：隔年)　＊　29-30岡部 R1,2年度古本
	退学者防止対策検討委員会		竹原	中川	岡山	山城	川村	小板	各学科から1名
	広報担当委員会		竹内	坂井堅					学部広報委員会の正・副委員長とする（教育・研究年報）。 28,29年度：児童・メ, 30,R1年度：建築・心理, R2,3年度：人生, 食栄
	自己点検・評価委員会（認証評価委員会）		岡部	石堂	河口	篠原	森岡	青木	R1年度7月提出の改善報告書, R3年度第3回自己点検評価報告書（中間報告）の作成のため R2年度も学科長。
	自己点検・評価実施委員会			小川	岡			中津	主要学科（食栄, 児童, 心理）から1名
	新入生セミナー運営委員会	2020年度実施	藤田 竹内	小川 坂井隆	金子 林	長濱 加治	池田 笠井	小板 貴志	○各学科より2名を選出して構成する。（半数を前年度委員とする） ○任期2年。実施委員会(委員長は学部長)委員を兼ねる。 ○任期は翌年の実施後のアンケート処理までとする。
		2021年度実施	藤田 池添	坂井隆 森川	林 那住	山城 長濱	川村 池田	土中 貴志	
	チーム医療促進委員会			坂井隆 森川				中津	委員長　＊ 医師, 管理栄養士, 臨床心理士各1名
	実験動物委員会			石堂					喜多委員長　＊
	組み替えDNA委員会			石堂					石堂委員長　＊
	○上記の委員は, 各委員会に出席し, その内容を学部教授会において報告・連絡するとともに, 必要に応じて議案を提出するなどして, それぞれの責務において速やかな対応を図るように努める。同時に, 学部の関連する委員会とも密接な連携を図る。 ＊　学部長指名								

表２　令和２年度委員一覧（人間生活学部各種委員会）

2020 年 4 月 16 日現在

区分	委員会＼学科	各学科委員						備　　考
		人間生活	食物栄養	児童	メディアデザイン	建築デザイン	心理	
人間生活学部委員会	教務委員会 （学科長）	岡部	石堂	河口	篠原	森岡	◎青木	○各委員は、所属学科のカリキュラムの実情を十分に把握したうえで学科間のカリキュラム調整を行う。 ○ 委員長は全学教務委員を兼ね他学部学科・教務部との調整をする。
	教育研究委員会 （各学科1名）	○ 藤田	◎近藤	三橋	加治	山田	岡林	○ 教員の研究発表会を運営する（発表者の選出、計画, 実施） ○ 学生による授業評価や研究授業等に関する運営全般を行う。 ○ 図書購入の申請リスト作成等を行う（年2回）,など。
	入学試験委員会 （各学科1名）	竹原	坂井隆	津守	山城	山田	◎小板	○ 委員長は全学入試委員を兼ねる。 （30,R1年度食栄・粟飯原、R2,3年度心理・小板）
	自己点検・自己評価委員会 （各学科1名）	池添	小川	◎岡	加治	池田	中津	○主要学科委員は自己点検評価書の作成を行う実施委員を兼ねる。 （年間を通じての計画作成・実施など） ○ 原則として、年1回（3月頃）報告書を作成する（授業評価、研究授業、研究発表、就職状況、各科スタンダードの達成状況、新入生のイメージ調査の概要、共同研究の概要、社会的活動や業績など）
	学生指導委員会 （各学科1名）	池添	岩田	◎松本有	長濱	川村	小板	○ 委員長は、学生指導協議会の委員も兼ねる。 ○ 学生生活に関する各種調査を実施し、学生の生活指導に役立つよう、報告書を作成する。 ○ クラス担任及びチューターの学生指導に関する内容をまとめたり、必要に応じて問題提起を行う、など。
	広報担当委員会 （各学科1～2名）	○ 竹内 池添	◎坂井堅 粟飯原	西原	古本 山城	池田	福本	○委員長・副委員長は広報担当委員会の委員も兼ねる。 ○広報誌（専攻科, 大学院含む）の作成を担当する。（入試広報部と連携） ○ホームページ（専攻科, 大学院含む）の作成や修正を行い、常に新しい情報を収集して入試広報部に依頼しHPに掲載する。 ○入試広報部と連携して高校訪問等の広報活動を企画運営する。
	教員養成対策委員会	岡部	石堂	河口	篠原	◎森田 森岡	青木	○学部長及び学科長をもって構成する。 ○委員長は学部長とする。
	教員養成推進委員会 （各学科1名）	○竹原	松本萬	◎三橋	長濱	川村	貴志	○委員長は必要に応じて学部の教員養成対策委員会に出席できる。 ○委員会は教員養成向上のため、学部の教員養成対策委員会及び全学共通教育センターと連携を取り合って、必要事項についての円滑な実施を図る。 ○各種の校外実習（教育・保育・臨地実習等）を充実させるため、教育実習の手引き等を参考にして、その趣旨の徹底化を促す。 ○必要に応じてアンケート調査等を実施し、実習における事前・事後指導を含む問題点を明確にするとともに、その改善策を提示するなど。
	就職支援委員	竹原	亀村	那住	山城	森岡	◎渡邉	○委員長は全学就職支援委員会の学部委員を兼ねる。各学科1名。
	中期目標策定委員会	岡部	石堂	河口	篠原	◎森田 森岡	青木	○委員長は学部長が務め, 委員は学科長が務める。 ○学園本部企画部の指示にしたがい2020年度から策定する。
	通路ウォーク委員	池添	森川	林・那住	（山城）	池田	貴志	○新入生セミナー運営委員会委員が兼務してよい。
	災害時初期対応者	岡部	石堂 粟飯原 坂井堅	三橋 林 岡	篠原	山田	中津 青木	選出条件：大学から近距離に住み, 災害時に大学へ駆けつけられる。
	保護者会とりまとめ			河口				○学科長1年任期 H29中津 H30岡部 R1石堂 R2河口
	履修ガイド（学科長） R2年度		石堂					○学科長1年任期 H30中津 H31岡部 R2石堂 R3河口
	履修ガイド（学科長） R3年度			河口				

○任期中に欠員が生じた場合、残任期間について補充することを原則とする。
○各委員会においては、委員長及び副委員長を選出し、職務が円滑に遂行されるようにする。
○各委員会の委員長は、年間の活動状況（委員会開催の日時、活動の概要、各委員の参加状況等）を別紙の様式にしたがって記載し, 毎年学部長および自己点検・自己評価委員会委員長に提出し,「教育・研究年報」に活動状況を報告する（2月中に提出）。
○全学的委員の交替については、原則として人間生活学科、食物栄養学科、児童学科、メディアデザイン学科、建築デザイン学科、心理学科の順とする。なお、各委員は、学部教授会で、必要に応じて当該委員会での報告等を行う。

◎ 委員長　　○ 副委員長

令和２年度　人間生活学部教務委員会活動報告

全学教務委員会委員
青木　宏

令和２年度は全学教務委員会を２回開催することとなっており，１回目は令和３年１月２１日に開催され，２回目は令和３年３月２３日に開催予定である。

１　令和２年度第１回全学教務委員会

（１）　ナンバリングについて

２０２１年度入学生の一般総合科目と専門教育科目から科目ナンバーを表示することとする。具体的には，シラバス備考欄に記入するとともに，学生ポータルサイトにも表示する。

（２）　ＧＰＡによる個別指導基準について

ＧＰＡによる個別指導基準を各学科で定め，給付型奨学金の「警告」前に指導を行う（給付型奨学金受給者以外にも同基準で指導する）こととしているが，各学科の個別指導基準は，「警告」の条件である「累積ＧＰＡ値下位１／４」をかなり下回っている場合が多い。ついては，「累積ＧＰＡ値下位１／４」の範囲をカバーできる程度に基準を再検討する必要がある。今後，各学科に依頼する。

（３）　学習行動等調査結果について

前回調査の結果が伝達され，遠隔授業の影響が様々な形で表れていることが明らかになった。今後も同調査を実施し，教育活動の見直しに活用することとなった。

（４）　シラバス記載事項について

シラバスに明記する内容として，当該授業の教育課程内の位置付けを示す科目ナンバー，試験やレポート等に対するフィードバックの方法が追加された。加えて，今後も遠隔授業となる可能性を考慮し，グーグルクラスルームのクラスコードも記入することとなった。

令和２年度　人間生活学部教育研究委員会報告

教育研究委員会委員長
近藤　美樹

Ⅰ　委員会の目的

１．図書（図書館収蔵）購入に関する事務を取り扱う：大学院生・学部生の勉学に資するため、図書館の収蔵する図書を各委員から推薦して頂き、委員会がとりまとめて購入申請を行う。

２．「新任教員の研究紹介」発表会（年１回）を実施する：学部に新たに着任された教員の研究領域、業績、今後の教育・研究の展望を発表して頂く会を実施する。日時・場所の設定、発表者への依頼、抄録集の作成、当日の運営を行う。

Ⅱ　委員会の構成

１．各学科より１名を選出して構成する。図書申請は大学院の図書も含まれるため、大学院担当の教員（各専攻１名）が必ず含まれることとする。

２．令和２年度委員

〇藤田義彦（人間生活学科）、◎近藤美樹（食物栄養学科）、三橋謙一郎（児童学科）、加治芳雄（メディアデザイン学科）、山田實（建築デザイン学科）、岡林春雄（心理学科）

［◎印：委員長、〇印：副委員長］【 敬称略 】

３．役割：図書申請（ 藤田 ）

「新任教員の研究紹介」発表会

（会場：加治、司会・運営：岡林、山田、抄録作成等：三橋、藤田、近藤）

Ⅲ　委員会開催の概要

第１回教育研究委員会

日　時：令和２年６月２日（火）16:20～17:00

場　所：１号館９階（大学院演習室②）

出席者：藤田（副委員長・人間生活学科）、近藤（委員長・司会・食物栄養学科）、三橋（児童学科）、加治（メディアデザイン学科）、山田（建築デザイン学科）、岡林（心理学科）【敬称略】

議題

１．図書申請について

（１）大学及び大学院担当：藤田（副委員長）が担当する。

（２）申請時期：第Ⅰ期（7 月）、第Ⅱ期（10 月）、予備（第Ⅲ期 12 月）

（３）広報：６月の学部教授会

山田委員から、前年度の申請概要および申請手続きの方法について説明が行われた。また、購入にかかる予算を執行する上で、多くの申請が出される必要性があることが補足された。

２．新任教員の研究発表会について

今年度もこれまでと同様に、実施することになった。

（１）発表対象者

協議の結果、次の７名（敬称略）が今回の発表者として選出された。なお、事務職兼務および助教の先生は対象としない。

① 人間生活学科：池添 純子

② 児童学科　　：森 万里子

③ メディア学科：加治 芳雄

④ 心理学科：福本 浩行、土中 幸宏、原田 耕太郎、松本 新功

（２）日程：9 月 8 日（火）学部教授会終了後

（３）場所：図書館 3 階 AV ホール（学部教授会と同じ場所）
（４）担当（敬称略）
①司会（タイムキーパーを含む）：岡林、山田
②資料作成 3 名：三橋、藤田、近藤
③会場設営 1 名：加治
（５）発表形式：15 分（質疑応答も含めて）

以上について協議された。

Ⅳ　図書購入申請の概要

主に 7 月と 10 月の II 期で購入申請を行った。予備のⅢ期は、これまでの申請のうち、欠品・絶版等で本年度の入手が困難と判断された差額分を補充した。人間生活学部全教員からの購入希望図書を集約し、購入申請を行った。

	予算	執行金額	冊数
学部図書	5,000,000 円	4,999,931 円	678 冊(DVD 含む)
大学院図書	700,000 円	699,949 円	22 冊(DVD 含む)

Ⅴ　活動のまとめ

図書申請と新任教員の研究発表の 2 件を中心に活動を行った。図書申請については、例年よりも第Ⅱ期までに多くの申請が行われた。購入希望冊数は、最終的にほぼ予算通りであったため、学科間の調整無しで購入申請することができた。新任教員の研究紹介については、発表対象者を教授、准教授、講師とした。本年度は対象者 7 名となり、9603 教室にて実施した。

令和２年度人間生活学部入試委員会

入試委員会委員長
小板　清文

Ⅰ　委員会の目的

① 学生確保に資する方策を検討する。
② 人間生活学部における入学試験に関する事項について、学科間の意見を調整し、学部教授会にて承認を得る。
③ 特別推薦入学試験（１年次、３年次編入）における指定校への申請および辞退または取消しの可否を検討する。
④ 全学入試制度検討委員会および全学入試委員会と人間生活学部教授会との円滑な情報交換に資する。
⑤ 学務入試グループと連携を図る。

Ⅱ　入試委員会の活動概要

（１） 構成メンバー

委員長：小板（心理）
委員：竹原（人間生活）、坂井(隆)（食栄）、山城（メディア）、山田（建築デザイン）、小板（心理）
全学入試委員会委員：小板（心理）
共通テスト担当：津守（児童）

（２） 主な作業

・入試要項の確認
　各学科に入試要項の校正を依頼、取りまとめ
・地方試験場派遣者の検討・決定
　地方試験場派遣者の選出を各学科へ依頼、取りまとめ
・入試問題仕分け作業
・各種入試志願者の情報確認
　各種入試志願者の情報確認を各学科に依頼
・各種入試合否判定
　各種入試の合格者数、合格得点率などのデータ入力
・全学入試委員会への参加
　来年度入試改革の検討
・大学入試センター試験（共通テスト）業務
　試験監督割振り、試験会場準備、試験実施および実施後の処理など
・学務入試グループとの連携：
　総合型選抜入試面談日固定案の検討
　共通テスト試験業務：準備、実施他

（３） 活動のまとめ

入試委員長および全学入試委員は、年度内に複数回の各種入試に対応する必要があり、かつ人間生活学部は学科数が多く、入試業務は多岐にわたった。本年度から、新型コロナ感染症対策が必要な中、より一層スムーズに業務処理が行えるよう努めた。

令和 2 年度　学生指導・支援委員会報告

学生指導・支援委員会委員長
松本　有貴

Ⅰ　委員会の目的

全ての学生が学生生活の充実をはかり、実りある大学生活を送れるようにその方策を検討する。

Ⅱ　委員会の構成

1.　各学科より 1 名を選出して構成する。
2.　令和 2 年度委員
池添純子(人間生活学科)、岩田深也(食物栄養学科)、〇松本有貴(児童学科)、長濱太造(メディアデザイン学科)、川村恭平(建築デザイン学科)、小板清文(心理学科)[〇印:委員長]【敬称略】

Ⅲ　委員会開催の概要

1.　第 1 回学生指導・支援委員会

日時:7 月 30 日　メール会議まとめ:アンケート内容の議論①

全学的委員会から、新しい仕事が来ないのであれば、新型コロナウイルス感染症の影響で、学生の倶楽部・サークル活動がどの様な影響を受けたのかを数値化するという意味で、昨年度までと同様の調査を実施するというのもひとつの案だと考える。昨年度と比較するという意味では調査内容を変更しない方が好ましいが、やめた理由には次のような項目を追加する必要があると考える。「コロナの影響で」「コロナの影響で活動回数が減り、興味がなくなった」「コロナの影響で経済的に余裕がなくなり、アルバイトを始めた」など。

コロナ禍の混乱下，例えば，「授業アンケート」の中で自由記述されていた，遠隔配信授業中，学生が体験した苦労や工夫，教員や大学への要望などについて，集計してみる。

今までと少し形を変えてみるべきかもしれない。生の声が聞ける方法を探る。学生の顔は出さず、匿名で、本音を言ってもらう方が良いのではないか。ここで得られた意見を報告としてまとめる。背景として、現在の学生たちは、高校までは教科書に沿って勉強し、理解の度合いを学期末試験で確認し、ただ与えられた問題に対する正解を求める事集中してきた。しかし、大学に入ると自らの力で課題を見つけ、その解答を模索し、更には創造したりする能力が求められる。これが可能となるには大学での講義をきちんと受講することは勿論であるが、高校とは比較できないほど整った図書館や PC ルームといった環境を活かし、プラスアルファの時間や活動を見出すことが求められるわけである。

2.　第 2 回学生指導・支援委員会

日時:8 月 17 日　メール会議まとめ:アンケート内容の議論②

①　どの案を中核にしたアンケート調査が望ましいか。

1 案:新型コロナウイルス感染症の影響で、学生の倶楽部・サークル活動がどの様な影響を受けたのかを数値化するという意味で、昨年度までと同様の調査を実施する。
2 案:コロナ禍の混乱下，例えば，「授業アンケート」の中で自由記述されていた，遠隔配信授業中，学生が体験した苦労や工夫，教員や大学への要望などについて，集計してみる。
3 案:理事長、学長を交えた学生討論会のようなものを企画してはいかがだろうか。

⇒1 案に 2 案を加味する方向で、全学の委員会後に決定する。

② 9 月 14 日に全学の委員会で今年度の方向が決まってから決定するにあたり、
・一応、学部委員会の方針は決めておく。
・全学的に実施される学生に対するコロナ禍の生活のフォロー等に、今年度の調査に関連する活動案がでそうな場合は、9/14 以降に方針決定する（重複する内容の調査が他で行われる場合、回答者への負担ともなるため）。

③ 今後の会議の持ち方は、メール会議を進めていき、必要に応じてウェブ上の会議を持つ。
⇒しばらくはメール会議。1 回ほど会議かウェブ会議を持つ。

3. **第 3 回学生指導・支援委員会**

日時：令和 2 年 10 月 6 日（火） 15 時から 16 時
場所：9 号館 8 階ゼミ室 1
出席者：池添、岩田、長濱、川村、松本（司会、記録）

協議内容
① 報告
1） 学生支援課より 友人関係・障害を持つ学生への支援・相談アクセスなど調査予定
2） その他 コロナ禍での学生のストレス

② アンケートの検討と作業分担
目的
コロナ禍の影響により、遠隔授業や外出自粛を余儀なくされている学生の現在の状況や課題を調査し、今後の授業や生活に対する支援の参考とする。

内容
・コロナ禍という現状に即した内容にする
コロナ禍による生活への影響について
コロナ禍による家計への影響について
遠隔授業の実施や通常授業の再開について
大学のコロナ感染症対策について
・6 カテゴリーを設定し、各カテゴリーで 4 問くらいの 2～5 択の質問を準備する。
・担当したカテゴリーの質問を考えて検討し決定する。
・締め切りは 10 月 31 日とする。

a クラブ・サークル活動 松本
b 友人・ネットワーク 岩田委員
c 相談・サポート 池添委員
d 遠隔授業 川村委員
e 学習 川村委員
f ストレス・不安 岩田委員
g データ入力準備 長濱委員

③ メール会議で共有しながら検討を進めるが、必要に応じて会議を持つ。

4. 第 4 回学生指導委員会

日時：令和 3 年 2 月 1 日(月) 13 時から 14 時 30 分
場所：9 号館 8 階 ゼミ室 1
出席者：池添、岩田、川村、長濱、小板、松本（司会、記録）

協議内容

① 令和 2 年度アンケート結果を長濱委員のまとめをもとに内容を検討する。

・分析方法

回答者属性（性別、住居、学年）による特徴を分析し、学科別の特徴は調べない。

その他、無回答は除外して分析する。資料 1：単純集計　2：自由記述　3：等質性分析

・今回のアンケートは回答者属性を除くと 22 問あり、その半数が複数回答の設問である。

・複数回答データは、いわゆる「検定」ができない。

・複数回答データに対して唯一実施可能な等質性分析（SPSS では多重応答分析）で特徴を把握する。

・単数回答に対しても等質性分析は実施できる。

・半数は独立性の検定、半数は等質性分析という方法もあるが、結果をシンプルに把握するため、今回は属性（性別、住居、学年）×22 問を全て等質性分析で分析する。

・等質性分析

・散布図上に似ている変数同士を近くに配置する。

・原点付近は属性にかかわらず選択数が多い項目が配置される→特徴が無い項目である。

・単数回答と複数回答を同時に分析可能である。

・（有意水準 0.05 のような）明確な基準はない。

・選択者数が極端に少ない項目は、「外れ値」として分析から外した方が良い。

・例にあるようなコメント（吹き出し部分）を出し合い、報告書の素材にする。

② 結果の閲覧について

学生には、単純集計表を、2 月 19 日（金）から 3 月 31 日（水）までの間、学内のコンピュータ室のパソコンで、 以下のフォルダを開いて閲覧することができる。

マイコンピュータ　→　読込み専用領域(Z)　→　人間生活学部_学生指導委員会

教職員と一般の皆様に対しては、年報にまとめを報告する。

③ その他

年報に掲載するだけでなく、結果を学部で共有する機会を探る。

機会が得られた場合には、岩田委員が発表を担当する。

Ⅳ アンケート結果と考察

2020年度学生アンケート　集計の等質性分析による検討（関連する自由記述を記載）

性別、学年、実家か下宿かの属性による有意な相違があるかどうかを等質性分析で検討した。

Q1　あなたが所属する学科をお選びください

	在籍者数	回答者数	回答率%	構成割合%
人間生活学科	88	130	147.7	17.3
食物栄養学科	236	113	47.9	15.0
児童学科	267	201	75.3	26.7
メディアデザイン学科	83	61	73.5	8.1
建築デザイン学科	192	130	67.7	17.3
心理学科	329	118	35.9	15.7
6学科合計	1195	753	63.0	100.0

他学科の学生が人間生活学科を選択しており、回答者数・回答率が本来より高くなっている。
全体で63%の回答率は高いと評価できる（昨年度は62.6%）。

Q2　あなたの性別をお選びください

	人数	構成割合％
女性	492	65.3
男性	261	34.7
合計	753	100.0

Q3　あなたの現在の住まいをお選びください

	人数	構成割合％
実家	360	47.8
下宿（一人暮らし）	375	49.8
学寮	10	1.3
その他	8	1.1
合計	753	100.0

1人暮らしか（49.8％）そうでないか（50.2％）の分類では2群はほぼ同じ比率である。

Q4　あなたの学年をお選びください

	人数	構成割合％
１年生	215	28.6
２年生	191	25.4
３年生	182	24.2
４年生	164	21.8
その他	1	0.1
合計	753	100.0

Q5　クラブやサークルへの所属状況をお選びください

	人数	構成割合％
1.クラブに所属	204	27.1
2.同好会・サークルに所属	104	13.8
3.以前は所属していたが、今は所属していない	127	16.9
4.今まで一度も所属したことはない	318	42.2
合計	753	100.0

「クラブに所属」と「同好会・サークルに所属」の合計は、
今年度（40.9％）は昨年度（47.7％）より低くなった。
「今まで一度も所属したことはない」は昨年度35.6％。
2年生は所属、1年生は所属したことがない、が高い。実家より下宿に所属が高い。

Q6　２年生以上の学生で、クラブ・サークル等に所属している方におたずねします
　　昨年度と今年度を比較して、活動頻度の状況をお選びください

	人数	構成割合％
1.同じくらいできている	27	11.9
2.どちらかというと減った	48	21.1
3.約半分になった	27	11.9
4.かなり減った	89	39.2
5.全くできていない	33	14.5
無回答	3	1.3
合計	227	100.0

※対象：２年生以上でクラブ、同好会、サークルに所属している学生227人
2年生は「同じくらいできている」を選択した学生が多い。

Q7　クラブ・サークル等の活動で困っていることは何ですか？（全学年対象；複数回答可）
（2年以上でクラブ・サークルに所属している学生対象；複数回答可）

	選択数	選択率%
1.今後の活動の見通しがつかない	87	38.3
2.毎年行っていた行事など実施できない	151	66.5
3.活動場所を確保できない	18	7.9
4.部員同士で連絡や相談ができない	10	4.4
5.部員数が大きく減少した	35	15.4
6.困っていない	96	42.3
その他	10	4.4
合計	407	179.3

※対象：2年生以上でクラブ、同好会、サークルに所属している学生227人
属性による違いはみられない。
自由記述：どんなクラブ・サークル等があるのかわからない。
自由記述：1年生との繋がりが急激に減ってしまった。

Q8　あなたは主としてどのような機器で遠隔授業を受けていましたか？（複数回答可）

	選択数	選択率%
1.パソコン	585	77.7
2.スマートフォン	542	72.0
3.タブレット	7	0.9
合計	1134	150.6

属性による違いはみられない。

Q9　あなたの住まいのネットワーク環境（Wi-Fi、有線LAN、携帯電話（テザリングを含む））はどうですか？

	人数	構成割合%
1.データ通信量が無制限で、安定してつながるので、不安は無い。	355	47.1
2.データ通信量は無制限だが、つながらないことがあるので、やや不安がある。	228	30.3
3.安定してつながるが、データ通信量に制限（上限）があるので、やや不安がある。	114	15.1
4.データ通信量に制限（上限）があり、つながらないことがあるので、不安がある。	45	6.0
5.遠隔授業を受講できる機器の環境は整っていない。	3	0.4
無回答	8	1.1
合計	753	100.0

属性による違いはみられない。

Q10　あなたが受けていた遠隔授業はどのようなものですか？（複数回答可）

	選択数	選択率%
1.GoogleClassRoomによるリアルタイムの授業	739	98.1
2.GoogleMeetによるリアルタイムの授業	433	57.5
3.ビデオ配信による授業	181	24.0
その他	2	0.3
合計	1355	179.9

属性による違いはみられない。

Q11　遠隔授業は対面授業に比べると印象はどうですか？

	人数	構成割合%
1.対面授業より大変である	285	37.8
2.対面授業より容易である	421	55.9
その他	40	5.3
無回答	7	0.9
合計	753	100.0

属性による違いはみられない。
自由記述：意見は言いやすいと感じた・なれると大変ではなかった・質問がしやすかった
自由記述：実技は大変だった・課題や設定が多すぎた・対面より分かりにくい

Q12　遠隔授業は、対面授業と比べて学習効果はありましたか？

	人数	構成割合%
1.かなり効果があった	77	10.2
2.何らかの効果があった	198	26.3
3.どちらともいえない	294	39.0
4.あまり効果がなかった	156	20.7
5.全く効果がなかった	24	3.2
その他	1	0.1
無回答	3	0.4
合計	753	100.0

2年生は「かなり効果があった」「何らかの効果があった」、3年生は「どちらともいえない」、
4年生は「あまり効果がなかった」の回答率が高い。
自由記述：テスト勉強がやりやすかった

Q13　遠隔授業では、教員とのコミュニケーションは取れていましたか？

	人数	構成割合%
1.全く取れていない	125	16.6
2.ある程度取れていた	589	78.2
3.よく取れていた	33	4.4
その他	4	0.5
無回答	2	0.3
合計	753	100.0

属性に違いはみられない。
自由記述：授業や教員による。

Q14　今後の遠隔授業について、あなたはどう考えますか？

	人数	構成割合%
1.遠隔授業を拡大してほしい	154	20.5
2.遠隔授業と対面授業を併用してほしい	412	54.7
3.対面授業だけでよい	170	22.6
その他	12	1.6
無回答	5	0.7
合計	753	100.0

1年生は「遠隔授業を拡大してほしい」、4年生は「3.対面授業だけでよい」の回答率が高い。
自由記述：感染予防のため遠隔がいい・動画による遠隔授業がいい
自由記述：授業内容の濃厚さは圧倒的に対面がいい。

Q15　大学の休みの日には主に何をしていますか？（複数回答可）

	選択数	選択率%
1.自宅で友人や家族と一緒に過ごす	338	44.9
2.自宅で一人で過ごす	426	56.6
3.自宅で一人だが、ネットで繋がるゲームや電話で誰かとつながっている	167	22.2
4.大学のクラブサークル活動に参加している	100	13.3
5.大学で勉強や研究活動をしている	50	6.6
6.友人や家族と一緒に出かける	263	34.9
7.一人で出かける	198	26.3
8.アルバイト	76	10.1
その他	8	1.1
合計	1626	215.9

実家で生活する学生は「自宅で友人や家族と一緒に過ごす」「友人や家族と一緒に出かける」、
下宿生は「自宅で一人で過ごす」の回答率が高い。
自由記述：教習所・ボランティア・スポーツクラブ・習い事・図書館・大学以外の勉強

Q16　今年度になり大学内で新しい友人はできましたか？（複数回答可）

	選択数	選択率%
1.学科（授業）が一緒になった	384	51.0
2.出身地が一緒だったことがきっかけで	109	14.5
3.クラブ・サークルが一緒になった	174	23.1
4.マンション等近所に住んでいる	29	3.9
5.バイト先が一緒になった	161	21.4
6.もともとの友人の紹介	111	14.7
7.LINEでつながる友人ができた	72	9.6
8.できていない	57	7.6
その他	5	0.7
合計	1102	146.3

属性による違いはみられない。
自由記述：採用試験対策・介護体験・グループ活動などの機会

Q17　今も交流がある徳島文理大学生以外の友人はいますか？（複数回答可）

	選択数	選択率%
1.中・高時代の友人と今も交流がある	621	82.5
2.文理大学以外のクラブ・サークルで友人がいる	75	10.0
3.趣味の集まりでできた友人がいる	125	16.6
4.マンション等近所に住んでいることがきっかけでできた友人がいる	14	1.9
5.バイト先が一緒になったことがきっかけでできた友人がいる	189	25.1
6.会う前にSNS等インターネットがきっかけでできた友人がいる（対面したことあり）	65	8.6
7.会ったことはないがSNS等インターネットでつながる友人がいる（対面したことなし）	85	11.3
8.宗教等の勧誘でできた友人がいる	2	0.3
9.いない	13	1.7
その他	6	0.8
合計	1195	158.7

属性による違いはみられない。「いない」が1.7%という実態がある。
自由記述：留学・バイク・前の学科や大学・ボランティア・自動車教習所の友人

Q18　何か不安なことはありますか？（複数回答可）

	選択数	選択率%
1.一日中誰とも話をしない日があり、不安・不満が溜まっている	60	8.0
2.起きられるのかなど生活習慣の乱れが心配だ	257	34.1
3.コロナ不況で、親からの仕送りが減りそうで不安だ	27	3.6
4.バイトをやろうと思っても、選択肢や募集自体が少ない	117	15.5
5.大学を続けられるかどうか不安だ	46	6.1
6.楽しい大学生活を過ごせるか心配だ	169	22.4
7.夜色々と考えて眠れなくなる	116	15.4
8.進路就職活動	14	1.9
9.特にない	290	38.5
その他	13	1.7
合計	1109	147.3

属性による違いはみられない。「コロナ不況で、親からの仕送りが減りそうで不安だ」
「バイトをやろうと思っても、選択肢や募集自体が少ない」「大学を続けられるかどうか不安だ」
と経済的な不安が高い様子がうかがえる。
自由記述：自粛生活にストレスを感じる・何事にもやる気がでない

Q19　コロナ感染関連の不安・ストレスはありますか？（複数回答可）

	選択数	選択率%
1.スーパー等に買い物に出ても、コロナに感染しないか心配だ	184	24.4
2.大学構内まで行けても、教室内は密の様な気がして不安だ	180	23.9
3.少し咳が出ても、ちょっと体がだるくてもコロナではないかと不安になる	188	25.0
4.PCR検査を受けてみたいが費用が掛かり過ぎてできないので不安だ	57	7.6
5.抗体検査程度は受けておきたいが費用の面でできないので不安だ	51	6.8
6.自分の部屋以外、ドアノブ等に素手で触れなくなった	29	3.9
7.特にない	324	43.0
その他	29	3.9
合計	1042	138.4

属性による違いはみられない。
「PCR検査を受けてみたいが費用が掛かり過ぎてできないので不安だ」、
「抗体検査程度は受けておきたいが費用の面でできないので不安だ」、
「自分の部屋以外、ドアノブ等に素手で触れなくなった」は
他の選択肢より多くはないが、理解が必要である。
自由記述：学生間では意外と密になっている・感染したらだめという責任感からストレス

Q20　ストレスを抱えて体調はいかがですか？（複数回答可）

	選択数	選択率%
1.頭痛や腹痛食欲不振がある	104	13.8
2.教科書や本を読み通す気力がない	95	12.6
3.将来の事を考えると動悸が激しくなる	79	10.5
4.寝起きなど規則正しくできなくなってきた	152	20.2
5.何も考えていないのになぜか涙が	54	7.2
6.以前は無かったが、気づくとぼんやり	129	17.1
7.体調不良はない	405	53.8
その他	11	1.5
合計	1029	136.7

属性による違いはみられない。
自由記述：心因性嘔吐・夜眠れない・手が震える・気分に波がある・肌の状態

Q21　コロナの感染がないときと比べ、あなたのストレスの度合いはどの程度ですか？

	人数	構成割合%
1.とてもストレスや不安を感じている	144	19.1
2.少しストレスや不安を感じている	312	41.4
3.どちらともいえない	167	22.2
4.あまりストレスや不安を感じていない	69	9.2
5.ストレスや不安を全く感じていない	52	6.9
無回答	9	1.2
合計	753	100.0

3年生と女性は「とてもストレスや不安を感じている」、1年生は「どちらともいえない」、
4年生と男性は「ストレスや不安を全く感じていない」の回答率が高い。

Q22　生活面で不安を感じた時や困ったときに、あなたはどのような行動を取っていますか？

	人数	構成割合%
1.誰かに相談する	317	42.1
2.テレビのニュースや新聞で情報収集をする	28	3.7
3.インターネットで情報収集をする	131	17.4
4.場面によって使い分けている	164	21.8
5.何もしない	101	13.4
その他	7	0.9
無回答	5	0.7
合計	753	100.0

女性は「誰かに相談する」、男性は「インターネットで情報収集」の回答率が高い。
学年、住居では差がみられない。
自由記述には多様な対応策が書かれ自己統制の努力がみられる。

Q23　生活面で不安を感じた時や困ったときに、相談（話し）相手になってくれる人は誰ですか？（複数回答可）

	選択数	選択率%
1.家族親戚	539	71.6
2.大学の友人	485	64.4
3.大学以外の友人	336	44.6
4.大学の先生	86	11.4
5.大学の相談窓口	10	1.3
6.カウンセリング等の専門家	16	2.1
7.相談相手はいない	52	6.9
その他	14	1.9
合計	1538	204.2

属性による違いは見られない。6.9%が相談相手がいないと回答。
自由記述：恋人・先輩・知人・ボランティア先・学生支援の先生・友人・自分自身

Q24　誰かに相談する場合、どのような方法で連絡を取りますか？

	人数	構成割合%
1.直接会っている	235	31.2
2.電話など「声」が中心	203	27.0
3.SNSやLINEなど「文字やチャット等」が中心	130	17.3
4.ZOOMなど「顔が見えるシステム」を活用	5	0.7
5.場面によって使い分けている	123	16.3
6.相談しない	49	6.5
無回答	8	1.1
合計	753	100.0

実家で暮らす学生は「直接会っている」、下宿生は「電話など「声」が中心」の回答率が高い。

Q25　本学保健センターには、心身の健康をサポートする相談日
（臨床心理士によるカウンセリングや校医による健康相談）があることを知っていますか？

	人数	構成割合%
1.知っていて利用したことがある	32	4.2
2.知っているが利用したことはない	342	45.4
3.知らなかった	372	49.4
無回答	7	0.9
合計	753	100.0

属性による違いは見られない。「知っているが利用したことはない」（45.4%）と
「知らなかった」（49.4%）に対応が必要であると思われる。

Q26　生活面で不安を感じた時や困ったときの大学におけるサポート体制として、
強化してほしいものはありますか？（複数回答可）

	選択数	選択率%
1.専門家へ相談できる窓口	228	30.3
2.学生支援課からのサポート	295	39.2
3.大学教員からのサポート	300	39.8
4.学内外で相談できる窓口の情報	161	21.4
その他	6	0.8
合計	990	131.5

実家で暮らす学生は「専門家へ相談できる窓口」と「学内外で相談できる窓口の情報」、
下宿生は「学生支援課からのサポート」と「大学教員からのサポート」の回答率が
高い傾向が見られる。
自由記述：大学に複数のカウンセラーの人がいてほしい・学費免除や給付金

V　総括

本年度のアンケート調査は、学生ポータルの「お知らせ」で人間生活学部学生に連絡するとともに、各学科のご協力のもと実施することができた。全員回答には至らなかったが、高い回答率が得られたと評価できる。本アンケート結果は、あくまでも回答者の意見ではあるが、コロナ禍の学生生活を理解し、今後の学生指導・支援に役立てることができると期待するものである。

本年度は、人間生活学部長のご高配により、2 月の学部教授会の場でアンケート結果を共有する機会をいただくことができた。委員会一同より、各学部の先生方、学生の皆様に深く御礼を申し上げる。

令和２年度　人間生活学部広報担当委員会活動報告

広報担当委員会委員長　坂井堅太郎

１．はじめに

人間生活学部広報担当委員会は、学部６学科から各１・２名、計９名の委員により構成され、入試広報部との連携のもと、大学案内やホームページの作成、各種の広報活動を行っている。令和２年度は委員会を１回開催し、その後もメール等で情報共有を行った。

２．2020 年度　第１回人間生活学部広報担当委員会

日時：令和２年 11 月 10 日（火）16 時 20 分～17 時

場所：１号館 10 階大学院講義室

出席者：竹内理恵（人生）、池添純子（人生）、粟飯原乙起（食栄）、古本奈奈代（メディア）、山城新吾（メディア）、池田文夫（建築）、福本浩行（心理）

委員長（進行）：坂井堅太郎（食栄）　委任状：西原正純（児童）

議題：

１）Blogn による学部・学科ホームページについて

・大学 HP（Word Press）の各学科から Blogn による学科運営サイトへのリンクは消去され、実質的に Blogn での情報発信は終了していることが確認された。このことにより、令和２年末までに、各学科で Blogn 内に保存されている必要な情報はバックアップしてもらい、その後、Blogn による情報の消去を入試広報部にも協力をしていただき、完全に撤退することとした。

・学部 HP についても、公開義務のある教育・研究年報（2018 年度・2019 年度）を Word Press による HP に移行し、Blogn による運営サイトへのリンクを消去したことが坂井委員長から報告された。

２）その他

・Blogn による大学院人間生活学部研究科運営サイトの情報に関しては、公開義務のある「博士学位論文」、「博士論文の内容の要旨および博士論文審査の結果の要旨」を Word Press に移行し、森田研究科長と相談しながら、Blogn から撤退していく方向で進めていることが坂井委員長から報告された。

３．各学科のホームページ投稿実績、新聞・テレビ・雑誌等各種メディアでの掲載・紹介実績、その他各学科独自広報活動（純粋な学外実習や社旗貢献活動とは別）について

【人間生活学科】

○ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数（2020.4～2021.1 末時点）

学科の特徴と魅力：学科情報（資格等）5，学科イベント 5，授業紹介 7

入学式：1　卒業式・卒業生：3　学科だより：6　オープンキャンパス：8

教員採用・就職：7　　計 42 件

○学科紹介動画の作成

・第一弾動画では、スライドショーによる学科紹介動画を作成し、オープンキャンパスの待ち時間等に投影した。

・第二弾動画では、業者からの動画案に対して修正案を検討し、再編成依頼を数回行った。

○その他学科独自の広報活動

・学科だより（A4）をvol.1～vol.6まで刊行し、オープンキャンパスや高校訪問などの広報に活用した。Vol.1～vol.6の各テーマは以下の通りである。

vol.1(2020.4.20)　学科の学びと最新就職状況
vol.2(2020.5.20)　夢のかなえ方講座 その1～養護教諭編
vol.3(2020.6.20)　夢のかなえ方講座 その2～家庭科教諭編
vol.4(2020.10.20) 目指せる資格 その1～本学科で目指す編
vol.5(2020.11.20) 人間生活学科的 学生LIFE
vol.6(2021.01.20) 目指せる資格 その2～さらにチャレンジ編

・instagramの更新を、月３～４回程度行っている。

・同窓生ネットワーク構築のため、人間生活学科卒業生（2005～2019年度卒業生）に対するwebアンケートを実施し、卒業生の就業状況、大学での学びの効果等について把握した（8月から9月実施）。今後の広報戦略に役立てる。

・令和2年11月13日（金）城ノ内高等学校へ、シカ革について研究している竹原ゼミの４年生３名と竹原先生が訪問し、生徒15名、教員4名に対して「消費課外活動講座」を行った。授業及び実習体験により学科の魅力を伝えた。

・今年度、人間生活学科の資料請求等があった高校生に対して、まだ受験申込み可能な入試情報と学科だよりを郵送した（11月下旬発送）。

・人間生活学科オリジナルTシャツ及びクリアファイルの作成を進めている。来年度のオープンキャンパス等で活用する予定である。

【食物栄養学科】

○ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数

学科からのお知らせ：5　学科の特徴と魅力：2　入学式：1　就職率：1
公開セミナー：1　管理栄養士国家試験合格率：1　オープンキャンパス：5
計15件

○その他学科独自の広報活動

・学科の特徴と魅力をまとめたA4チラシを作成し、高校訪問などの広報に活用した。

・HACCP対応の調理室（14号館）の魅力を伝えるため、A4チラシをオープンキャンパスなどの広報に活用した。

・令和2年10月12日（月）、吉野川高等学校農業科の生徒7名が来学し、食品加工学実習を学科学生とともに体験し、学科の実習の魅力を伝えた。

・令和2年10月17日（土）、第1回もち麦麺デザインワークショップを牟岐町農業を守る会・加盟製麺所とともにオンラインで開催し、学科学生7名と教員1名が参加した。

【児童学科】

○ホームページに投稿された記事のカテゴリーと記事数

●「公立小学校・幼稚園教諭・保育士採用試験合格者数」速報(結果が出るたびに更新)
●交流活動(3)
●児童学科の魅力を伝える動画やチラシ(2)
●児童学科だよりの掲載(8)

＜児童学科だよりの記事の内容＞

・ボランティア活動(1)
・高校生のためのQ&A(3)
・採用試験合格者数(4)
・オープンキャンパス(4)

・プログラミング教育(1)
・先輩からのメッセージ(3)
・新入生関係(3)
・オープンキャンパス(4)

◯その他，学科独自の広報活動

●児童学科だよりの作成（月１回発行）
●児童学科の特徴と魅力を伝えるチラシを作成(A4 版カラー両面)
●児童学科の先輩からのビデオメッセージをオープンキャンパス時に公開。
●児童学科の先輩に対するオンラインインタビュー（オープンキャンパス時に実施）
●県内すべての高校への児童学科だよりとチラシの配布。
●県外の高校(これまで入学実績がある学校を中心に)への児童学科だよりとチラシの配布。
●これから受けることができる入試情報の作成。(12 月末)
●県内高校への訪問（阿波，吉野川，川島，名西，脇町，つるぎ，小松島，徳島市立，徳島北，生光，那賀）
●「徳島の新しい生活様式の様々な実践」の一つとして児童学科のアートワークショップをプロのカメラマンが動画撮影し YouTube で配信。(徳島県庁とくしま回帰推進課による，とくしま「新しい生活様式」発信事業の一環)

【メディアデザイン学科】

◯ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数

学科紹介：1　特色ある教育・研究：6　出張講義：1　入学式：1　オープンキャンパス：6

計 15 件

◯その他学科独自の広報活動

・学科の特徴と魅力をまとめたＡ4 チラシを作成し、高校訪問などの広報に活用した。
・令和２年４月 20 日　短期大学部保育科と共同で開発中のスマホアプリ「LINE を活用したオンラインピアノレッスン」が徳島新聞で紹介された。
・令和２年８月 28 日　徳島科学技術高校において情報科学コース２年生を対象にロボット制御プログラミング講座を開催した。
・令和２年 10 月５日　情報メディア論（前期集中講義）にて受講生チームが課題として作成したラジオ番組が、エフエムびざん（BFM791)「B-STEP TALKING」で紹介された。この際山城講師と学生２名がライブ出演した。
・令和２年 10 月 20 日　本学と徳島県警察との連携事業である「情報発信ウォッチャー」の委嘱式が行われ、徳島新聞に紹介された。
・令和２年 11 月 22 日　徳島県肢体不自由児者父母の会連合会が YouTubeLive および ZOOM 上で開催した「第５回 Online バリフリ BOX」について、山城講師および学生３名が撮影および配信支援を担当した。
・令和３年１月 17 日 18:00～20:00　四国放送ラジオ「中四国ライブネット「徳島発 阪神淡路大震災から 26 年　あの日何が起こったか」に山城講師が出演し、阪神・淡路大震災の被災経験及びその後のボランティア活動や防災教育について解説した。
・とくしま就活ナビ 2022 公式サイト（徳島新聞社）において、学生３名が就活ナビ参加企業採用担当者を対象としたアンケート調査に基づき、就活生の髪型・服装に関するポイントをまとめ、動画および PDF として公開した。

【建築デザイン学科】

〇ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数

宅地建物取引士セミナー参加の案内 1、学科各種ラボ参加の案内１，　オープンキャンパス：6

計 8 件

〇その他学科独自の広報活動

・学生の在学中の国家資格取得支援として、宅地建物取引士セミナーに関する取り組みを行っていることを、オープンキャンパス、高校生の訪問等を利用して広報活動を行った。

・将来の建築士資格取得にむけての支援として夏季 2 級建築士対策セミナー実施についての広報活動をオープンキャンパス等を通じて行った。

【心理学科】

〇ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数

学科からのお知らせ：５，学科の特徴と魅力：２，オープンキャンパス：５

〇その他学科独自の広報活動

・学科の特徴と魅力をまとめた A4 チラシ「心理学を学びたいあなたへ」を作成し，オープンキャンパス来訪者等に対する広報に活用した。

・令和２年２月１７日及び同月１８日の両日，教員・幼保採用試験レベルアップ講座を開催した。

４．総括

令和 2 年度は 6 学科ともにそれぞれの特色を生かし、学科ホームページの更新や学科独自の広報活動、新聞・テレビ等各種マスメディアを利用した広報活動を行った。また、今年度はコロナ禍においてオープンキャンパスが中止や縮小となる中、新しい取り組みとして「WEB オープンキャンパス」という形で学科の特色を伝える YouTube 動画を作成した。

メディアを通じてのアピールや、地域住民との交流活動、自治体や企業などとの協力プロジェクトなど様々な活動や情報発信を通じて、広く各学科を知っていただき、また学科への「共感」を感じていただくチャンスを増やしていく必要がある。

改めて各学科がホームページや各種メディアを通じて魅力的な情報を発信するのに加え、地域連携活動、高大連携活動等を通じ、地域や高校生に身近な存在となるために活動を継続していかなければならない。

令和２年度　人間生活学部教員養成推進委員会報告

教員養成推進委員会委員長
三　橋　謙　一　郎

Ⅰ　委員会の目的

教育実習等に関する資質や指導技術を確かなものするための具体的な方策を検討する。また、教員養成に関する資質や指導技術を確かなものとするための具体的な方策を検討する。

Ⅱ　委員会の構成

１．各学科より１名を選出して構成する。

２．令和２年度委員

竹原　明美（人間生活学科）、松本　萬寿美（食物栄養学科）、◎三橋　謙一郎（児童学科）、長濱　太造（メディアデザイン学科）、川村　恭平（建築デザイン学科）、○貴志　知恵子（心理学科）

［◎印：委員長、○印：副委員長］【敬称略】

Ⅲ．委員会開催期日等

１．第１回教員養成推進委員会

日時：　令和２年６月23日（火）　15：10～15：50

場所：　９号館10階（研究室⑥）

出席者：石堂、貴志、三橋（司会）、長濱、竹原（記録）欠席者：川村【敬称略】

２．第２回教員養成推進委員会

日時：　令和２年11月13日（金）　16：20～17：30

場所：　９号館10階（研究室⑥）

出席者：松本、長濱、三橋（司会）、貴志（記録）欠席者：川村、竹原【敬称略】

３．第３回教員養成推進委員会

日時：　令和３年２月12日（金）　15：00～

場所：　９号館10階（研究室⑥）

出席者：松本、長濱、貴志、三橋（司会）、竹原（記録）欠席者：川村【敬称略】

Ⅳ　委員会の活動内容

本年度は、本学の教務部および「全学共通教育センター」「教員養成対策委員会」等と連携を取りながら、本学の学生の教員としての資質能力の向上を目指す教育実習・保育実習のあり方と教員採用試験対策に焦点を絞り、年３回にわたる本委員会での話し合いを通して、検討を行ってきた。

教育実習・保育実習のあり方については、１）実習の評価点をめぐる問題、２）実習訪問時の大学側の対応をめぐる問題の２点が検討課題とされた。本委員会では、話し合いの結果、次の点で合意が得られた。

１）では、実習の最終の評価点を実習校にゆだねるか、大学側が決めるか、という２者択一の選択が課題とされた。本学は前者であり、合格ラインでの評価点が不十分な場合や大学での成績優秀な学生が実習ではきわめて低い評価点をつけられている場合など客観的な評価とは思えない場合に限り、大学側と実習校側とが話し合いをして、適切な評価点を見出す。（鳴門教育大学、四国大学では、実習校側の評価点を参考にしながら、実習の最終の評価点は、大学側で決めている。）

２）では、①県内の実習訪問（直接に訪問する）に際し、実習前の挨拶の電話と実習

後のお礼の電話ができているかどうか、必ず実習期間内に訪問できているかどうか（できれば、学生の評価授業の参観もお願いする。）②実習訪問時に、大学側が実習校側と学生の指導に結びつく話し合いができているかどうか、③県外の実習訪問（直接に訪問はしない）に際し、実習前の挨拶の電話と実習後のお礼の電話ができているかどうか、【一般に２週間の実習が多いけれど、４週間の実習の場合は、２週間の実習終了の頃、実習校へお礼の電話とあと２週間お世話になることの挨拶の電話をすること。県外の実習訪問は、実習校側との指導に結びつく詳細な話し合いは難しいけれども、最低限の指導に結びつきやすい話し合いをすることが望ましい。】④県内の実習訪問に際し、適切な報告書が提出されているかどうか。【直接に訪問しない県外の実習訪問に際しても、簡単な報告書を提出すること】

教員採用試験対策については、全学共通教育センター実施の講座への参加を中心としている学科と全学共通教育センター実施への参加と併行して、独自の対策講座を企画し、指導を行っている学科が見られる。今年度の各学科の取り組み内容は次の通りである。

１）　人間生活学科：中学校・高校家庭科教員志望学生については、全学共通教育センター実施の講座への参加と併行して、学科としてマンツーマンでの指導を行っている。養護教諭志望学生については、全学共通教育センター実施の講座への参加と合わせて、学外でのボランティア活動や研修会に積極的に参加するように勧めている。

２）　食物栄養学科：栄養教諭志望学生が対象となる。全学共通教育センター実施の講座への参加を勧めている。国家試験対策に集中しているので、学科としての取り組みは特にない。

３）　児童学科：保育士・幼稚園教諭および小学校教諭志望学生が対象となる。前期は、全学共通教育センター実施の講座への参加と併行して、水曜日５時限に教員採用試験直前講座への参加、月曜日５時限に面接講座を学科独自で開講している。後期も、全学共通教育センター実施の講座への参加と併行して、金曜日５時限に教員採用試験対策講座を学科独自で開講している。

４）　メディアデザイン学科：高校情報教諭、中学校・高校家庭科教諭志望学生が対象となる。全学共通教育センター試験実施の講座への参加を勧めている。教職をとっている学生が現在のところ少数であるので、学科としての取り組みはしていない。

５）　建築デザイン学科：中学校・高校家庭科教諭志望学生が対象となる。全学共通教育センター実施の講座への参加を勧めている。学科としてマンツーマンの指導を行っている。

６）　心理学科：養護教諭志望学生が対象となる。全学共通教育センター実施の講座への参加と併行して、専門教科は人間生活学科と共同で対策ゼミを実施している。学外での保健室等への参加も勧めている。今後ＯＢで現役の養護教諭との交換会の機会を取り入れるようにしている。

このような取り組みは、今後も学科の独自性を踏まえ、発展的に取り組んでいくことが求められる。但し、教員採用試験対策を検討していく際には、この取り組みを教員としての資質・能力（教職に対する情熱、教育の専門家としての力量、総合的な人間力や教育実習・学習支援ボランティア活動などを通じた実践力）の向上に結びつけるような工夫も必要と思われる。同時に、この取り組みだけでは十分にクリアできない教師としての資質・能力の形成についても、教員採用試験対策と併行して平素より自覚的に取り組んでいこうという姿勢を持ち続けていくことが重要である。

第２章　各学科スタンダード

第１節　人間生活学科

人間生活学科は、「人の相互理解のもとに築く心豊かな生活と健やかで快適な生活環境の構築を求めて知識を深めるとともに、環境との共存を図りながら自己に適したライフスタイルを創造する能力と実践力を身につけ、豊かな教養とグローバルな思考力を持つ教員・社会人の育成」を教育目標としている。

教育内容は「生活経営学」「食物学」「被服学」「住居学」「保育・保健・養護学」の各分野から構成され、それぞれ、総論から各論へ、基礎から専門へと学びを深めていく。授業形態は講義、実験、実習、ゼミナールからなり、アクティブラーニングの手法を取り入れるなど多様な手法で展開されている。

また、令和２年度入学生から新カリキュラムをスタートさせ、家政学の学問領域と将来の進路を融合させた教育内容から構成される３つのフィールド（教員養成、ビジネスキャリア、コミュニティデザイン）を設定した。

本学科で取得できる教員免許は、家庭科および保健科の中学校教諭一種・高等学校教諭一種と養護教諭一種である。その他、フードスペシャリスト、医療秘書、社会福祉主事任用資格なども取得できる。新カリキュラム開始に伴い二級建築士、上級情報処理士、福祉住管用コーディネーター、防災士などの資格が新たに加わった。どの免許・資格も現代社会においては非常に重要な役割をはたす資格であり、学生の興味・関心・適性に応じた個別指導を行う事により、自己の専門性を確立させ、自立した生活者としての幅広い知識と応用可能なスキルを習得させることを目指している。

令和２年度からの新カリキュラム開始に伴い、他学科との連携をこれまで以上に強化することが可能となり、人間生活学科の教育内容はさらに深化したと言える。来る「人生100年時代における生活の質向上」を視座に据え、従来の教育内容に加え「環境」「健康」「福祉」「国際」そして「防災」の領域から生活研究を多面的に追究する学科として歩み続けたい。

（１）家庭科及び保健科の中学校１種・高等学校Ｉ種、養護教諭１種の教員免許を取得し、社会の変化に柔軟に対応でき、豊かな教養と包容力を持つ教員の養成を目指す。

（２）医療秘書・フードスペシャリスト・消費生活アドバイザーなどの資格や知識、及び他学科の講義を受講・受験することで取得可能となる２級建築士や上級情報処理士などの資格と知識を、ビジネス社会において主体的に役立たせる意欲を持つ学生の育成を目指す。

（３）地域の課題解決に興味・関心・意欲を持ち、フィールドワーク等を通じて積極的に関わることによって得られた知見を社会において実践し、地域社会へ貢献する気概を持つ学生の育成を目指す。

（４）大学院や専攻科への進学を希望する学生への十分な学術研究能力と教育実践力の養成を行う。

第２節　食物栄養学科

管理栄養士は「ヒトの健康」を維持・管理する仕事に従事する。そのため、本学科では栄養や保健、衛生に関する高度な学識と技術をもつとともに、「人間栄養学」を実践できる人間味溢れる管理栄養士を養成する。すなわち，チーム医療の一員として傷病者の健康回復を栄養面からサポートできる職業人，保健チームの一員として地域住民の健康増進と疾病予防のために役立つ職業人，あるいはフードサービス分野において栄養部門のトップマネージメントを担うことのできる管理栄養士などである。いずれにおいても，栄養アセスメントに基づくマネージメントサイクルに適応できる職業人でなければならない。

さらに，食生活の乱れに起因する生活習慣病を予防するためには、義務教育課程において食育教育が重要である。そのため、管理栄養士資格を有し、「人間栄養学」を教育できる栄養教諭を養成する。

この目的のために，四年間を通して、栄養学を中心に「人体の構造と機能」や「ヒトの健康と疾患」について、解剖生理学、病理学、臨床栄養学を深く学ぶ。さらに、これらに加えて、低学年では食品学や食品加工学、食品衛生学や給食管理、調理学について学び、高学年では、栄養教育・指導ために、公衆栄養学や栄養教育論を学ぶ。また、三・四年次には、学外臨地実習（学校、病院、給食施設、保健所など）で、実際に管理栄養士が活躍する現場を経験し理解を深める。

上記を現実のものとするには管理栄養士国家試験に合格して，管理栄養士の資格を取得しなければならない。そのために，国家試験に合格できる学力をつけることを教育の基本とする。そのため、国家試験対策としては，①演習科目の有効利用，②模擬試験の実施とその結果分析と事後指導，③自習室の積極的利用，等で対応する。一方、研究職や大学教員を目指す学生の育成にも努め、研究能力および教育能力の涵養については，卒業研究においてそれらの能力の基礎を教育・指導し，さらに大学院人間生活学研究科や専攻科において、より深い研究・教育能力を修得させる。

第３節　児童学科

今日の教育界においては、「いじめ」や「児童虐待」「子どもの貧困」等の問題が、社会的論議を呼んでいる。このような客観的な状況を念頭に置き、児童学科では豊かな感性、コミュニケーション能力、ＩＣＴ活用力を身に付け、教育学、心理学、保育学等の学びから、多様な教育・保育ニーズに理論的、且つ、実践的に対応できる教員・幼稚園教諭・保育士等の指導者養成に全力を傾けている。

このことを踏まえ、以下のように児童学科のスタンダードを構築する。

（１）　主として、小学校教諭１種免許状、幼稚園教諭１種免許状および保育士資格を取得し、国公私立の小学校・幼稚園・保育所・認定こども園や児童福祉施設などに就職できる。

（２）　在学中の学内外での学校・園・施設における小学校教育実習・幼稚園教育実習・保育所実習・保育施設実習や介護等体験実習を通して、専門的知識や実践的指導力の習得のみならず、社会人としての豊かな人間性を身に付けることがきる。

（３）　教員・保育士をはじめとする指導者として必要とされる専門的な資質や能力を十分に身に付けることができる。

（４）　「教育方法技術論」、「情報処理」等の教育と情報に関する科目を履修し、将来の教育・保育などの実践現場において、ＩＣＴ機器を有効に活用することができる。

（５）　小学校教員を目指す学生は、小学校教諭１種免許状と中学校英語２種免許状を取得でき、子どもたちに外国の身近な生活や文化に慣れ親しませる基礎的なコミュニケーション力を育てることができる。

（６）　大学院への進学を希望する学生は、十分な学術研究能力と、より高度な教育的実践力を習得している。

第4節　メディアデザイン学科

メディアデザイン学科では、デザイン能力を「問題を解決する能力、新しい価値を創出する能力」と捉え、メディアテクノロジーを活用することで新しいデザインを提案できる人材を育成する。具体的には、現代社会のさまざまな問題解決のための企画・立案・実践を行うことのできる能力を習得することを目的とする。ここで言うメディアテクノロジーとは、映像などのデジタルコンテンツの処理、プログラミング、Web サイト、Web アプリケーションの開発、ネットワークの構築・運営・管理、社会調査データなどの統計分析を指す。

また、当学科では、社会で求められている能力「各個人は、人材市場でどの程度の価値を持ち、通用するのか判断できる」、「人材を求める企業は、人材戦略を明確に立案できるようになる」（IT スキル標準 ITSS」）も視野に入れ、次のような資格に裏付けられた人材養成を行う。

1) IT 専門職：「IT スキル標準」は知識だけでなく実務能力の評価指標であるため、当学科では知識を主体とした資格取得を目標とする。上級情報処理士Ⓝ、プレゼンテーション実務士、Web デザイン実務士資格の取得、IT パスポート試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報処理技術者高度試験、ＭＯＳ（Microsoft Office　Specialist）試験の合格を目指す。
2) 高等学校教諭：平成 15 年度から始まった高等学校「情報」の授業の教育者として、情報社会における IT やセキュリティ、情報倫理、著作権などを学び、人間性豊かなコミュニケーションができる人材を育成する。
3) 社会調査士：社会調査士認定協会の認定が始まった初年度（平成 16 年）から、資格を取得できる体制を整えた。調査企画から報告書作成までの社会調査の全過程を学習することにより、基本的な調査方法や分析方法の妥当性、問題点の指摘、提言ができる実力を養う。

カリキュラムは、①情報領域、②コンテンツ領域、③調査分析領域、④共通領域の 4 領域で構成される。

また、講義の中で業界第一線の知識・技術に触れ、外部講師による専門的な経験談を取り入れ、学生のスキル向上を図るとともに、学士力の向上に努める。

第５節　建築デザイン学科

日本の建築における課題は、豪雨、台風、地震や津波などの自然災害が多く、安全で優れた建物をつくる技術の向上がますます求められている。また同時に、エネルギーを浪費せず、環境に負荷をかけず、生活に快適さをもたらす建物の室内環境調整の技術やインテリアデザインも大切であり、合わせて、建物に美しさも期待されることも求められている。さらには、高齢社会をむかえ、誰もがスムーズに使える住宅や公共施設のユニバーサルデザインも要求されている。

従って、建築デザイン学科は建築・インテリアデザインの専門家として、このような多くの課題をかかえる社会に貢献する知識や技術をもった、人間性豊かな人材の育成を、教育のねらいとして位置付けている。

人間生活学部に属するメリットを生かして、人と生活と環境を大切にし、建築の３大要素である「強・用・美」をそなえる、建築・インテリアデザインの実現をめざし、課題を解決できる創造力を持った人材を育成している。

教育は、講義とともに、製図、CAD、模型製作、建築材料実験などの実習・演習を展開し、カリキュラムツリーにしたがって系統的におこなわれている。また授業以外に宅建士と二級建築士の受験講座の開催や，ドローン，コンペ，リノベーション，3D プリンターなどのチャレンジクラブをつくって学生諸君の学研活動をうながしている。

建築デザイン学科では、次のようなスタンダード（学習到達水準）を設けて教育にあたっている。

１．　専門分野の基本的な知識と考え方を身につける。
２．　自己の考えを的確に表現し、円滑なコミュニケーションができる。
３．　都市や地域の歴史・環境・計画についての基礎知識を持たせる。
４．　建物の室内環境調整についての基礎理論を習得させる。
５．　木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造の建物の施工や材料について基礎知識を持たせる。
６．　コンピュータについて、建築系の実務に必要な基礎知識と自由に操作することができる能力を持たせる。
７．　建築士に必要な実務的知識と設計製図能力を習得させる。
８．　戸建住宅および小規模建物の基本的な建築計画・設計・施工管理ができる能力を持たせる。
９．　中学･高校の家庭科教員に必要な住生活に関する知識の基礎的事項を習得させる。

第６節　心理学科

心理学は人間の心の機能（知・情・意）とその表れである行動についての学問であり、人間行動のあらゆる領域をその対象としている。基礎的な生理的反応や知覚の領域から、カウンセリングや心理療法といった対人支援の領域、また、生産性の向上や組織運営のあり方といった産業領域での活用、地域社会や環境との関わりまで含めたコミュニティ心理学など、非常に幅広い学問である。
ヒトは社会的動物であり、人との関わりの中で人間として成長し、人が作る社会の中で生きていく。心理学は人としての基礎教養であり、また、それぞれの職能領域で「こころの専門家」としての活躍が期待されている学問でもある。心理学科においては、「心理学概論」「知覚・認知心理学」「学習・言語心理学」「神経・生理心理学」等の基礎的領域から「健康・医療心理学」「産業・組織心理学」「司法・犯罪心理学」「心理学的支援法」等の応用領域へと、幅広い領域の心理学を段階的に学べるようにカリキュラムが編成されている。また、「心理学実験」や「心理検査実習」「心理療法演習」などの体験・参加型授業によって、知識のみでなく、心理学的技能の習得を図っている。
心理学科は、卒業後の就職および進学に関連して資格取得という点から、3 つの特徴ある目標指向プロセス（Goal oriented process）をもっている。これはコース編成というよりもキャリア選択に向けての具体的な指針であるので、余裕のある学生は（１）～（３）の複数の目標をもって大学生活を送ることができる。

（１）一般企業、公務員、等　（心理標準プロセス）
人間関係が希薄になっている現代社会において、心理学を専門として学んできたこと自体が一般企業や公務員として好印象を持たれることは間違いないが、一般企業の会社員や一般公務員として社会の中で種々の役割を担うにあたって、心理学全般の基礎的知識・能力を認定するものとして、「認定心理士」と「心理学検定」がある。所定の科目を履修することで「認定心理士」の資格取得が可能である。また、在学中に「心理学検定」の受験が推奨されており、検定資格の取得を目指すことができる。このプロセスを選択して大学を卒業し、心理・福祉関連職種（児童、障害者、高齢者など種々の福祉施設）に就職・実務を経験しながら下記心理専門職を目指すことも現段階では可能である。

（２）養護教諭一種免許取得　（心理養護教諭プロセス）
養護教諭は児童・生徒の心身の健康を担う教諭であるが、心理学科では特に「こころ」の健康に貢献できる養護教諭の養成を目指している。教育現場では、不登校やいじめなど心の問題を抱えた児童・生徒への支援が保健室の大きな役割になっており、身体的な知識に加え、心理学の専門性が必要とされている。

（３）大学院進学と資格取得　（心理専門職プロセス）
心の専門家に関する国家資格への社会的な要請は強く、公認心理師法が成立した。本学科では、スタッフならびに実習先確保等万全の態勢で養成を始めており、大学院修士修了が国家試験・受験資格の要件なので、学部・大学院が揃っている徳島文理大学は国家資格を目指すには非常に良い環境だと言えよう。今後、医療や種々の心理相談機関において心理専門職として認められるためには、公認心理師あるいは臨床心理士の資格取得が望ましい。臨床心理士については、指定大学院卒業が受験資格とされており、本学大学院は臨床心理士養成第１種指定校であり、学部において優秀な成績を修めた者に対しては大学院進学における特別選抜制度の適用がある。

第３章　卒業生満足度評価

第１節　大学全体

2020年度　卒業生対象大学生活満足度アンケート集計結果（徳島文理大学全体）　徳島文理大学

対象者数	967
回答者数	648
回答率	67.0%

Ⅰ．記入者について

性別	男性	女性	無効
	283	365	0
	43.7%	56.3%	0.0%

現所属学科の在籍年数	1,2年	3,4年	5,6年	7,8年	9年以上	無効
	92	483	70	3	0	0
	14.2%	74.5%	10.8%	0.5%	0.0%	0.0%

卒業後の進路	就職	進学	未定	無効
	547	34	67	0
	84.4%	5.2%	10.3%	0.0%

あなたの成績について一番多かったのは	優	良	可	無効
	301	258	89	0
	46.5%	39.8%	13.7%	0.0%

Ⅱ．授業・教育課程について（全体として）

No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	授業科目は充実していましたか	4.27	293	270	62	16	7	648	0
			45.2%	41.7%	9.6%	2.5%	1.1%		
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	4.13	234	303	77	26	8	648	0
			36.1%	46.8%	11.9%	4.0%	1.2%		
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を修得できましたか	4.36	339	234	51	17	7	648	0
			52.3%	36.1%	7.9%	2.6%	1.1%		
4	教育に対する熱意は感じられましたか	4.33	316	248	69	9	6	648	0
			48.8%	38.3%	10.6%	1.4%	0.9%		
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は充実していましたか	4.18	291	235	83	27	12	648	0
			44.9%	36.3%	12.8%	4.2%	1.9%		
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	4.08	251	253	102	29	13	648	0
			38.7%	39.0%	15.7%	4.5%	2.0%		

Ⅲ．大学の施設および支援体制について

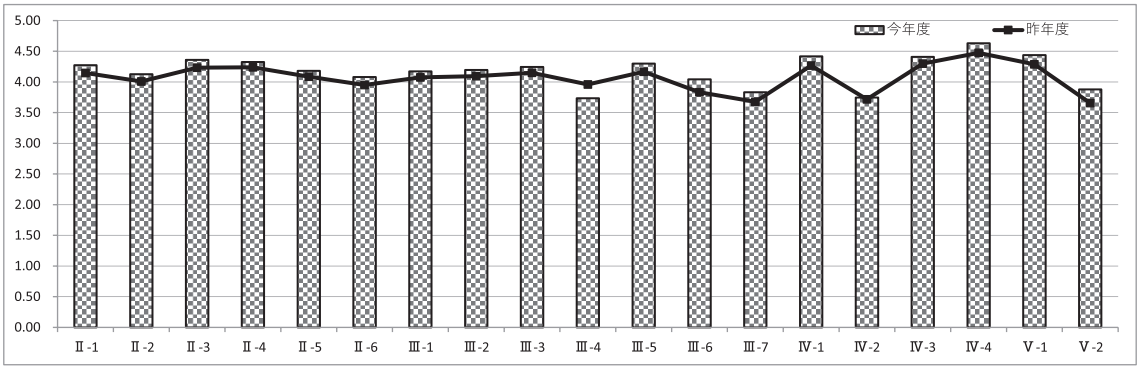
No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	履修登録の支援は役に立ちましたか	4.17	304	218	78	29	19	648	0
			46.9%	33.6%	12.0%	4.5%	2.9%		
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	4.19	333	192	67	28	28	648	0
			51.4%	29.6%	10.3%	4.3%	4.3%		
3	図書館は利用しやすかったですか	4.25	338	173	105	22	10	648	0
			52.2%	26.7%	16.2%	3.4%	1.5%		
4	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	3.73	223	202	97	79	47	648	0
			34.4%	31.2%	15.0%	12.2%	7.3%		
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.30	317	243	62	17	9	648	0
			48.9%	37.5%	9.6%	2.6%	1.4%		
6	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	4.04	284	213	74	49	28	648	0
			43.8%	32.9%	11.4%	7.6%	4.3%		
7	生活や健康に関する悩みがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	3.83	226	195	153	41	33	648	0
			34.9%	30.1%	23.6%	6.3%	5.1%		

Ⅳ．キャンパスライフについて

No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	キャンパスは清潔でしたか	4.42	372	203	51	16	6	648	0
			57.4%	31.3%	7.9%	2.5%	0.9%		
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.75	219	164	187	38	40	648	0
			33.8%	25.3%	28.9%	5.9%	6.2%		
3	頼りになる教員に出会えましたか	4.41	393	170	54	18	13	648	0
			60.6%	26.2%	8.3%	2.8%	2.0%		
4	よき友と出会えましたか	4.63	479	122	32	7	8	648	0
			73.9%	18.8%	4.9%	1.1%	1.2%		

Ⅴ．総合評価

No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.44	375	210	44	10	9	648	0
			57.9%	32.4%	6.8%	1.5%	1.4%		
2	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	3.88	221	216	156	22	33	648	0
			34.1%	33.3%	24.1%	3.4%	5.1%		



第 2 節　人間生活学部

2020年度　卒業生対象大学生活満足度アンケート集計結果（人間生活学部）　徳島文理大学

対象者数	274
回答者数	193
回答率	70.4%

Ⅰ．記入者について

性別	男性	女性	無効
	67	126	0
	34.7%	65.3%	0.0%

現所属学科の在籍年数	1,2年	3,4年	5,6年	7,8年	9年以上	無効
	4	188	1	0	0	0
	2.1%	97.4%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%

卒業後の進路	就職	進学	未定	無効
	160	9	24	0
	82.9%	4.7%	12.4%	0.0%

あなたの成績について一番多かったのは	優	良	可	無効
	113	67	13	0
	58.5%	34.7%	6.7%	0.0%

Ⅱ．授業・教育課程について（全体として）

No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	授業科目は充実していましたか	4.34	89	85	16	2	1	193	0
			46.1%	44.0%	8.3%	1.0%	0.5%		
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	4.23	73	98	17	4	1	193	0
			37.8%	50.8%	8.8%	2.1%	0.5%		
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を修得できましたか	4.54	120	61	9	2	1	193	0
			62.2%	31.6%	4.7%	1.0%	0.5%		
4	教育に対する熱意は感じられましたか	4.37	101	71	16	2	3	193	0
			52.3%	36.8%	8.3%	1.0%	1.6%		
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は充実していましたか	4.20	86	74	21	9	3	193	0
			44.6%	38.3%	10.9%	4.7%	1.6%		
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	4.22	76	88	24	5	0	193	0
			39.4%	45.6%	12.4%	2.6%	0.0%		

Ⅲ．大学の施設および支援体制について

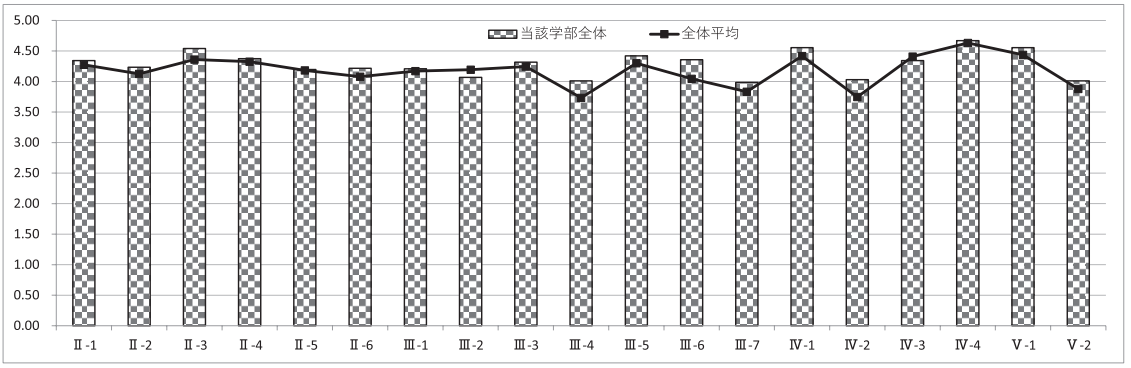
No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	履修登録の支援は役に立ちましたか	4.21	91	67	23	8	4	193	0
			47.2%	34.7%	11.9%	4.1%	2.1%		
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	4.07	90	56	27	10	10	193	0
			46.6%	29.0%	14.0%	5.2%	5.2%		
3	図書館は利用しやすかったですか	4.32	106	50	31	4	2	193	0
			54.9%	25.9%	16.1%	2.1%	1.0%		
4	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	4.01	76	70	26	15	6	193	0
			39.4%	36.3%	13.5%	7.8%	3.1%		
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.42	109	66	12	2	4	193	0
			56.5%	34.2%	6.2%	1.0%	2.1%		
6	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	4.36	99	75	11	5	3	193	0
			51.3%	38.9%	5.7%	2.6%	1.6%		
7	生活や健康に関する悩みがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	3.98	74	60	48	4	7	193	0
			38.3%	31.1%	24.9%	2.1%	3.6%		

Ⅳ．キャンパスライフについて

No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	キャンパスは清潔でしたか	4.55	123	57	10	3	0	193	0
			63.7%	29.5%	5.2%	1.6%	0.0%		
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	4.03	87	46	45	9	6	193	0
			45.1%	23.8%	23.3%	4.7%	3.1%		
3	頼りになる教員に出会えましたか	4.34	108	60	14	5	6	193	0
			56.0%	31.1%	7.3%	2.6%	3.1%		
4	よき友と出会えましたか	4.67	147	36	4	4	2	193	0
			76.2%	18.7%	2.1%	2.1%	1.0%		

Ⅴ．総合評価

No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.55	127	54	7	2	3	193	0
			65.8%	28.0%	3.6%	1.0%	1.6%		
2	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	4.01	73	70	37	5	8	193	0
			37.8%	36.3%	19.2%	2.6%	4.1%		



第 3 節　卒業生対象大学生活満足度評価アンケートの結果に対する総評

人間生活学部分については、全体的に 4 点以上の評価を受けている。なかでも授業の充実度やわかりやすさ、専門知識や教員の熱意などについては高評価であった。また，大学全体と比較しても、ほぼすべての項目についてよい評価を受けている。

第４章　学生の授業評価アンケート

第１節　大学全体

2020年度前期　授業アンケート集計結果（全体）　　徳島文理大学

対象数（学生の履修登録数の総和）	回答数	28,388	有効回答数	28,223
47,925	回答率	59.23%	有効回答率	99.4%

1．受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか			
設問	回答数	比率	加重平均
全体的に読んだ(4点)	9,458	0.34	3.06
部分的に読んだ(3点)	12,848	0.46	
ほとんど読まなかった(2点)	4,147	0.15	
まったく読まなかった(1点)	1,770	0.06	

2．受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか			
設問	回答数	比率	加重平均
とても興味があった(4点)	8,841	0.31	3.15
どちらかというと興味があった(3点)	15,301	0.54	
どちらかというと興味がなかった(2点)	3,425	0.12	
まったく興味がなかった(1点)	656	0.02	

3．あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか			
設問	回答数	比率	加重平均
わかりやすい内容であった(4点)	13,201	0.47	3.35
どちらかというとわかりやすい内容であった(3点)	12,092	0.43	
どちらかというとわかりにくい内容であった(2点)	2,432	0.09	
わかりにくい内容であった(1点)	498	0.02	

5．あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください		
設問	回答数	選択率(%)
専門的な知識・技能	24,104	85.41
自立性	9,871	34.98
協同性	4,834	17.13
考え抜く力	11,530	40.85
交渉力	3,190	11.30
発信力	3,407	12.07

6．この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください		
設問	回答数	選択率(%)
説明内容	18,767	66.50
授業の進め方	16,246	57.56
教科書・パワーポイントなどの資料	13,057	46.26
課題や宿題の内容（量も含む）	8,497	30.11
教室の設備	5,366	19.01

7．あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか			
設問	回答数	比率	加重平均
優(4点)	9,409	0.33	3.10
良(3点)	12,594	0.45	
可(2点)	5,976	0.21	
不可(1点)	244	0.01	

8．総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか			
設問	回答数	比率	加重平均
満足(4点)	13,081	0.46	3.39
どちらかというと満足(3点)	13,296	0.47	
どちらかというと不満足(2点)	1,543	0.05	
不満足(1点)	303	0.01	

2020年度後期　授業アンケート集計結果（全体）　　徳島文理大学

対象数（学生の履修登録数の総和）	回答数	28,791	有効回答数	28,521
46,292	回答率	62.19%	有効回答率	99.1%

1．受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか			
設問	回答数	比率	加重平均
全体的に読んだ(4点)	10,321	0.36	3.08
部分的に読んだ(3点)	12,198	0.43	
ほとんど読まなかった(2点)	4,005	0.14	
まったく読まなかった(1点)	1,997	0.07	

2．受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか			
設問	回答数	比率	加重平均
とても興味があった(4点)	9,838	0.34	3.20
どちらかというと興味があった(3点)	15,115	0.53	
どちらかというと興味がなかった(2点)	2,971	0.10	
まったく興味がなかった(1点)	597	0.02	

3．あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか			
設問	回答数	比率	加重平均
わかりやすい内容であった(4点)	14,519	0.51	3.41
どちらかというとわかりやすい内容であった(3点)	11,549	0.40	
どちらかというとわかりにくい内容であった(2点)	1,989	0.07	
わかりにくい内容であった(1点)	464	0.02	

5．あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください		
設問	回答数	選択率(%)
専門的な知識・技能	24,929	87.41
自立性	9,808	34.39
協同性	6,298	22.08
考え抜く力	10,773	37.77
交渉力	4,063	14.25
発信力	3,586	12.57

6．この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください		
設問	回答数	選択率(%)
説明内容	19,763	69.29
授業の進め方	16,447	57.67
教科書・パワーポイントなどの資料	12,526	43.92
課題や宿題の内容（量も含む）	8,490	29.77
教室の設備	7,321	25.67

7．あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか			
設問	回答数	比率	加重平均
優(4点)	10,308	0.36	3.13
良(3点)	11,994	0.42	
可(2点)	5,972	0.21	
不可(1点)	247	0.01	

8．総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか			
設問	回答数	比率	加重平均
満足(4点)	14,881	0.52	3.46
どちらかというと満足(3点)	12,113	0.42	
どちらかというと不満足(2点)	1,266	0.04	
不満足(1点)	261	0.01	

第 2 節　人間生活学部

2020年度前期　授業アンケート集計結果（人間生活学部）　　徳島文理大学

対象数（学生の履修登録数の総和）	回答数	9,214	有効回答数	9,152
13,251	回答率	69.53%	有効回答率	99.3%

1．受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか			
設問	回答数	比率	加重平均
全体的に読んだ(4点)	3,565	0.39	3.17
部分的に読んだ(3点)	4,006	0.44	
ほとんど読まなかった(2点)	1,139	0.12	
まったく読まなかった(1点)	442	0.05	

2．受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか			
設問	回答数	比率	加重平均
とても興味があった(4点)	3,364	0.37	3.23
どちらかというと興味があった(3点)	4,675	0.51	
どちらかというと興味がなかった(2点)	935	0.10	
まったく興味がなかった(1点)	178	0.02	

3．あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか			
設問	回答数	比率	加重平均
わかりやすい内容であった(4点)	4,784	0.52	3.42
どちらかというとわかりやすい内容であった(3点)	3,526	0.39	
どちらかというとわかりにくい内容であった(2点)	707	0.08	
わかりにくい内容であった(1点)	135	0.01	

5．あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください		
設問	回答数	選択率(%)
専門的な知識・技能	8,099	88.49
自立性	3,408	37.24
協同性	1,821	19.90
考え抜く力	3,770	41.19
交渉力	1,213	13.25
発信力	1,389	15.18

6．この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください		
設問	回答数	選択率(%)
説明内容	6,307	68.91
授業の進め方	5,506	60.16
教科書・パワーポイントなどの資料	4,393	48.00
課題や宿題の内容（量も含む）	2,760	30.16
教室の設備	1,898	20.74

7．あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか			
設問	回答数	比率	加重平均
優(4点)	3,451	0.38	3.17
良(3点)	3,893	0.43	
可(2点)	1,754	0.19	
不可(1点)	54	0.01	

8．総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか			
設問	回答数	比率	加重平均
満足(4点)	4,746	0.52	3.45
どちらかというと満足(3点)	3,878	0.42	
どちらかというと不満足(2点)	442	0.05	
不満足(1点)	86	0.01	

2020年度後期　授業アンケート集計結果（人間生活学部）　　徳島文理大学

対象数（学生の履修登録数の総和）	回答数	9,110	有効回答数	9,015
13,504	回答率	67.46%	有効回答率	99.0%

1．受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか

設問	回答数	比率	加重平均
全体的に読んだ(4点)	3,636	0.40	3.16
部分的に読んだ(3点)	3,721	0.41	
ほとんど読まなかった(2点)	1,145	0.13	
まったく読まなかった(1点)	513	0.06	

2．受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか

設問	回答数	比率	加重平均
とても興味があった(4点)	3,371	0.37	3.24
どちらかというと興味があった(3点)	4,628	0.51	
どちらかというと興味がなかった(2点)	853	0.09	
まったく興味がなかった(1点)	163	0.02	

3．あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか

設問	回答数	比率	加重平均
わかりやすい内容であった(4点)	4,914	0.55	3.46
どちらかというとわかりやすい内容であった(3点)	3,418	0.38	
どちらかというとわかりにくい内容であった(2点)	557	0.06	
わかりにくい内容であった(1点)	126	0.01	

5．あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください

設問	回答数	選択率(%)
専門的な知識・技能	8,120	90.07
自立性	3,247	36.02
協同性	2,350	26.07
考え抜く力	3,574	39.65
交渉力	1,580	17.53
発信力	1,488	16.51

6．この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください

設問	回答数	選択率(%)
説明内容	6,417	71.18
授業の進め方	5,400	59.90
教科書・パワーポイントなどの資料	4,303	47.73
課題や宿題の内容（量も含む）	2,780	30.84
教室の設備	2,758	30.59

7．あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか

設問	回答数	比率	加重平均
優(4点)	3,594	0.40	3.19
良(3点)	3,596	0.40	
可(2点)	1,753	0.19	
不可(1点)	72	0.01	

8．総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか

設問	回答数	比率	加重平均
満足(4点)	5,071	0.56	3.51
どちらかというと満足(3点)	3,542	0.39	
どちらかというと不満足(2点)	339	0.04	
不満足(1点)	63	0.01	

第３節　令和２年度授業評価アンケートの結果に対する総評

人間生活学部は大学全体と比較して，前期においても後期においても全ての項目について高くなっている。また，授業から得られたものとして，専門的な知識・技能，自立性，協同性をあげた割合が大学全体と比べて多くなっている。そして，授業に関してよいと思うものについては，説明内容，授業の進め方，教科書・パワーポイントの資料を上げた割合が他の項目と比べて大学全体より多くなっている。

第５章　研究授業

新型コロナウイルスの影響により，本年度は研究授業の開催が困難であったため，開催された研究授業は遠隔授業で実施されたもの１件でした。以下にその記録を掲載します。

<table>
<tr><td colspan="5">研究授業（教員相互の授業参観）記録</td></tr>
<tr><td>学　　部</td><td>人間生活学部</td><td>学　　科</td><td colspan="2">人間生活学科</td></tr>
<tr><td>授 業 者</td><td>池添　純子</td><td>科 目 名
（シラバス番号）</td><td colspan="2">家族関係学
（　１２０９２　）</td></tr>
<tr><td>授業協力者</td><td>なし</td><td>実施教室</td><td colspan="2">オンライン</td></tr>
<tr><td>実施日時</td><td colspan="4">令和３年　１月　８日　月曜日　１講時</td></tr>
<tr><td>対象学生</td><td colspan="3">人間生活学部　建築デザイン学科１年</td><td rowspan="2">受講学生数：
１５ 名</td></tr>
<tr><td>教 授 法</td><td colspan="3">スライド・資料・動画を用いたオンライン授業</td></tr>
<tr><td colspan="5">授業テーマ
高齢期の社会関係と生きがい</td></tr>
<tr><td colspan="5">研究授業内容自己評価
以前のオンライン授業の際に、Meet による配信授業は難しい学生がいることを認識していたため、主に、資料配布やネット上の動画視聴によるやり取りで授業を進めた。
学生の理解度を評価するため、初めて Google Forms による設問を作ったが、選択肢が多かったため、少し時間がかかりすぎたと感じた。ただ、理解度を教員が把握するには有効なツールであることが分かった。また、インターネットで閲覧できる動画の視聴は、直後に提出させた感想文の内容より、学生個々のペースで視聴することが可能で、対面授業とは変わらず、もしくはそれ以上に集中して視聴しているのではないかと感じた。
参観者からのご指摘の通り、学生同士のコミュニケーションをとる時間がなかったため、次回の対面授業では、学生間で意見交換を行いたい。</td></tr>
<tr><td colspan="5">研究授業参観者の意見・感想
・高齢化の現状の資料を配付し、それについての Google Forms の質問は、答えやすく選択肢もよく考えられていた。
・配付資料の説明も的確で学生が考える時間もあり、学生の思考力を見ることが出来る。
・授業中に動画を見せると変化のある授業となり良かった。また、どれも興味を引く内容で、学生の感想文から学生の表現力や理解力を知ることが出来る。さらに、動画の出演者の方が池添先生の恩師の奥様という内容のコメントから学生にとっては身近に感じられ、さらに効果的であったと思う。
・オンライでの授業は時間配分が難しいが、90 分間学生は思考を続けられ、良く配慮されていた。
・学生からの反応は、教員は把握できるが、学生間同士の意見交換の場が設定できれば、更に良かったと思う。</td></tr>
<tr><td>授業参観教員数</td><td colspan="4">５名</td></tr>
</table>

第６章　教員活動状況の調査

第１節　人間生活学科

個人情報
１.氏名：岡部　千鶴
２.職位：教授

教育領域
１.教育の担当専門領域：　家庭経営学、家族関係学、消費者行動論、生活文化論

２.授業担当科目
前期：家庭経営学（家庭経済学を含む）、専門ゼミナールⅠ、
家族社会学（理学療法学科）、家族関係学特論Ⅰ（研究科　児童）
後期：家族関係学、生活関連法、消費生活論、家庭支援論、専門ゼミナールⅡ、
卒業研究、家族関係学特論Ⅱ（研究科　児童）

３.直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（1）名、大学院生：修士（0）名

４.自己評価
①コロナ禍に見舞われた状況において、遠隔授業の準備、実施、見直しに追われた一年間であった。グーグルクラスルームを活用した授業を行い新しい講義形態を経験できたことは大きな収穫であり、対面授業とは違った学生の面に触れることができたことも今後の授業のあり方を考える点で大いに参考になった。
②専門ゼミナールⅡでは３名の学生を担当し、卒業研究では１名の学生に卒業論文指導を行った。4 名それぞれに主体的にテーマ設定をし、高い研究意欲を持ちながらレポート作成及び論文作成に取り組んでいた。仮説設定の方法及び相応しい研究手法、文献や資料収集の方法などに関する指導や助言を行った。レジュメやパワーポイントを利用してのプレゼンテーション等についても指導を行った。
これらの経験を重ねることにより問題意識や考察が深化し、どの学生も強い達成感を得ている。学生の主体的な学びの姿勢形成に貢献できたのではないかと考える。
③毎回、授業終了時にフィードバックシートを記入させ、次回講義時に解説と共に返却し、双方向的な授業となるよう心がけた。講義内容に関する質問、時間外学習などの記入項目を設けることにより、事前・事後学習の重要性を気づかせることができたのではないかと思っている。フィードバックシートには誤字脱字が多く、何を言いたいのかわからない文章も多くみられ、毎回、チェックし添削して返却するのはかなりの負担であるが、学生からも好評であり、今後も継続することによって授業の双方向性を確保する。
④これまでに引き続き、レポートの書き方に関する指導に時間を割いた。「教科書の丸写しまたは教科書を要約しただけ」は見られなくなったが、「ウィキペディア等の丸引用」、「参考文献や資料がない」などの問題はまだまだ解消できていない。今後も引き続きレポート作成についての指導を行い、主体的に学ぶ姿勢が求められていることを学生に自覚させたい。
⑤以前受講した「ティーチングポートフォリオ作成ワークショップ（ＳＰＯＤ加盟校教員対象）」の内容を反映した教育を実践することができたと感じている。来年度も引き続き、教育の責任、理念、方法、成果、課題、改善、目標を整理し、教育に携わる専門職としての責任を自覚し、「教学相長」を意識しながら日々の教育活動に従事したい。

研究領域
１．様々な困難を抱えた家族への支援策
２．家庭における道徳的規範の世代間継承
３．家族を超えた関係の形成によるケアの社会化

令和 2 年度分 研究業績一覧
1. 論文・著書
『持続可社会をつくる生活経営学』日本家政学会生活系絵学部会編
朝倉書店 （分担執筆）
2. 学会発表
なし
3. 知的財産権の出願・取得状況
なし
4. 令和 2 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
なし

自己評価
①家族をめぐる状況が大きく変化している中、家族の多様性、家族を補完する新たな関係性に関する研究が求められている。特に、課題を抱えた人自らがそれを乗り越えていくためにはどのような支援が必要かについて研究を深めたい。
②日本家政学会生活系絵学部会による『持続可社会をつくる生活経営学』の発刊に貢献できた。
③所属する学会の大会等がほとんど中止という状況となったが、日本家政学会が認定している新資格「家庭生活アドバイザー」研修会にオンライン参加することができた。今後は、本資格の認知度を高め、資格としての実効性を高めるよう学会と協力していきたいと考えている。
④鳴門教育大学の黒川衣代教授を筆頭とする研究グループに属し、2019 年度ダイバーシティ推進共同研究制度に応募し採択された。「働く女性の家事に関するアンケート～家事のダウンサイジング」という内容に関する質問紙調査を行った。

大学内運営
活動報告
学科長、自己点検・評価実施委員会、宿泊セミナー運営委員会、教務委員会、教員養成対策委員会、短期中期目標・計画策定委員会、1～4 年生チューター

社会貢献
１． 学会等への貢献
日本家政学会家族関係学部会
日本家政学会生活経営学部会
日本消費者教育学会
２． 教育機関への貢献
八女筑後看護専門学校看護科非常勤講師 担当科目「文化と生活」
３．審議会等委員
① 徳島県政府調達苦情検討委員会委員
② 徳島県大規模小売店舗立地審議会委員
③ 徳島県職業能力開発審議会委員
④ 久留米市伝統的町並み保存審議会委員
⑤ 久留米ユニセフ協会評議員

個人情報

１.氏名：藤田　義彦
２.職位：教授

教育領域

１.教育の担当専門領域：医学系、薬学系、衛生学、食品学、公衆衛生学
２.学部授業担当科目
前期：公衆衛生学（予防医学を含む）、食品の安全性、食品衛生学、食品学実験、専門ゼミナールⅠ、衛生学特論（専攻科）、生活文化特論Ⅰ（大学院）
後期：衛生学、公衆衛生学実習、食品学各論実験、食品衛生学実験、食品学実験、専門ゼミナールⅡ、公衆衛生学特論（社会福祉を含む）（専攻科）、生活文化特論Ⅱ（大学院）
３.直接に研究指導した学部学生：卒業論文　２名
４.自己評価：授業内容をプリントにまとめて、分かりやすい授業の説明に心掛けた。予習で学んだことをグループで共有し、学生に発表してもらい自発的学習のモチベーションを高めた。

研究領域

１.専門研究領域：医学・薬学・分子生物学・法科学
２.研究課題及び概要
①ＤＮＡによる徳島県特産物、薬用植物の新･鑑定法：徳島県特産物、薬用植物は、日本人の健康志向を反映して広く用いられている。しかしながら、それらを摂取、服用するときは、加工や抽出をするため原形をとどめず植物形態学的検査による品種識別は困難となる。また、偽造や異物混入も考えられ、安全と安心の健康生活を目指してＤＮＡによる徳島県特産物、薬用植物の新･鑑定法を開発する。
②法科学におけるＤＮＡ鑑定の問題点を指摘し、冤罪絶無のための解決策を示し、社会正義の実現を目指す。
③世界的な法科学鑑定の標準化の確立を目指す。

令和２年度分 研究業績一覧

1. 論文

①平岡義博，稲葉光行，藤田義彦，千原國宏，木村祐子：法科学の再構築－誤鑑定防止のための司法・社会システムの修復に向けて－、立命館人間科学研究、41、39-60、2020。（特別論文・査読あり）
②藤田義彦：ＤＮＡによる徳島県特産物の新･鑑定法～第７報～食品偽装のない安全と安心の食生活を目指して～、ＤＮＡ多型、28、41-45、2020。（集会発表論文・査読あり）

2. 学会発表

①藤田義彦：元科学捜査官による「DNA 鑑定」の検証（その５）～殺人事件～、第５７回日本犯罪学会総会、東京、2020。

3. 知的財産権の出願・取得状況

なし

4. 令和２年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

なし

自己評価

「法科学の再構築－誤鑑定防止のための司法・社会システムの修復に向けて－」を立命館人間科学研究に査読ありの特別論文として発表し、世界的な法科学鑑定の標準化の確立を構築した。

「ＤＮＡによる徳島県特産物の新･鑑定法～第７報～食品偽装のない安全と安心の食生活を目指して～」をＤＮＡ多型に査読ありの集会発表論文として発表し、ＤＮＡによる徳島県特産物の識別法を開発した。

「元科学捜査官による｢DNA 鑑定｣の検証（その５）～殺人事件～」を第５７回日本犯罪学会総会において発表し、法科学鑑定の正確性、客観性、適正化を提言した。

以上、学会発表、論文発表を行い、前年度以上の成果を上げることができた。さらに研究を進め、世界的に法科学鑑定の標準化を確立し、冤罪の絶無を目指す。また、その成果として本の出版を予定している。

大学内運営

活動報告

倫理審査委員会副委員長、教育研究委員会副委員長、新入生セミナー運営委員

社会貢献

１．学会等への貢献

①日本法科学技術学会評議員
②日本犯罪学会評議員
③日本薬学会会員
④日本法医学会会員
⑤日本ＤＮＡ多型学会会員
⑥日本法中毒学会会員

２．地域社会への貢献

①学校薬剤師（徳島文理大学附属幼稚園、徳島文理小･中･高等学校）
②徳島文理大学同窓会・アカンサス会顧問
③社会福祉法人ひまわり福祉会評議員
④えん罪救済センター運営委員

個人情報

１．氏名：竹原　明美

２．職位：准教授

教育領域

１．教育の担当専門領域：家庭科教育法

２．学部授業担当科目

前期：家庭科教育法Ⅰ・Ⅱ、調理学、食品学、調理学演習、食品加工貯蔵学実習、専門ゼミナールⅠ、生活文化論、卒業研究

後期：家庭科教育法Ⅲ、家庭科教育法Ⅳ、専門ゼミナールⅡ、調理学実習、事前事後指導、卒業研究

３．直接に研究指導した学部学生：卒業論文（10）名

４．自己評価

本年度の家庭科ⅠⅡⅢⅣと事前事後指導では、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する予定であった。しかし、コロナの影響で前期はオンライン授業となり、来年度実習校において実践できる内容を取り上げたループ学習やロールプレイングなどが実施できず、画面上で指導案やグループ学習の内容についてお互いの意見交換だけであった。しかし後期授業ではどうにか模擬授業等の実践や参観ができた。結果的には予想以上に昨年度より好評価を得た。

調理学や食品学もオンライン授業では細部までの説明等が対面授業のようには出来亡かった。前期試験もオンラインでのテストであったため出題も限られ知識・理解の定着が悪いのではないかと思われる。

実験・実習の授業の授業については前期に開講されている調理学演習や食品貯蔵加工学実習もオンライン授業も入ったため，夏休みも実習を補講にあてたが内容を簡単にしたり，内容をまとめたりして実習数を減らしたため，満足できる授業にはならなかった。

しかし調理学実習は予定通りの実習を実施することが出来た。コロナの影響で建築デザイン学科の受講希望者は受け入れ人数を少なくしたため学生に迷惑をかけた。前期の調理学の内容と関連した実習もあったため調理学の内容を理解していないために実習の指示が通らなく、自分勝手なやり方で実習を進める学生や予想外の調理をする学生もいて、指導法改善の必要性を感じた。

研究領域

１．専門研究領域：家庭科教育の実践力をつける教育法，シカ革の有効利用

２．研究課題及び概要

家庭科は「不易と流行」の教科であり、内容は家庭生活の細部にわたっている。しかし、中・高での授業時数は非常に少ないという現状の中で、生徒たちにどう指導していく事が可能なのかを探ることを昨年度研究課題にあげた。本年度も、アクティブ・ラーニングを取り入れるとどのような効果があるのかということに取り込み実践した。受講した学生たちは模擬授業で取り入れることにより実感できた。

シカ革の研究では、シカ革製品を通した地域連携で商品開発や販売・展示またシカ革の中高家庭科の教材にどのように取り込むかについて学生と共に進めた。本年度はポッポ街にオープンした「むすびカフェ」でハンドメイドした作品の展示、那賀町にあるアルファガスの森での販売に取り組んだ。また、城ノ内高校生に対しては出前授業を実施し、獣害についての講義で特にシカの害、SDGs にどうつながるかについてもについて理解してもらうことができた。更にシカ革小物を製作してシカ革の良さを実感してもらうことができた。

令和２年度分 研究業績一覧

1. 論文

なし

2. 学会発表

なし

3. 知的財産権の出願・取得状況

なし

4. 令和２年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

なし

自己評価

授業運営については支援を要する学生もいるため、わかりやすい授業形態を実践していきたいと考えている。また、シカ革研究についてはまだまだ研究の余地が残っており染色や利用の部分で研究を進めていきたい。

大学内運営

活動報告

人間生活学科４年担任　チューター生（３年５名　２年５名　１年２名)、
教職課程委員会委員、教員養成推進委員会委員、広報委員会委員､全学共通教育センター学習支援アドバイザー、入学試験委員会委員
退学者防止対策検討委員会委員

① 中・高の家庭科教員を目指し採用試験を受験予定の学生に対し、教員養成対策講座はもとより、その延長として学生に受験対策を実施した。特に緊急事態宣言中は大学の許可を得て何度か講座を開いた。

本年度は徳島県高知県、香川県、愛媛県、沖縄県、和歌山県の教員採用試験を受験した。結果は、和歌山県の中学校家庭科に１名が現役合格できた。

建築デザイン学科の男子学生は大阪府、高知県、東京都の一次試験にはすべて合格した。コロナの影響で受験対策がままならなかったが学生達は例年以上に頑張りをみせ、１次試験ももう少しで合格という学生が数名いた。

② 県立那賀高校への広報活動を行っている。森林クリエイト科もでき、普通科の定員も少なくなったため，大学への進学率が減少している。さらに、コロナの影響で本年度は就職希望者も多くなる中、昨年度と同じ４名が大学・短大で受験し来年度入学する予定である。

社会貢献

１． 学会等への貢献

なし

２． 地域社会への貢献

① 小松島西高校学校評議員
② 城ノ内高校への講師
③ 徳島県内の大学と徳島県教育委員会との連携に関する連絡協議会委員
④ ファガスノ森においてシカ革の小物販売

個人情報
１.氏名：池添　純子
２.職位：准教授

教育領域
１.教育の担当専門領域：　地域居住学、住居学

２.授業担当科目
前期：文理学、生活と環境、総合科目Ｂ（学生災害ボランティア入門）、専門ゼミナールⅠ
後期：生活文化論、家族関係学、専門ゼミナールⅡ

３.直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（0）名、大学院生：修士（0）名

４.自己評価
①今年度から人間生活学科の新カリキュラムとして開講されるコミュニティデザイン関連科目を担当するため、学科のカリキュラムポリシーの下位に位置づくコミュニティデザイン系カリキュラムポリシーの構築に向け、次年度以降開講科目も含めた授業内容を検討した。今年度開講科目「生活と環境」「生活文化論」は、コミュニティデザイン系の基礎科目とし、今後のフィールドワークにつながる授業設計を行うことができた。
②担当授業はフィールドワーク等のアクティブラーニングが多く、地域との連携や活動の「ふりかえり」が重要となるため、その評価手法やプログラム内容に関する複数の研修にオンラインで参加し、最新の情報を収集することができた。今年度参加した研修は以下の通りである。地域人材育成 FD・SD フォーラム，地域交流委員会共同 SD「地域と共に歩む TJUP」，第 16 回大学教育カンファレンス in 徳島
③「学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計－課題分析図の活用－」（SPOD 加盟校教員対象 FD・SD スキルアップ講座）を受講し、課題分析の手法を用いた授業設計手法を理解することができた。本講座の内容を反映し、「家族関係学」の授業設計を見直した。
④「専門ゼミナールⅡ」では６名の学生を担当し、地域活動を通して地域課題の解決策を検討する力を身に付けられるよう、実践的な研究活動を行う予定であった。事前調査、イベントの企画・準備まで、学生は主体的に取組んでいたが、コロナ禍の状況を鑑み、直前ですべての地域イベントを中止せざるを得なくなったことが残念であった。一方で、学生自身のふりかえりによると、地域課題を自分事として捉えることができた等、実践的な教育に一定の効果がみられた。また、地域連携センターと打ち合わせを重ね、学生の教育プログラムを実践することができた。
⑤１年生の担任として、今年度は遠隔授業期間が長かったこともあり、オンラインも含め４度の個人面談を実施するなど、きめ細やかな個人指導を心がけた。また、「すぐ使える 90 分セミナー⑥＜発達障害のある学生に配慮した授業づくり＞」（徳島大学 FD 推進プログラム）にオンラインで参加し、得られた知識を参考に、特別な配慮が必要な学生へ対応した。

研究領域
１.専門研究領域：　地域計画　農村計画

２.研究テーマ：・誰もが最期まで住み続けることができる地域環境の整備
・事前復興まちづくりにおける環境移行

令和２年度分 研究業績一覧

1. 論文・著書

なし

2. 学会発表

なし

3. 知的財産権の出願・取得状況

なし

4. 令和２年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

①科学研究費補助金：若手研究(B) 課題番号：17K12877　「超高齢社会における地域包括ケアシステムに適した日常生活圏域の在り方に関する研究」研究代表者

②科学研究費補助金：基盤研究(B) 課題番号：20H02318　「大災害・気候変動等によるコミュニティ移転の環境移行特性と持続的再定住の計画論」研究分担者

自己評価

①昨年度は育児休業中であったため、今年度は研究成果を発表することができなかった。次年度は今年度の研究成果を取りまとめ、学会発表等を行う予定である。

②コロナ禍の状況においてフィールド調査が困難を極め、研究の進捗状況が遅れている。移動可能であった県内地域で新たなフィールドを持ち、調査準備を進めることはできた。また、共同研究者とはオンラインミーティングの環境が整い、出張頻度が減少したことで一定のワークライフバランスが保たれた。

③研究テーマに関連するオンライン講演会が多く開催され、普段参加できない時間帯の講演会に自宅からも参加可能となり、複数の講演会で最新の情報を収集することができた。

④超高齢社会における社会的課題や自然災害が頻発する我が国の生活環境等、担当授業の内容と研究テーマがリンクする場面が多く、研究で得られた最新の知見を学生に教授することができた。また、高齢者の生活支援を目的とする住民団体から顧問として依頼があり、適宜活動内容についてアドバイスを行った。今年度は、一部団体からの依頼をお断りすることとなったが、このような地域団体からの依頼は社会貢献につながるだけでなく、学生教育の貴重な場となることも多く、今後も積極的に引き受けたい。

大学内運営

活動報告

１年クラス担任、自己点検・自己評価委員会、学生指導委員会、広報担当委員会、新入生セミナー運営委員会、遍路ウォーク委員、1～4 年生チューター、二級建築士受験資格関連事務担当

社会貢献

１. 学会等への貢献

日本建築学会　四国支部徳島支所幹事

２. 地域社会への貢献

① 徳島県屋外広告物審議会委員
② 徳島県地方港湾審議会委員
③ 徳島県耐震改修促進計画検討委員会委員
④ 「いいね＃徳島暮らしアイデアコンテスト」審査委員
⑤ 徳島市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定委員
⑥ 美波の SORA 顧問

個人情報
１．氏名：竹内　理恵
２．職位：講師

教育領域
１．教育の担当専門領域：看護学　学校保健学　養護実践学　健康教育学
２．学部授業担当科目
前期：基礎看護学（人間生活学科・心理学科合同）　看護技術（人間生活学科）　看護技術（心理学科）　保健科教育法Ⅰ　事前・事後指導（養護）　専門ゼミナールⅠ　学校ボランティア実践（人間生活学科・心理学科合同）
後期：臨床看護学（人間生活学科・心理学科合同）　基礎看護技術（人間生活学科）基礎看護技術（心理学科）　臨床看護実習（人間生活学科・心理学科合同）小児保健　教職実践演習（人間生活学科・心理学科・看護学科合同）　養護実践演習（人間生活学科・心理学科合同）　養護学特講　専門ゼミナールⅡ卒業研究　学校ボランティア実践（人間生活学科・心理学科合同）臨床看護実習の事務手続き全般
３．直接に研究指導した学部学生：卒論研究（４）名
４．自己評価
学生が主体的に授業に取組めるように、ルーブリック評価を取り入れ、グループ活動や各人の発表等に対する他者評価並びに自己評価を実施した。また、知識理解のために予習範囲の教科書の要点をノートにまとめさせ毎回チェックするとともに、知識の定着を図るために小テストを数回実施して、学生の自主的学習を促すようにした。
さらに、授業をきっかけにそれぞれの科目に対する興味や関心を広げ、学生の学ぶ意欲を育てるために小論文の作成を課題とした。学生が関心のある内容をテーマとして取り上げ、調べまとめる体験を通して、学ぶことへの関心を高め、論理的な思考力を身に付けられるようにした。
今年度は、遠隔配信授業があったことから、グループ活動での他者評価並びに自己評価を実施する機会が減ったことが残念であった。また、看護技術や基礎看護技術という実技を学ぶ科目は、対面で行う実習の時間が減るとともに補講をする時間も取れなかったので、次年度に補講をするなどの取り返しが必要である。また、今年度は、臨床看護実習が、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響により、病院での実習７日間が全て中止となり大学における代替実習となった。学生の貴重な経験の場がなくなったことが残念であった。

研究領域
１．専門研究領域：学校保健学　養護実践学　看護学　健康教育学
２．研究課題及び概要
養護教諭には、多様化･複雑化した健康課題を解決していく実践的能力が求められる。そこで、養護教諭養成における実践的能力の育成に関する研究と、現場の養護教諭と連携した健康課題を解決するための養護実践活動のあり方に関する研究をさらに進めていこうと考えている。
３．令和２年度分　研究業績一覧
・論文　「子どもの主体性・探究心を育てる養護実践のあり方の検討－ＳＣＡＴを用いた質的分析を通して－」日本養護教諭教育学会誌（投稿中）
・著書　　なし
・学会発表
1) 竹内理恵、貴志知恵子、長濱太造：子どもの主体性・探究心を育てる養護実践とは（第２報）－養護教諭が捉える子どもの主体性と探究心－　日本養護教諭教育学会第 28 回学術集会、熊本県玉名市、2020
2) 貴志知恵子、竹内理恵、長濱太造：子どもの主体性・探究心を育てる養護実践のあり方を問う（第１報）－事例“歯の自分史”を省察して－　日本養護教諭教育学会第 28 回学術集会、熊本県玉名市、2020
４．知的財産権の出願・取得状況
なし

５．令和２年度分　科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
なし
６．自己評価
平成 28 年度より、学生の養護実践能力の向上を図るために、保健室ボランティア活動の企画・運営をしている。平成 28 年度は 35 回延べ 120 人、平成 29 年度は 72 回延べ 189 人、平成 30 年度は 78 回延べ 186 人、令和元年度は 162 回延べ 287 人、令和２年度は 56 回延べ 89 人の学生が、各学校の要請を受けボランティア活動に参加した。このように学校現場で直接養護教諭から指導を受け、養護実践活動を行う機会を作っている。これらの体験により、学生は自分の養護教諭像をより確かなものにし、今後の養護実習や採用試験に向けて意欲を持って取組む原動力になったと考えている。しかし、令和２年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延の影響により、学校からの申込み回数が減ったので派遣回数、派遣人数ともに減っている。今後は、学校現場の養護教諭の協力を得て、学生に多様な体験ができる場を作り、学生の実践力向上の研究を進めたいと考えている。
次に、令和元年度より徳島市名東郡中学校養護教諭部会と「生徒の健康に対する関心を高める効果的な取組をめざしてー健康診断の機会を活用してー」というテーマで共同研究をしており、現場の養護教諭と連携した研究をさらに進めたいと考えている。

大学内運営
１．活動報告：広報委員、教員養成対策委員、３年生担任、１～４年生チューター、全学共通教育センター学習支援アドバイザー、養護教諭免許取得者の臨床看護実習の運営及び事務手続きの全般、養護教諭採用試験の二次対策指導
２．養護教諭採用試験受験者への指導
養護教諭を目指して採用試験を受験予定の学生に対し，教員養成対策講座における指導を実施するとともに、個別の対策指導などの受験対策を実施した。また、採用試験を受けた４年生が各県別に２～３年生に対して試験内容や勉強の仕方を伝える体験発表会を開催し、これから受ける学生の意欲の向上を図っている。その結果、今年度は１名が現役合格を果たした。これまでにも、平成 28 年度から５年連続で現役合格の学生が出ている。
３．臨床看護実習の中止と大学での代替実習について
今年度は、人間生活学科並びに心理学科の学生の養護教諭免許取得に必要である臨床看護実習が、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響により、病院での実習７日間が全て中止となり大学における代替実習となった。代替実習は心理学科の担当教員の協力を得て実施したが、７日間のうち６日間を終日（9:00～16:30）担当した。主に実施した期間が 1 月末から２月中旬の限られた期間であり、一人で行う業務としては過剰で非常に負担となった。これまでも臨床看護実習の事務手続き全般（各病院との事前打合せ・依頼状等の作成発送）と学生への事前指導を主に一人で行っているが、担当の授業科目を年間 18 科目担当した上で実施しているため非常に負担である。他の研究領域などの業務にも困難が生じている状況であり、担当科目を減らすなどの改善を希望する。

社会貢献
１．学会等への貢献
日本養護教諭教育学会会員
日本学校保健学会会員
日本教育保健学会会員
日本健康相談活動学会会員
２．地域社会への貢献
① 令和２年度教員免許状更新講習講師
令和２年８月 17 日「ヘルシースクールを目指す教育実践の進め方」
② 徳島文理小学校保護者会教育講演会講師
令和２年 11 月６日「心とからだの健康づくりー子育ての醍醐味ー」
③ 徳島市名東郡中学校養護教諭部会との共同研究
「生徒の健康に対する関心を高める効果的な取組をめざしてー健康診断の機会を活用してー」

第２節　　食物栄養学科

個人情報
１：氏名：石堂　一巳
２：職位：教授

１.教育の担当専門領域：　医学

２.学部授業担当科目
人間生活学部
前期：　健康管理概論・生化学Ⅱ・生化学実験・公衆栄養学演習
後期：　応用生物学Ａ・生化学Ⅰ・臨床栄養学Ⅰ・病理学・食品衛生学演習
大学院（博士前期課程）
前期：栄養生理学特論Ⅰ・特別研究
後期：栄養生理学特論Ⅱ・栄養学特別演習・栄養学特別実習・特別研究

３.直接に研究指導した学部学生等
卒業論文（4）名、大学院生：修士（2）名

４.自己評価
食物栄養学科一年生が最初に受ける講義として「健康管理概論」を担当している。新入生が「管理栄養士になりたい」というモチベーションを鼓舞する目的で、管理栄養士の活躍を放映したYouTubeを使った遠隔授業を実施した。また、新入生に本を読む習慣をつける目的で教科書として新書（「がんでは死なないがん患者」（東口隆志著、光文社新書）を採用している。また、対面授業の内容をGoogle ClassroomにUpすることで学生の復習に役立ててもらっている。

研究領域：医科学一般
研究テーマ
１．カスパーゼ特異的阻害剤及び合成基質の開発
２．海藻抽出成分からの抗炎症作用物質の同定
３．QPRT結合物質によるアポトーシスの誘導：新規抗がん剤の探索

令和２年度分 研究業績一覧
1.　論文・著書
・Ishidoh K., Nikawa T.: Ubiquitin ligase Cbl-b and its inhibitory peptide Cblin. Biochim Biophys Acta　Protein and Proteome, 2020, 1868(11) 1401495

2.学会発表
なし

3.知的財産権の出願・取得状況
なし

4.令和２年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
１）ビタミンＢ委員会研究奨学金１０６，０００円

自己評価：学科運営（四年生の国家試験対策および各学年の退学防止、新入生の獲得）及び大学運営（全学教務委員長、徳島文理大学研究倫理審査委員長、人間生活学

部実験動物員会委員長、人間生活学部組み換え実験安全主任他）を行っている。そのため、研究活動に使える時間が著しく減少している。少しでも研究活動に使える時間を捻出する必要を感じている。

大学内運営：

健康科学研究所・所長
食物栄養学科長
人間生活学研究科・食物学専攻主任
研究倫理審査委員会委員長
全学教務委員会委員長
全学研究推進委員会委員
発明審査委員会委員
人間生活学部組換え実験委員会委員長
人間生活学部動物実験委員会委員長

社会貢献：

日本生化学会評議員
日本病態プロテアーゼ学会役員
American Society of Biochemistry and Molecular Biology 会員
日本分子生物学会会員
日本人類遺伝学会会員
日本ビタミン学会会員
ビタミンＢ研究委員会委員

個人情報
１.氏名：　犬伏　知子
２.職位：　教授

教育領域
１. 教育の担当専門領域：食品衛生学

２. 学部授業担当科目
・人間生活学部
　前期：食品衛生学、総合演習Ⅰ、公衆栄養学演習、公衆栄養学実習(2 クラス)
　後期：食品衛生学特論、総合演習Ⅱ、食品衛生学演習、食品衛生学実習(2 クラス)
・大学院（博士前期課程）
　前期：食品衛生学特論Ⅰ
　後期：食品衛生学特論Ⅱ

３. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（1）名

４. 自己評価：
　前期の公衆栄養学演習と後期の食品衛生学演習は国家試験科目であり、問題数もかなりあるので、集中してわかりやすく印象に残るように教育する必要がある。
　4 年生の臨地実習の指導なども含まれる総合演習ⅠとⅡの担当でもあり、国家試験の合格率にも繋がる教科なので、年度の最後まで気がぬけない。今年度は、臨地実習がコロナの影響により、延期や中止になり卒業学年の学生、教員とも大変であった。

研究領域、栄養
１．発色剤の調理操作による残存量の変化（食品衛生学）
２．栄養成分表示の適正化状況の調査
３．足指筋力と身体組成、栄養素摂取量および食品群別摂取量の関連

令和２年度分 研究業績一覧
1. 論文・著書
1）同文書院　第二版「知る！わかる！身につく!!　公衆栄養学」編著者　逸見幾代/著者　犬伏知子他 9 名、2020 年 3 月発行

2. 学会発表
1. ヒトエグサ（アオサノリ）を毎日摂取することによる身体への影響：小川直子、犬伏知子、山本博文．第 8 回日本食育学会学術大会　（東京・東京家政学院大学）誌上発表、2020 年 5 月

2. 食品成分表を活用した熱量及び栄養素量の計算方法における課題の抽出：中川利津代、宮川真子、森實きらら、犬伏知子．第 67 回日本栄養改善学会学術総会（札幌）誌上発表、2020 年 9 月

3. 知的財産権の出願・取得状況
1）　なし

4. 令和 2 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
なし

自己評価：
今年度は 4 年生の担任であり、総合演習Ⅰ、Ⅱの授業で国試の模擬試験、試験問題のとりまとめ等に時間を費やした。臨地実習も、延期、延期が続き結局は、中止になるなど、施設からの要望等を教員と学生に連絡するだけでも大変であった。
論文は、2 年前の学生の卒論をまだ何らかの形に残せていないので、早くまとめて論文として残す。残された日々を、教育と研究にしっかりと力を注ぐ。

大学内運営
1　活動報告
① アカンサス会徳島県支部の副支部長を担当
② 学生指導委員会の委員担当
③ 入試問題作成委員（化学基礎）の主任担当
④ 臨地・校外実習の実習先開拓および実習計画担当
⑤ 4 年生の担任
⑥ 1 年から 4 年生 21 名のチューター担当

社会貢献
1　学会等への貢献
特になし

2　地域社会への貢献
① 徳島県食の安全安心審議会委員を担当
② 徳島県消費生活審議会委員を担当
③ 徳島県危機管理部消費者くらし安全局安全衛生課の講師指導のもと、食物栄養学科 2 年生を食品表示ウオッチャーとして、市場の食品表示のチェックを行なってもらった。
④ アカンサス会徳島県支部の行事（夏休みの宿題を親子で完成させよう（絵画教室)、生活習慣病に効果的な有酸素運動を体験しよう！）の講師依頼と日程調整、総会後の研修会の予定を準備していたが、コロナ禍のため、すべて中止とした。

個人情報
１.氏名：坂井　堅太郎
２.職位：教授

教育領域
１.教育の担当専門領域：　基礎栄養学・応用栄養学

２.学部授業担当科目
前期：基礎栄養学、応用栄養学Ⅱ、調理学演習、栄養学Ⅱ（人間生活学科）、解剖生理学（短期大学部食物専攻）
後期：基礎栄養学実習、応用栄養学Ⅰ、応用栄養学実習、給食経営管理演習、栄養学（理学療法学科）

３.直接に研究指導した学部学生等：卒業論文３年（5名）・4年（3名）

４.自己評価：
担当した授業について、授業中に学生自らが授業の内容をまとめるプリントを配布し、学生が習得しなければならない知識について、体系的に身に付くよう工夫した。また、パワーポイントによる授業展開を複数科目で取り入れ、受講学生の理解度を高める工夫をした。
今年度は、特に遠隔授業が多く行われ、グーグルクラスによるテキスト配信、資料添付、ミートによるパワーポイントによる音声授業を取り入れた。

研究領域
１．専門研究領域：栄養生化学
２．研究課題及び概要：
①食物アレルギーの発症機構に関する栄養化学的研究
アレルギーを引き起こしているヒスタミンが必須アミノ酸の一つであるヒスチジンから合成されていることに注目し、栄養生化学的な視点から栄養管理につなげていく研究を行っている。

令和２年度分 研究業績一覧
1. 書籍
1）坂井堅太郎：エキスパート管理栄養士養成シリーズ「基礎栄養学（第５版）」（化学同人）、編集・執筆、2020年９月

3. 知的財産権の出願・取得状況：なし

4. 令和２年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし

自己評価：
本年度は、新型コロナウイルス感染拡大による遠隔授業が多く行われ、授業コンテンツの作成に追われた。今後、次世代の授業環境を見据えて、さらに教育・研究の整備を進めていきたい。

大学内運営
１.活動報告
①人間生活学部広報担当委員会・委員長
②研究紀要編集委員会・委員

③災害時初期対応者

社会貢献

１. 学会等への貢献

①日本栄養・食糧学会　参与

②日本栄養改善学会　評議員

③日本アミノ酸学会　会員

2. 表彰

①令和２年度栄養関係厚生労働大臣表彰　受賞

個人情報
１.氏名：坂井　隆志
２.職位：教授

教育領域
１.教育の担当専門領域：　生理学、免疫学、解剖生理学、栄養学、微生物学

２.学部授業担当科目
　前期：運動生理学、解剖生理学Ⅰ、食品加工学演習、卒業研究
　後期：　微生物学、解剖生理学Ⅱ、解剖生理学実験、免疫学、解剖生理学（音楽学部、人間生活学科、心理学科）、卒業研究
大学院
　前期：生活習慣環境学域
　後期：なし

３.直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（６）名、大学院生：（０）名

４.自己評価：　一年を通して講義数が多く、その準備が大変だった。担当した微生物学、解剖生理学、運動生理学はどれも２コマの授業時間の中で教えるには範囲が広く、すべてを細かく教授することは不可能であることから、学生の目標である「管理栄養士国家試験合格」のための講義をすることを第一の目標とした。新型コロナ禍の中で遠隔授業が多く、その影響もあり昨年度に比べて授業準備にかかるエフォートが増えた。また総合選抜入試の取りまとめの仕事が昨年よりも増えるなど、運営業務が忙しく、予定していた研究領域のエフォートを増やすことはできなかった。

研究領域
１．歯薬学分野・基礎医学・病態医化学

令和２年度分 研究業績一覧

1. 論文・著作
　なし

2. 学会発表
1)　なし

3. 知的財産権の出願・取得状況
1)　なし

4. 令和２年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
1)　科学研究費補助金（挑戦的研究（萌芽））;「肝臓組織中におけるクッパー細胞と NK 細胞の新規メンテナンス機構の解明」代表（不採択）

自己評価：研究成果をまとめ、論文として発表することが出来なかった。教育領域へのエフォートを取り過ぎ、研究領域が少々疎かになった感がある。

大学内運営
１）　チーム医療促進委員会委員（医師）、新入生セミナー運営委員会委員、入学試験

委員会委員
２） 入試問題作成委員（生物基礎）責任者：一般（Ⅰ期A,Ⅱ期）および推薦入試問題の作成、問題チェックおよび採点の実施兼取りまとめ役
３） 総合選抜入試の学科窓口として、受験生の面接段取り手配など（２１人分）

社会貢献
１） 日本生化学会評議員（平成３０年１１月より）
２） 毎月０～２回ほど（土日祝日のみ)、徳島県赤十字血液センターなどからの依頼で医療業務に従事
３） 毎月１～２回（日曜日)、香川県高松協同病院からの依頼で病棟管理業務に従事
４） 徳島大学大学院講義（e ラーニングによる英語の講義）
５） 徳島大学歯学部非常勤講師として歯学部３年次生に講義（１コマ）
６） 徳島大学医学部講師、徳島大学大学院医科学教育部担当客員教授として研究に参加

個人情報
１.氏名：岩田　深也
２.職位：教授
教育領域
１.教育の担当専門領域：　食品学、食品加工学
２.学部授業担当科目
　　前期：　食品学、食品加工学演習、食品学実験Ⅰ
　　後期：　食品学特論、食品学実験Ⅱ
　大学院
　　前期：　無し　　後期：　無し
３.直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（4）名、大学院生：修士（0）名
４.自己評価：　専門的な内容を、中間的なレベルの学生の能力・立場、を汲み取って、可能な限り内容を噛み砕いて解説、指導した。最終的な目標、理想は学生全員の国家試験合格と考えているため、画像、動画等、内容を理解し易く、集中し易い様に講義内容を工夫して、全体のレベルアップ及び国家試験合格率の更なる向上に取り組んだ。何らかの課題を与えられない限り、また、成績に直接つながる利点等が目に見えない限り、講義に対し積極性を欠く学生が多く見受けられるため、小テスト等を盛りこんだ。また、5回目までは講義を休んでも大丈夫と考えている学生が、年を追うごとに少しずつ増えていく現状がある。休んではもったいないといった雰囲気を醸成するため、ランダムに質問をするといった講義内容を増やして、講義に集中せざるを得ない環境を創った。遠隔講義においても、興味を引く動画を多用し、質問を挟む等でやる気を引き出すことに努めた。

研究領域
１．発酵微生物学

令和２年度分 研究業績一覧
1. 論文　1）　無し。
2. 学会発表　1）　無し。
3. 知的財産権の出願・取得状況　1）　無し。
4. 令和２年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：1）　無し。
自己評価：
　　健康・体力の問題から、研究活動に関してはほとんど手を付けられていない。全学年の成績不良者に対する対応や、卒論ゼミ生に対する国家試験対策等で手一杯であった。　最終年度で、実験結果をまとめたかったが、体調不良が続き思う様な実験ができなかったのが残念である。
大学内運営：
　学生指導委員会において、学生に対し、コロナ禍における学生生活アンケートを行った。学生の現状における生活面で感じている不安や対応法について調査できた。
　１年生の担任及び１～4年生のチューターを受け持った。
　保護者会等において学生の保護者に対し面談、説明（コロナ対応で、電話によるものを含む）を行った。
社会貢献：
　　徳島県農林水産部が開設する、農業大学校における６次産業化コースにて、講師を務めた。
　さらには、県内の食品産業（農業従事者本人を含む）及び食品関連機器製造業に携わる社会人の方々の食品に関する知見をより高めるため、食品の機能性等に係る、指導及び講義を行い、食品加工技術（特に発酵技術）レベルの底上げに貢献できたと考

えている。全国二位の生産量を誇る筍の新製品開発や、限界集落等における新たな産業の掘り起こし等にも携わった。

また、日本酒造組合四国支部における技術顧問に就任し、前年度の酒造タンク内の酒質保全（呑み切り）や、秋口からの酒造期において土日等休日には、県内の酒造会社の現場を巡回して技術指導を行い、四国内の酒造技術の向上（特に吟醸酒の醸造技術）に貢献してきた。

個人情報
１.氏名：中川　利津代
２.職位：教授

教育領域
１.教育の担当専門領域：　公衆栄養学、公衆衛生学

２.学部授業担当科目
前期：　公衆栄養学Ⅰ、公衆衛生学Ⅰ、公衆衛生学演習、公衆衛生学実習
後期：　公衆栄養学Ⅱ、公衆衛生学Ⅱ、公衆衛生学演習
通年：　ゼミ　卒業論文
３.直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（10）名、大学院生：修士（）名
４.**自己評価**：
・２年生の担任として、個別指導及び面談を多数回実施。
・学生が授業に興味を持つように配布資料を工夫した。また映画のＤＶＤを視聴した。
・学生が遠隔授業において、わかりやすい授業にすることを目的に、学生に授業の疑問点や工夫点や、授業内容の感想についてアンケートを実施した。その結果、授業の改善につながった。加えて、学生を理解することにもつながり、双方向のコミュニケーションが取れた。また、YOUTUBE の視聴により、授業の理解ができるように工夫した。
・公衆栄養学や公衆衛生学は、教科書を読んだだけではわかりにくい教科である。管理栄養士国家試験問題等を単元ごとに配布し、学習のポイントがどこにあるのかを示した。
・公衆衛生の疫学指標など数学の基礎が必要な分野を苦手とする学生が多いので、国家試験の過去問が解けるようになるまで繰り返し説明した。集団での説明で理解するのが難しい学生には、個別で相談に来るように促した。その結果総合演習の点数が上がった。
・classroom を配布資料や分析用データ等のアップ、学生のレポート提出等に活用した。
・公衆衛生実習はパソコンを使っての実習であったが、遠隔授業のため統計学の基本について講義した。動画を使って、学生が理解しやすように工夫した。
・前期の公衆衛生学、公衆栄養学、公衆衛生学実習の試験は、classroom を使って行った。
・4 年生のゼミ生には、セルフコーチングができるよう月ごとの目標を立て、タイムマネジメントをするように指導した。また、ゼミ室で勉強しやすいように環境を整えた。
・牟岐町産もち麦の商品開発で学生は学校で経験できない体験をした。その内容が、徳島新聞に 3 回、朝日新聞に１回掲載された。
・牟岐町で学生が消費者庁作成の啓発ツールを使って栄養成分表示の賢い活用方法について講義した。その時の様子が農林水産省が発行する食育白書に掲載された。
・輝け！徳島わくわくトーク（移動知事室）で、牟岐町産もち麦の商品開発について発表できるように学生を指導した。輝け！徳島わくわくトーク（移動知事室）の様子は、徳島県のホームページにアップされている。
・牟岐町教育委員会主催事業「コロナ禍での関係人口」、牟岐町主催「牟岐みらい会議若者事例発表会」でもちっとむぎゅっとの会の活動を発表できるように学生を指導した。
・令和２年度は、大学と連携した商品開発事業においてもち麦パスタのパッケージづくりを行った。令和 3 年 4 月に販売開始の予定である。
このような活動の中で学生は、地域貢献にやりがいを見出したり、コミュニケーション能力がアップしたりとキャリアアップにつながっている。
・３年生のゼミ生に自分に合った勉強法、理想とする人価値観から勉強への意欲を高めた。国家試験合格に向けタイムマネジメント、ストレスマネジメントの方法を指導した。
・４年生 6 人に卒論の指導をした。

研究領域：地域貢献を主体とした研究
１．食品表示法での栄養成分表示の全面施行に向け、食品製造業者へのサポート法
・販売業者であるスーパーマーケットを対象に栄養成分を表示済みの加工食品の販売に向けた取組状況及び食品製造業者への支援状況の把握

・菓子製造業者と加工食品を製造している社会福祉施設を対象に食品成分表を活用した熱量及び栄養素量の計算方法に関する課題の把握
・保健機能食品及び栄養強調表示食品と消費者の購買行動との関連について研究した。

２．牟岐町における「もち麦」を使っての地域おこし事業への協力

・もち麦の熱量及び栄養成分の特徴、機能性成分であるβグルカンについて研究した。

令和２年度分 研究業績一覧

1. 論文

2. 学会発表

・「食品成分表を活用した熱量及び栄養素量の計算方法における課題の抽出」【第 67 回日本栄養改善学会学術総会】〇中川利津代

3. 知的財産権の出願・取得状況　１）なし

4. 令和２年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

1)補助金研究費の名称：令和２年度とくしま政策研究センター「委託調査研究」徳島県
2)協働事業　大学と連携した商品開発事業　徳島県、牟岐町の農業を守る会

自己評価：

１.食品表示法では 2020 年４月１日原則栄養成分表示の義務づけが全面施行された。また、徳島県として消費者庁を徳島県に誘致することが優先施策である。このような課題のある今、栄養成分表示制度について研究し、基礎資料としたことは大変意義深い研究である。この度の調査結果は、令和２年度とくしま政策研究センター外部委員審査会で最高得点の評価を得た。徳島県や消費者庁の施策への波及効果が大いに期待できる。
２．　調査結果を受けて食品製造業者と社会福祉施設、販売業者等を対象に実施した研修会を実施した。大学の強みを生かし栄養成分表示をする方法を指導した。
３.食品成分表を活用した栄養成分表示方法の課題を抽出することができた。

大学内運営

・多職種連携推進委員会委員
・防災対策検討委員会委員
・ＯＡ入試、推薦入試の面接
・大学入学共通テストの監督
・オープンキャンパスで相談コーナーを担当
・高校生のための公開セミナー2020 において「食品表示を利用した賢い消費者になるために」と題し学生と共に講演
・保護者会において保護者との面談（徳島、香川）
・管理栄養士国家試験受験のサポート

社会貢献

・食品製造業者・販売業者等を対象にした食品表示及びＨＡＣＣＰに関する研修会の開催
・牟岐町における「もち麦」を使っての地域おこし事業への協力
・牟岐の農業守る会・亀井製麺所・牟岐町・徳島県南部県民局と連携してもち麦パスタの商品開発
・牟岐町産もち麦粉の熱量及び栄養素量の分析
・阿波観光ホテルが販売する弁当の食品表示を指導
・輝け！徳島わくわくトーク（移動知事室）、牟岐町教育委員会主催事業「コロナ禍での関係人口」、牟岐町主催「牟岐みらい会議若者事例発表会」
・もち麦パスタパッケージづくりのグループワークを４回開催
・徳島大学医学部医科栄養学科　非常勤講師

個人情報

１.氏名：近藤　美樹

２.職位：准教授

教育領域

１.教育の担当専門領域：　調理学

２.学部授業担当科目

前期：調理学実習Ⅰ（2 クラス）、食生活論、調理学演習

後期：調理学、調理学実験（2 クラス）、調理学実習 II（2 クラス）

大学院

前期：食物学特別実習、特別研究

後期：食物学特別演習、特別研究

３.直接に研究指導した学部学生：　卒業論文（8）名、大学院生：修士（2）名

４.自己評価：

昨年度に引き続き、教育へのエフォートが高い一年であった。特に、新入生に対する実習をオンラインで行う必要性に迫られ、授業内容や方法の試行錯誤に加えて、安全性の確保にも神経を使った。一方、大学院生の TA のサポートがあり、個別支援が必要な学生にも細かな対応ができたため、比較的円滑な授業運営につながった。実験は講義と連携した教育内容であるが、急な遠隔授業で十分な対応ができなかったことが予想される部分は 4 年生の演習で補う予定である。ゼミ生の国家試験対策では、当初成績が心配された学生への早期指導により、自ら勉強に取り組む姿勢が備わり、成績向上につなげることができた。大学院生については、オンラインによる学会発表の機会を設け、修士論文の完成に加えて学会奨励賞の授与に至るなど大学院生の教育に貢献した。

研究領域

１.専門研究領域：　調理学、食品機能学、栄養学

２.研究課題及び概要；

1) 調理による食品成分の挙動解析：古代豆の抗酸化成分を同定し、主要抗酸化成分の熱安定性を確認した。
2) 食品に含まれる機能性成分の定量と調理の影響：シカ肉の各部位におけるイミダゾールジペプチドの定量および調理による変化を明らかにした。
3) 食品成分の機能性の評価：植物性食品のポリフェノールによる魚類の脂質酸化に及ぼす影響について検討した。

３．令和２年度分 研究業績一覧

1. 論文・著書

1) M. Hiemori-Kondo. Antioxidant compounds of Petasites japonicus and their preventive effects in chronic diseases: a review. *J. Clin. Biochem. Nutr.*, 67 (1), 10-18 (2020).

2) M. Hiemori-Kondo, E. Morikawa, M. Fujikura, A. Nagayasu, and Y. Maekawa. Inhibitory effects of cyanidin-3-*O*-glucoside in black soybean hull extract on RBL-2H3 cells degranulation and passive cutaneous anaphylaxis reaction in mice. *Int. Immunopharmacology*, 94, 107394 (2021).

3) 別冊うかたま、伝え継ぐ日本の家庭料理 どんぶり・雑炊・おこわ、(一社) 日本調理科学会編、(一社)農産漁村文化協会、おみいさん(徳島県)、鮎ろうすい(徳島県)、56、58－59、2020 年 9 月 1 日.

２．学会発表

1) 新家大輔, 近藤（比江森）美樹：動物性食品におけるイミダゾールジペプチドの定量．第 74 回大会日本栄養・食糧学会、2020 年 5 月 15-17 日、仙台市（誌上発表）

2) 前川優樹，近藤(比江森)美樹：ツタンカーメンエンドウの加熱による着色反応機構の解析：着色源の単離および同定． 日本農芸化学会 2020 年度中四国支部大会（第 57 回講演会)、2020 年 9 月 17-18 日、徳島市（オンライン開催）

3) 新家大輔，前川 優樹，岡崎 孝博，矢野 靖和，近藤（比江森）美樹：ユズ果皮粉末の摂取が養殖キジハタの脂質酸化に及ぼす影響．第 53 回 日本栄養・食糧学会 中国・四国支部大会、2020 年 10 月 24 -25 日、山口市（オンライン開催）

4) 新家大輔，近藤（比江森）美樹：イミダゾールジペプチドの定量法の確立および動物性食品への適用． 2020 年度日本フードファクター学会・日本農芸化学西日本支部合同大会、2020 年 11 月 28 -29 日、宮崎市（オンライン開催）

5) 前川優樹，近藤（比江森）美樹：ツタンカーメンエンドウに含まれる抗酸化成分の探索および同定．日本農芸化学会 2021 年度大会、2021 年 3 月 18-21 日、仙台市（オンライン開催）

４．知的財産権の出願・取得状況： なし

５．令和２年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

1）古代エンドウ「ツタンカーメン豆」の調理により生じる着色機構の解明と抗酸化性の解析：科学研究費補助金（基盤研究 C)、継続交付、代表

2）徳島県特産フキの血糖値上昇抑制成分の同定および糖尿病対策への活用に向けた基盤研究：令和２年度 特色ある教育・研究、交付、代表

3）ゆず果皮給餌によるキジハタ可食部への酸化抑制効果の分析委託業務：徳島県委託事業、交付、代表

4）ジビエの商品開発・品質管理・流通に関する研究：令和２年度とくしま COC 教育・研究・社会貢献プログラム事業：交付、分担

６．自己評価

これまでの研究成果を国際学術雑誌において発表し、また、現在進行中の研究に関する総説も掲載に至り、一定の成果を収めることができた。しかし、コロナ禍で査読が遅延し、1 報は審査中である。また、新規研究分野の論文については、再投稿が必要であり、今後、再投稿論文および科研費交付課題に関する論文の早期掲載を目標とする。教育に対するエフォートが高いこともあり、一部遅延した研究があることから、それらを次年度の優先課題とする。

大学内運営

１．活動報告：

学部教育研究委員会委員長、2 年生担任、1～4 年生チューター、臨地・校外実習担当、オープンキャンパス模擬授業、保護者面談、総合選抜・編入試験面接、Ⅰ期Ａ入試担当等

社会貢献

１．学会等での社会貢献：

日本栄養・食糧学会代議員・参与、日本農芸化学会参与、日本栄養改善学会代議員、日本フードファクター学会評議員、徳島県栄養士会研究教育栄養士協議会世話役

２． 地域社会への貢献：

徳島大学医学部非常勤講師、「阿波地美栄魅力発信事業」業務に係る委託業者審査会委員長

個人情報

１　氏名：小川　直子

２　職位：講師

教育領域

１　教育の担当専門領域：栄養教育論

２　学部授業担当科目

前期：食物栄養学科３年：栄養教育論Ⅱ、栄養教育論実習Ⅰ（２クラス）、
保健福祉学部口腔保健学科３年：食生活指導論

後期：食物栄養学科２年：栄養教育論Ⅰ、
食物栄養学科３年：栄養教育論Ⅲ、栄養教育論実習Ⅱ（２クラス）、
総合演習Ⅰ
食物栄養学科４年：栄養教育論演習、給食運営臨地実習代替

３　直接に研究指導した学部学生：卒業論文４名（4年生３名、3年生１名）

４　自己評価：　今期は初の遠隔授業に戸惑うことが多かったが、回を重ねるごとに工夫して行うことができた。今後はmeetやzoomを使いこなせるようになることが必要と考えている。また遠隔授業を経験したことで、これまでの自分の授業内容を見直す良いきっかけになった。このように客観的に見直すことによって、今後向上していけるよう努力したいと思う。

　また３名の卒論を仕上げることができた。３名それぞれに異なるテーマであったため苦労したが、論文を書くことの大変さとともに完成させる喜びを学んでもらえたことが良かったと思う。続いて３年生の卒論生の研究も開始され、さらに２年生も研究準備を開始したため、コロナ禍ならではの苦労をしつつも完成に向け指導に努力したいと思う。

研究領域

１　専門研究領域：　栄養学および健康科学関連、栄養教育・栄養指導

２　研究課題及び概要

１）小・中学生のスポーツ栄養に関する研究

２）ヒトエグサの摂取が体格指標、臨床検査値に与える影響について

３）咀嚼が食行動や体格指標に及ぼす影響について

４）成人の運動と健康に関する研究

３　令和２年度分 研究業績一覧

【論文】

１）　小川直子、犬伏知子「健常者のヒトエグサ摂取による体格指標・臨床検査値に及ぼす影響～ランダム化比較試験～」（栄養学雑誌に投稿中）

【学会発表】

１）小川直子、犬伏知子、山本博文．ヒトエグサ（アオサノリ）を毎日摂取することによる身体への影響.第８回日本食育学会学術大会　（東京・東京家政学院大学）2020年５月（誌上発表）

４　知的財産権の出願・取得予定：　　なし

５　令和２年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
・科学研究費補助金：基盤研究Ｃで申請中

６　自己評価：今年は、昨年末まで行ったアオサノリ（ヒトエグサ）の研究をまとめ、栄養学雑誌に投稿するまでに至ったが、あと少し課題となる内容を克服しなければならない。さらに他のテーマの研究データも早急に論文化する事が必要と考えている。また今年度卒論生３名を指導する事により３つのテーマの卒業論文が仕上がった。来年度に向けては、現 2，3 年生の卒業研究にもつながる新たな研究計画も立てたので、その研究を実施しつつ、論文作成に努力しようと思う。

大学内運営

１　活動報告：（委員）　自己点検・自己評価委員、
自己点検・自己評価実施委員（認証評価委員会）
新入生宿泊セミナー委員、
遍路ウォーク委員
（クラス担任）食物栄養学科３年生担任（４７名）
１～４年学生のチューター（２１名）
（その他）　入試面接
オープンキャンパス模擬授業
新入生宿泊セミナー、遍路ウォークの計画
徳島県保護者会面談
アカンサス会本部役員
アカンサス会徳島県支部役員
アカンサス会沖縄県支部事務担当　　等

社会貢献

１　地域社会への貢献：　一般市民、スポーツをする子どもたちに対する栄養教育

個人情報
１.氏名：　粟飯原 乙起（旧姓：中橋）
２.職位：　講師

教育領域
１.教育の担当専門領域：　臨床栄養学

２.学部授業担当科目
　　前期：分子栄養学 、臨床栄養学Ⅱ、臨床栄養学実習Ⅰ
　　後期：応用栄養学Ⅲ、応用栄養学実習、臨床栄養学演習
大学院　　前期：食品学特論Ⅰ
　　後期：食品学特論Ⅱ

３.直接に研究指導した学部学生等：卒業論文　２名（4年生１名、3年生１名）
　去年度から研究指導をしてきた学生が4年生となり、「ヒト臓器タンパク質抽出サンプルにおけるCYP24A1タンパク質発現解析」というタイトルで卒業論文を作成することができた。現3年生の学生にも、引き続き研究指導を行っていく。

４.自己評価：今年度、特に前期はweb授業が多かったが、前期の臨床栄養学実習においては各種交換表を使うことができるかを評価の主軸とし実習の達成目標を明確にした。講義においては国家試験を意識し、頻出の内容に関しては特に重点的に説明した。後期の応用栄養学実習では学生自身で体重・体組成の管理、食事内容の栄養価計算ができることを達成目標とした。

研究領域
１．ビタミン、ミネラル

令和２年度分 研究業績一覧
1.論文・著書
1) Masuda M, Yamamoto H, Takei Y, Nakahashi O, Adachi Y, Ohnishi K, Ohminami H, Yamanaka-Okumura H, Sakaue H, Miyazaki M, Takeda E, Taketani Y. : All-trans retinoic acid reduces the transcriptional regulation of intestinal sodium-dependent phosphate co-transporter gene (Npt2b) *Biochem J.* (2020)
2)多々納（福田）詩織、山本浩範、中橋乙起、吉川亮平、林眞由、岸本麻希、伊美友紀子、奥村仙示、大西康太、増田真志、竹谷豊：成長期における食事性リンによるα-klotho発現制御　Vitamins(Japan),94(5.6),324-327 (2020)
3) 増田真志、山本浩範、竹井悠一郎、中橋乙起、足立雄一郎、大西康太、大南博和、奥村（山中）仙示、宮崎淳、武田英二、竹谷豊：All-transレチノイン酸は腸管ナトリウム依存性リン酸トランスポーター遺伝子（Npt2b）の転写を負に制御するVitamins(Japan),94(11),545-548 (2020)

2.学会発表
1) 福田 詩織、山本 浩範、中橋 乙起、増田 真志、竹谷 豊：成長期における過剰な食餌性リン摂取時のカルシウム摂取量の違いがα-klotho発現に及ぼす影響　第67回日本栄養改善学会学術総会（誌上開催）
2) 山本 浩範、田尻 真梨、中橋 乙起、増田 真志、大南 博和、大西 康太、石黒 真理子、池田 涼子、岩野 正之、武田 英二、竹谷 豊：糖尿病時におけるビタミン D・カルシウム代謝異常の分子機構の解明　第 67 回日本栄養改善学会学術総会（誌上開催）

3. 知的財産権の出願・取得状況
　なし

4. 令和２年年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
　科研費　2021 年度　若手研究　申請中

自己評価：今後も卒論生と研究をすすめ、研究成果を学会で発表し、論文の作成をしていく。

大学内運営
人間生活学部広報委員、入試問題作成（化学基礎）、3 年生担任、1～4 年生チューター

社会貢献
　なし

個人情報
１.氏名： 森川　咲子
２.職位： 講師

教育領域
１.教育の担当専門領域： 臨床栄養学

２.学部授業担当科目
前期：臨床栄養活動論，食生活論，子どもの食と栄養，文理学
後期：臨床栄養管理論，臨床栄養学臨地実習代替,臨床栄養学演習，栄養学，臨床栄養学実習Ⅱ

３.直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（２）名、その他（６）名

４.自己評価：　前期授業では、遠隔授業の運営にあたり授業準備に時間を費やしたが、これまでの教授法を見直す良い機会となった。授業評価アンケートでは多くの学生から遠隔授業が効果的に運営されていたとの評価を受けた。いずれの科目においても、Google フォームを使い復習テストや授業毎のワークシートなどのオンラインドリルを作成し、回答送信後に個別に解説が表示されるように設定した。また、新規担当科目であった子供の食と栄養では、遠隔で実施した調理実習が学生に好評であり、対面での実習前の準備にもなり思わぬ利点となった。後期は、感染対策に留意しながら実習を行い、幸いにも感染者を出すことなく後期を終えることができたが、軽度体調不良の学生も一定数出席しており、実習に参加させるべきか判断に迷うことが多々あった。次年度以降も新型コロナウイルスの流行が予想されることから、学生と危機感を共有し感染対策できるよう受講環境を整備していきたい。
　今年度指導を終えた卒業研究については、学生の頑張りもあり無事にまとめることができた。今後は計画性を持って研究に当たることを互いに心がけたい。

研究領域
１．小児生活習慣病の早期発見・早期予防に関する臨床疫学的研究
２．2 型糖尿病患者の生活習慣療法に関する臨床疫学的研究

令和２年度分 研究業績一覧
1. 論文
1）**Morikawa, SY,** Fujihara, K, Hatta, M, et. al. (2020). Weight and cardiometabolic risk among adolescents in Agano city, Japan: NICE EVIDENCE Study-Agano 1. Asia Pac J Clin Nutr (Accepted)
2) Chika H, Hatta, M, **Morikawa, SY,** et al. (2020). Family Support for Medical Nutritional Therapy and Dietary Intake among Japanese with Type 2 Diabetes (JDDM 56) Nutrients. 2020 Aug 31;12(9):E2649.

2.学会発表
1）Morikawa, SY, Fujihara, K, Nedachi, R, et al. Physical fitness (PF), weight status, and metabolic risk in Japanese adolescents. 80th American Diabetes Association Scientific Sessions USA, June 2020.（ポスター発表） (於：オンライン). 6 月
2) 森川咲子．青少年期からの生活習慣病予防における体力の役割(招待講演). 第 39 回日本臨床運動療法学会学術集会（於:オンライン）．9 月
3）森川咲子．小児生活習慣病対策における食事・運動習慣の意義(招待講演)．第 42 回日本臨床栄養学会総会第 41 回日本臨床栄養協会総会第 18 回大連合大会(於：オンライン)．10 月

3. 知的財産権の出願・取得状況：なし

4. 令和２年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
平成 31 年度厚生労働科学研究費補助金：レセプトデータベースにおける健康寿命を規定する重症イベント精密捕捉技術の確立・正確性検証とその社会実装を通じた EBM と政策立案に貢献できるエビデンス創出、採択、分担

自己評価：　原著論文やシンポジウム発表を通して研究成果を公表することができた。学会発表以降、論文化できていない多数の研究課題については、早急にまとめる必要がある。

大学内運営
食物栄養学科１年生担任、各学年チューター、チーム医療促進委員会委員(管理栄養士)、オープンキャンパス模擬授業担当を務めた。オープンキャンパス模擬授業の資料は総合型選抜入試の動画資料としても採用していただいた。

社会貢献
日本臨床運動療法学会会員として、学術集会におけるファシリテーターとして参画した。その他、所属学会は下記の通りである。
日本臨床栄養学会、日本臨床運動療法学会、日本疫学会、日本病態栄養学会、日本栄養食糧学会、日本栄養改善学会、日本糖尿病療養指導学会

個人情報
１．氏名：松本　萬寿美
２．職位：講師

教育領域
１．教育の担当専門領域：給食経営管理、栄養教諭

２．学部授業担当科目
前期：給食経営管理Ⅰ（３年２クラス）、　給食経営管理実習（３年２クラス）、
事前・事後指導（栄養教諭）（４年、短期大学部食物専攻２年）
後期：学校栄養指導論（３年、短期大学部食物専攻１年）、　給食経営管理Ⅱ（３年）
教職実践演習（栄養教諭）（４年、短期大学部食物専攻２年）
給食経営管理Ⅰ（２年）　給食経営管理演習（臨地実習代替）（４年）、

３．直接に研究指導した学部学生
栄養教諭セミナー　４名（４年）
卒業研究　３名（４年）

４．自己評価：
・給食経営管理実習では、大量調理給食施設に携わる経験を実施するための時間が必要であったが、遠隔授業の中で大学の給食提供施設紹介動画や、ＨＡＣＣＰ対応施設画像等を使用し、なんとか給食実習を実施することができた。
・大量調理の給食経営管理実習を実施する前に、献立作成や大量調理施設衛生管理マニュアルなど基本論理的な給食経営管理Ⅰを理解する必要がある。２年の後期に授業させていただくことができ、次年前期の給食経営管理実習での理解力をよりスムーズになるよう指導することができた。
・栄養教諭セミナーでは、栄養教諭になりたいと思っている学生たちに対し、徳島県の栄養教諭として実践してきた経験や知識を出来るだけ提示することで、より強く就職への意識付けをすることができた。

研究領域
１．専門研究領域：　栄養教諭

２．研究課題及び概要：将来を担う子どもたちの食育を推進する栄養教諭の育成

令和２年度分 研究業績一覧
１．**論文**
なし

２．学会発表
なし

３．知的財産権の出願・取得予定
なし

４．令和２年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
なし

５．自己評価：日々の大学業務と授業準備に追われ、自己研鑽する余裕がなかった。
来年度は、研究にも励みたい。

大学内運営

１　活動報告

①（委員）　　人間生活学部教員養成推進委員会委員
　　徳島キャンパス教員養成対策委員会委員

②（クラス担任）食物栄養学科４年生担任（５０名）
　　２～４年学生のチューター（２年６名、４年３名）

③（その他）　　推薦入試面接、ＡＯ入試面接等

社会貢献

１　地域社会への貢献

那賀町新学校給食センター解説委員会　役員

個人情報
１.氏名：河野　友晴
２.職位：助教

教育領域
１.教育の担当専門領域：　栄養学

２.学部授業担当科目
　前期：栄養学実験
　後期：

３.直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（0）名、大学院生：修士（0）名

４.自己評価：新型コロナウィルスの影響により 、初の遠隔授業となった。急遽自宅でも可能な実験内容への変更を行った。学生への理解度の聴き取りや確認方法が手探りであったため、数名状況が把握できていないと感じた。次年度は、よりわかりやすいようにスライドの準備や確認方法の改善を行いたい。

研究領域
１．研究分野；栄養学・運動栄養学
２．研究課題及び概要；超高感度免疫測定法を使用した研究
　尿や濾紙血中のバイオマーカー（生理活性物質）を測定し、運動や食生活がどのような影響を与えているか検討する。

令和２年度分 研究業績一覧
1.論文
1) Toshihiro Watanabe, Yuki Fujimoto, Aya Morimoto, Mai Nishiyama, Akinori Kawai, Seiki Okada, Motohiro Aiba, Tomoharu Kawano, Mina Kawahigashi, Masashi Ishizu, Hiroyasu Mori, Munehide Matsuhisa, Akiko Hata, Makoto Funaki & Seiichi Hashida. Development of fully automated and ultrasensitive assays for urinary adiponectin and their application as novel biomarkers for diabetic kidney disease: Scientific Reports in Nature　10：15869 (2020)

2) Masashi Ishizu,Hiroyasu Mori,Mami Ohishi,Akio Kuroda, Yuko Akehi,Sumiko Yoshida,Kenichi Aihara,Motohiro Aiba,Tomoharu Kawano,Seiichi Hashida,Munehide Matsuhisa. Urinary adiponectin excretion is an early predictive marker of the decline of the renal function in patients with diabetes mellitus.：Journal of Diabetes and Its　Complications：107848(2021) DOI：
10.1016/j.jdiacomp.2021.107848

2.学会発表
なし

3.知的財産権の出願・取得状況
なし

4.令和２年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
1)　科学研究費（挑戦的研究　萌芽）　食事や行動が睡眠の質やホルモンに与える影響についての検討　申請中

自己評価：今期は、大学へ研究協力のために人を集め、検体を集めることが難しかった。そのため、私が主体となる研究があまり進まなかった。次年度は、積極的に協力者を募り研究を進めていきたいと思う。

大学内運営
オープンキャンパスの公開授業、設営、補助、相談係

社会貢献
なし

第３節　　児童学科

個人情報

１．氏名：河口　雅子
２．職位：教授

教育領域

１.教育の担当専門領域：音楽科、音楽科教育法
２．学部授業担当科目
　前期：音楽Ａ、音楽②、器楽、卒業研究
　後期：音楽科教育法Ⅰ、音楽①、児童音楽演習、専門ゼミナール、卒業研究
３．直接に研究指導した学部学生：１５名（卒業論文、卒業演奏、実技指導等）
４．自己評価（工夫、反省）

学生自らが音楽科の特性や独自性を理解し、音楽の楽しさ、喜びや一体感を体感できるよう授業改善・実践に取り組んだ。毎時間終了後には、「フィードバックシート」で自己の振り返りと学びを確認させ、その内容を次時の授業に活かした。

① 授業では「基礎理論」「演習」「実技」の３構成に組み立て、「基礎理論」では音楽の基礎理論の理解するための手立てや、授業後半の確認活動で定着を図った。

　また、「演習」「実技」では、音楽の感性を磨くという視点からアクティブラーニング及びグループワークを中核として、楽曲の分析から曲想表現に結びつける等の内容構成を実施し、感性を高める授業の展開を図った。このことから、表現方法を体感でき、一体感を持った授業の展開が図れるようになった。子どもたちの発する声や表情、心が見える教師になってほしいという視点で授業を実践したが、自分を表現する楽しさや喜びを体感できる学生が増え、表現の真の意味の理解が図れるようになってきた。

　本年度は、前期・後期共に数回遠隔授業となったが、互いの意見や思いが共有でき、意見交換ができるなど対面授業ではできなかった面での効果があった。

② 採用試験に向けては、ゼミ生７名のうち６名が公立保育士、小学校教諭として現役合格し、学生の夢を叶えさせることができた。１次対策の勉強、面接指導、論文指導、実技指導等の対面指導の他にズームでの指導も効果大であった。

③ ５回目となるゼミの企画運営によるコンサートは、本年度はコロナ禍のために中止となったが、３年生「ディズニーメロディー演奏」、４年生「音楽劇・三太郎」を録画し、ひとつの作品として完成させた。昨年までとは大きく変わったが、ゼミ生にとっては音楽を通して表現する価値を見いだせたものと思う。

研究領域

１　専門研究領域
　「言葉・音を音楽にする感性へのアプローチ」「自己表現力の創造」
２．研究課題及び概要

　音楽にまつわる人の認識、思考や感情のメカニズムやプロセスから、旋律、リズム、響き、聴取という要素がいかに音楽と関わる中で普遍的認知過程を持ち、感情に繋がっていくかを一つひとつの領域で研究している。言葉や音が人の心の中で豊かな音楽に至るためには、感性を磨くことが重要と考える。こうした研究を基盤とし、幼児期から児童期に係る発達段階でどう感性を磨くか、子どもたちの学びをどう創造し、表現活動に結び付けていくか、こうした点について、様々な教材を収集・選択し、研究を深めてきた。合唱指導においては、合唱曲「百年後―ラビンドラナート・タゴールの三つの詩―」における歌詞・楽曲の分析から表現の創造等を研究し、表現による人間力の創造をテーマとした演奏を目指している。

３．令和２年度分 研究業績一覧

４．知的財産権の出願・取得状況：特になし
５．令和２年度　科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：特になし
６．自己評価
「言葉・音を音楽にする感性へのアプローチ」「自己表現力の創造」をテーマとして、研究を続けているが、今までに実践・研究してきたものを纏めさらにテーマに結びつけていきたいと考えている。

大学内運営
１．　活動報告（委員会、担任等）
①児童学科長　②教務委員会　③教員養成対策委員会　④３年チューター（６名），４年チューター（７名）

社会貢献
１．　学会への貢献
中四国教育学会会員
２．　地域社会への貢献
徳島県教育委員会教育委員
四国４県教育委員総会教育長会（徳島県庁・オンラインで実施）
徳島県・市町村教育委員会教育委員等研修会
徳島県総合教育会議
定例教育委員会　臨時教育委員会等
県内学事視察（徳島県立つるぎ高等学校、上板町高志小学校）
「エシカル甲子園 2020」全国大会
芸術文化・文化遺産に関する事業（徳島県教育委員会）講師
女声合唱団「Vivace　みやび」指導者
４月までは週一回の指導にあたったが、コロナ禍で練習は休止している。
本年度、全日本合唱コンクール、徳島県アンサンブルコンテスト、徳島県合唱祭、吉野川文化祭等、全て中止となった。

個人情報

１．氏名：三橋　謙一郎

２．職位：教授

教育領域

１．教育の担当専門領域：教育方法論、生徒指導、保育方法論

２．学部授業担当科目

前期：初等教育方法論、生徒指導（進路指導を含む）、保育援助論、保育方法演習

後期：教育方法論、教職概論、保育・教職実践演習（幼・小）、保育方法演習、専門ゼミナール

３．直接に研究指導した学部学生：　卒業論文（　５　）名、その他（　５　）名

４．自己評価

＊授業では具体的な実践例を取り上げながら、理論的な内容をわかりやすく説明するように心掛けた。

＊授業での私語対策として、学生の反応に応じて説明の仕方を変える等の工夫に努めた。

＊教職科目の授業に関しては、教員採用試験との関連を考慮し、教材の精選に工夫を凝らした。

研究領域

１．専門研究領域：教育学、教育方法学、幼児教育方法学、臨床教育学

２．研究課題及び概要

・教育的タクトのあり方に関する実証的研究：理論に支えられた教育的タクトのあり方を、現場の授業実践の参観＝分析に基づき、具体的・実践的に追求していく。

３．令和２年度分 研究業績一覧

【著書】キーワードで拓く新しい特別活動・共・東洋館出版・令和2年５月

４．自己評価

・　広島県内、高知県内、徳島県内の現場の授業実践を中心に、授業等の分析＝検討を行い、上述の研究課題を達成するために、研究成果を発刊することで一定の成果が得られたように思う。

大学内運営

１．活動報告

①　人間生活学専攻科長

②　大学院人間生活学研究科児童学専攻主任

③　全学教職課程委員会委員長

④　全学教員養成対策委員会委員

⑤　人間生活学部教員養成推進委員会委員長

⑥　人間生活学部教育研究委員会委員

⑦　児童学科３年クラス担任

⑧　児童学科１・２・３・４年チューター等（21名）

社会貢献

１．学会等への貢献

① 日本教育方法学会理事・紀要編集委員

② 日本特別活動学会理事・紀要編集委員

③ 現代学習集団授業研究会副会長

④ 中・四国保育士養成協議会幹事

２．地域社会への貢献

① 徳島市子ども・子育て会議委員

② 教員免許状更新講習講師

③ 県・大学等連携による教職員研修講座講師

個人情報

1. 氏名：岡　直樹
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：学校心理学
2. 学部授業担当科目

　　前期：心理学A，教育原理，子どもの学び支援実習Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ

　　後期：子ども家庭支援の心理学，教育原理，社会心理学，専門ゼミナール，子どもの学び支援実習Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ

3. 直接に指導した学生：子どもの学び支援センターでの指導 22 名，チューター担当 21 名（専門ゼミナールおよび卒論指導担当学生を含む）。
4. 自己評価：授業においては，特にオンライン授業においては，わかりやすくなるよう説明文の工夫や，提示する資料の精選を行った。また，オンライン授業では一方通行になりがちであったが，課題や課題の出し方を工夫することにより，受け身の学習にならないよう配慮した。学生の実践的指導力の育成，教育の質の保証の観点から，子どもの学び支援センター(きらきらルーム)において，学習相談の実習を学生に行わせ，その実習に対するケース検討会なども開きながら，学生の心理教育的支援の実践力を育成した。この学習相談の実施についても今年度はオンラインでの学習支援を試行した。

研究領域

1. 専門研究領域：認知心理学，学校心理学
2. 研究課題及び概要

　① 記憶や学習についてのメカニズムに関する基礎的研究

　② 基礎的研究から得られた知見に基づく学習指導法や学習方法についての応用的研究

　③ 学習面の心理教育支援，特に認知カウンセリングに関する実践的研究

3. 令和 2 年度分研究業績一覧

　【書籍】

　① 学校心理学ケースレポートハンドブック：子どもの援助に関わる教師・スクールカウンセラーのために　学校心理士認定運営機構編　風間書房　2021 年 1 月（第 5 章 1　ケースレポートを書く際のポイント　小澤郁美・柏原志保・岡　直樹 Pp. 137-148）

　【学会発表】

　① 金子紗枝子・岡　直樹　大学の相談室における認知カウンセリングが参加児童とその保護者に及ぼす効果　日本心理学会第 84 回大会　2020 年 9 月　東洋大学（ポスター発表）

4. 知的財産権の出願・取得状況：なし
5. 令和 2 年度分科学研究費補助金・各種助成金の申請・交付状況
6. 自己評価

　研究課題については，特に応用的研究と実践研究にウエイトをおいて研究を継続し，論文投稿や学会発表を行ってきた。また，本学内において実施している学び支援活動（きらきらルーム）を基盤にして。事例研究に取り組むとともに，参加児童，保護者および大学生に実施したアンケート等を分析し，この取り組みについて検証し，支援方法の改善策について検討してきた。

大学内運営

① 自己点検・自己評価委員会委員
② 自己点検・評価実施委員会委員
③ 児童学科 2 年生担任，1，2，3 年生チューター

社会貢献

① 一般社団法人 学校心理士認定運営機構　学校心理士資格認定委員会委員長
② 一般社団法人 学校心理士認定運営機構　理事
③ 日本学校心理士会副会長
④ 学校心理学研究　査読者
⑤ 日本学校心理士会年報　査読者
⑥ 日本学校心理学会　理事
⑦ 一般社団法人学校心理士認定運営機構主催 SV 研修（SV 研究協議会）（10 月 31 日，11 月 1 日）　企画運営
⑧ 一般社団法人学校心理士認定運営機構主催　Zoom 研修会　（12 月 19 日）　企画運営
⑨ 一般社団法人学校心理士認定運営機構主催 2020 年度ベーシック研修会（zoom ウエビナー）（2021 年 2 月 27 日）　講師

個人情報

１．氏名：松本　有貴
２．職位：教授

教育領域

１．教育の担当専門領域：教育心理学、児童心理学、臨床学校心理学
２．学部授業担当科目
前期：教育心理学、保育の心理学Ⅰ、保育者論、児童教育相談演習Ⅰ、児童実践教育学特論Ⅰ、児童心理学特論、家族関係学特別研究
後期：児童心理学、教育相談（カウンセリングを含む）、保育の心理学Ⅱ、専門ゼミナール、児童実践教育学特論Ⅱ、児童教育相談演習Ⅱ、家族関係学特別講義
３．直接に指導した学部学生：4年生ゼミナール９名　・３年生ゼミナール３名
直接指導した大学院学生：修士２名・博士３名（大阪大学大学院連合小児発達学研究科２名含む）
４．自己評価
一斉講義とともにグループ討論・課題やロールプレイを用いた演習を行い、学生の主体的学修を促進した。ゲスト講師として小学校教諭を招待し学生の実践への意欲を高めた。文献研究を取り入れた授業、論作文やパワーポイントを使った発表の取り組みを行った。評価は多視点による基準を設置して行った。

研究領域

１．専門研究領域：ユニバーサル予防教育、ウェルビーイング教育、社会性と情動の学習(SEL)、子どもの認知行動療法、神経生理心理学
２．研究課題
① 認知行動療法（CBT）に基づく持続可能な学校予防教育の効果比較研究
② 不登校の改善に資する保護者のメンタルヘルスとQOL（生活の質）の向上の研究
③ 教員・指導員による発達障害の不安へのCBTを用いた支援の研究
④ ウェルビーイング教育
３．令和２年度分　研究業績一覧
〔論文・著書〕
① ちばエコチル調査つうしん 2020 9月号　キット先生の豊かな心をはぐくむ子育て「子どもといっしょにマインドフルネス」千葉大学予防センター
② ちばエコチル調査つうしん2021 3月号　キット先生の豊かな心をはぐくむ子育て「子どものメタ認知を育てる」千葉大学予防センター
③ Asano K, Kotera Y, Tsuchiya M, Ishimura, I, Lin S, Matsumoto Y, et al. (2020). The development of the Japanese version of the compassionate engagement and action scales. PLoS ONE 15(4): e0230875. https://doi.org/10.1371/journal.pone.0230875　査読有
④ Matsumoto, Y., Ishimoto, Y., & Takizawa, Y. (2020). Examination of the effectiveness of Neuroscience-Informed Child Education (NICE) within Japanese School Settings. Child and Youth Service Review, 118. https://doi.org/1016/j.childyouth.2020.105405　査読有
⑤ Matsumoto, Y. & Ishimoto, Y. (2020). Pilot Trial of Classroom-Based Brief Cognitive Behavior Therapy (BCBT) for Japanese pre-adolescent students as compared to the FRIENDS CBT program. Journal of Social-Emotional Learning. 査読有
⑥ 山根隆宏・石本雄真・松本有貴（2021）自閉症スペクトラム障害児の感情調整に関する介入プログラム（PEACE）の開発―　支援合宿における予備的検討 自閉症スペクトラム，18（2）．査読有

⑦Nishida, C., Ishimoto, Y., Takizawa, Y., Katayama, T., & Matsumoto, Y. (2021). Preliminary Evidence for the Reliability and Validity of the Stirling Children's Well-being Scale (SCWBS) with Japanese Children. International Journal of Educational Research Open. https://doi.org/10.1016/j.ijedro.2021.100034 査読有

⑧Takizawa, Y., Murray, J., Bambling, M., Matsumoto, Y., Ishimoto, Y., Yamane, T., & Edirippulige, S. (in press). Online training for psychotherapists in Asian contexts: Advantages, challenges, and effective features. Asia Pacific Journal of Contemporary Education and Communication Technology　査読有

〔学会・研究会〕

① 松本・石本・西田・小林・谷口（2021）　コロナ禍における育ちー社会性と感情の発達に着目してー　日本発達心理学会第32回大会　Web開催

４．知的財産権の出願・取得状況：特になし

５．令和２年度分　科学研究費補助金・各種助成金

科研基盤（Ｃ）18K02440(H30・R1・R2)

科研基盤（Ｃ）20K03406（R2・3・4）

６．自己評価

科研基盤（C）（20K03406）の１年目の課題である子ども対象の自記式ウェルビーイング尺度の開発を行うことができた。イギリスで用いられている Stirling Children's Well-being Scale を、スターリング教育省より許可を得て、クロスカルチュラル応用のガイドラインに沿って日本語版を開発し、信頼性と妥当性を検証できた。

理化学研究所脳神経科学研究センター親和性社会行動研究チームの「RISTEX プロジェクト」に参加し、ZOOM会議に参加して交流し議論を深めた。今後の研究推進とまとめの書籍化に尽力する。

大学院博士課程学生の指導を進め、学位取得に向けた方向性を示すことができた。

卒業論文の指導において、学生の意欲を高め、主体的な研究論文の作成を指導できた。

論文投稿、学会発表に積極的に取り組むことを来年度も課題とする。

大学内運営

①人間生活学部学生指導・支援委員会　委員長

②全学共通教育センター学習支援アドバイザー

③児童学科：２年生担任、チューター（21名）、学生指導・支援担当

④教員免許状更新の講座担当

社会貢献

①日本ＳＥＬ学会副代表理事

②クイーンズランド大学認定トリプルＰプログラムトレーナー

③Journal of Evaluation and Research in Education 査読者

④Sage Open 査読者

⑤一般社団法人日本レジリエンス教育研修センター理事

⑥理化学研究所脳神経科学研究センター親和性社会行動研究チーム研究協力者

⑦アメリカの研究団体AIR(American Institute for Research)研究協力者

個人情報

１．　氏名：岡山　千賀子

２．　職位：准教授

教育領域

１．　教育の担当専門領域：児童学・子育て支援・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ

２．　学部授業担当科目

前期：児童学原論、ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ活動援助法Ⅰ、ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ論、家庭科教育法Ⅰ
ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ概論、ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ実技①、ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ実技②

後期：家庭、ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ活動援助法Ⅱ、ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ実技・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ概論、専門ゼミナール、卒業研究、ｽﾎﾟｰﾂ･ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ特講（集中）
児童教育相談演習Ⅱ（大学院）

３．　直接に研究指導した学部学生：　その他（1）名

４．　自己評価

＊学生指導：2 年生学年主任として教育に尽力した。＊就職対策：4 年生 4 名に就職指導を行った。＊採用試験対策：過去の試験問題や実技について適宜授業内で紹介し、教科では、実際の試験問題に取り組む時間を設定した。保育･教育対策講座（3・4 年生対象）を担当した。＊授業実践：実践力を身に付けるために、積極的にﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動を推進した。事例解釈や実技を授業に取り入れたり、保育現場への見学・実践等を取り入れたりした。＊最新の情報と資料を準備し、適宜ビデオやメディアを取り入れた。＊ｱｸﾃｨﾌﾞ･ﾗｰﾆﾝｸﾞ：自著した「講義ノート」を活用し、その中で古文や新聞記事などを取り入れ、学生に自ら取り組み、考える力を付けるよう努力した。＊児童研究「with children」担当。

＊ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ公認資格課程認定校講座担当として、資格取得申請に関する指導をした。「ｽﾎﾟｰﾂ･ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ指導者」資格課程の指導を行った。

（令和 2 年度は、42 名の学生が受講した。）

研究領域

１．　専門研究領域：社会科学分野・児童学・家族領域

２．　研究課題及び概要；

「子育て支援員」の保育者効力感に関する研究」として博士論文を仕上げる。
日本保育学会特集論文『保育学研究』第 60 巻に投稿予定。
ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ･ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ資格・ｽﾎﾟｰﾂ･ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ指導者資格者に必要な技術と知識に関する研究。

３．　令和 2 年度分 研究業績一覧

・【論文】　①「子育て支援員と親の相互認識の実態についての一考察」日本児童学会「児童研究」2020　Vol.99 研究論文 pp13-21
②「保育管理職員の子育て支援員に対する認識と子育て支援員の保育者効力感に関する研究」日本児童学会「児童研究」Vol.100 へ投稿中

・【学会発表】　日本教育学会第 62 回大会発表　　共同発表者：松本有貴教授
「子育て支援員と保育士・幼稚園教諭との保育者効力感比較について－子育て支援員が効力感を持って保育に関わるための支援として－」

・【その他】　「子育て支援員」へのｱﾝｹｰﾄ及びｲﾝﾀﾋﾞｭｰ調査の実施。

４．　令和 3 年度分 科学研究費補助金の申請中

「子育て支援員のｵﾝﾗｲﾝｺﾐｭﾆﾃｨの構築と運用に関する研究」

５．　自己評価（成果、反省）

日本ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ協会理事。日本ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ協会からの依頼で講習会および全国公認資格認定委員の活動に取り組んだ。NPO 法人徳島県ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ協会会長に就任し、

第 77 回全国ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ大会 in 徳島 2023 の誘致･開催が決定、実行委員長就任した。

人間生活研究科人間生活専攻博士後期課程２年目で博士論文に関する特別研究以外の単位を全て修得することが出来た。特別研究に関しては、学会論文投稿及び博士論文作成に意欲的に取り組むことが出来た。

大学内運営

１　活動報告

①　県内外高校への出張講義・遠隔授業

②　保護者会担当・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ推進係（学科内）

③　児童学科２年生学年主任・担任 62 名、児童学科１年チューター7 名・２年チューター5 名・3 年チューター5 名・4 年チューター4 名

④　学内ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ担当

社会貢献

１　学会等への貢献:

①　日本ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ協会理事・同協会公認指導者資格課程認定校連絡協議会 監事 同協会全国公認資格認定委員

②　徳島県ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ協会会長、(ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ･ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ)

③　日本消費者教育学会会員（中・四国支部役員）

④　日本家政学会中国・四国支部機関幹事

２　地域社会への貢献：

①　徳島県教育委員会生涯学習政策課、「学校を核とした地域の教育力強化推進委員会」、委員長

②　徳島県教育委員会生涯学習政策課、「放課後児童健全育成委員会」、委員長

③　徳島県県民環境部「徳島県放課後子ども総合プラン推進委員会」委員長

④　徳島県県民環境部人権教育啓発推進委員

⑤　徳島県県民環境部「子どもの事故防止委員会」委員

⑥　徳島県立近代美術館協議会委員長

⑦　徳島県ｽﾎﾟｰﾂｺﾐｯｼｮﾝ推進委員

⑧　徳島県ｽﾎﾟｰﾂ王国とくしま推進会議委員

⑨　徳島県あいらんど推進協議会理事

⑩　徳島県ｽﾎﾟｰﾂ振興財団理事

⑪　徳島市まちづくり総合ビジョン策定市民会議委員

⑫　徳島市身体障がい者連合会評議員

⑬　徳島県あすたむらんど徳島外部有識者委員会委員

⑭　NPO 法人徳島県ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ協会、公認指導者（徳島県ｼﾙﾊﾞｰ大学院講座講師）

⑮　徳島県立総合大学校まなび―あ登録講師

⑯　徳島県保健福祉部長寿こども政策局、「子育て応援の匠」

⑰　徳島県ｳｵｰｸﾗﾘｰ実行委員会委員

⑱　社会福祉法人 ハート福祉会評議員

⑲　社会福祉法人 悠林舎 福祉サービス評価機関評価委員

＊　その他、県・市町村における子育て支援、放課後児童健全育成指導等に関する講演会活動など

個人情報

１．　氏名：　津守　美鈴

２．　職位：　准教授

教育領域

１．　教育の担当専門領域：国語科、国語科教育法

２．　学部授業担当科目

前期：国語科教育法Ｉ、文学・文学Ａ、児童文学、保育内容（言葉）Ａ、文理学

後期：国語（書写を含む)、保育・教職実践演習、専門ゼミナール、保育内容（言葉）Ｂ
文理学、卒業研究

３．　直接に研究指導した学部学生：　卒業論文（　６）名

４．　自己評価

アクティブ・ラーニングを意識した授業づくりに努めたが、その分教材研究と授業準備に追われた感があった。また、本年度は特に、新型コロナ感染症の拡大により遠隔授業になることが多かったため、参加型授業の実践が困難な面があった。「With コロナ」下にあって、ＩＣＴ機器などを効果的に用いながら、より参加型で主体的な学修ができる授業づくりに努めたい。

教員採用試験の講座については、ゼミ生だけでなく、小学校教員や他学科の養護教諭をめざす学生等に対し、できる限りの時間を使って面接練習や論文指導、模擬授業練習をするなどの指導・支援をしたことが、多くの合格者数を出すことにつながった。来年度も、学生の夢の実現に向けて、方法改善に努め全力で支援をしていきたい。

卒論指導については、例年は３年生からテーマの確定と章立てをさせたり、卒業研究に関してしっかりとしたイメージや意欲を持たせたりするため、４年生が３年生を対象として卒論中間及び最終発表会を実施してきたが、本年度は状況を踏まえて実施を見送った。本企画は意義があると考えられるので、次年度は環境を整え、実施できるように努めたい。

研究領域

１．　専門研究領域：教育方法、国語科教育

２．　研究課題及び概要

「主体的で対話的な深い学修のできる大学授業の可能性」

本学のいくつかの授業において、グループワークをできる限り導入し、協働・参加型の学修形態を試行してみるなど、実践的に可能性をさぐってきた。また、「知識構成型ジグソー法」を用いて、その効果の実践的な検証も行えるように試みてきた。しかし、本年度は、残念ながらなかなかうまくいかず、これと言った結果が得られなかった。今後は、全国的に理論・実践研究している研究会に参加させていただき、知識や技能の向上にも努めていきたい。

３．　令和２年度分 研究業績一覧

４．　知的財産権の出願・取得状況：なし

５．　令和２年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし

６．　自己評価

教育領域の自己評価にも記述したとおり、どうしても正課の授業や正課外の講座等担任・チューター生への学生指導に費やす時間と労力が非常に大きいため、じっくりと研究に取り組むことが困難な状況があると感じる。特に、本年度は１年を担任し、入学式後そのまま遠隔授業となり、なかなか大学や友だちになれない中で休みがちになっていった学生の指導等にも時間と労力を費やした感がある。

大学内運営

１　活動報告

①　児童学科１年主任 76 名、１年チューター５名、２年チューター５名、３年チューター５名、４年チューター７名

②　人間生活学部大学共通テスト委員

③　入試作問委員

④　全学教員養成対策委員会委員

⑤　書道部顧問

社会貢献

１　学会等への貢献

国語教育実践理論研究会（ＫＺＲ）会員

２　地域社会への貢献

①　令和２年度用国土緑化運動・育樹運動ポスター原画・標語コンクール審査員

②　徳島県令和２年度教科用図書選定審議会委員

③　徳島県子どもの読書活動推進協議会委員長

④　徳島県図書館サポーター養成講座講師

個人情報

１．氏名：西原正純

２．職位：准教授

教育領域

１．教育の担当専門領域：生活科，生活科教育法，社会科，社会科教育法，道徳教育

２．学部授業担当科目

前期：生活科教育法（児童２年），教育方法技術論（食物栄養・心理他），
社会科（児童３年），教育方法技術論（児童２年・人間生活他）

後期：生活科（児童１年），保育教職実践演習（児童４年），専門ゼミナール（児童３年），社会科教育法（児童３年），教育方法技術論（保育科），　道徳教育（児童３年），道徳教育（人間生活他）

３．直接研究指導した学部学生：卒業論文（10）名

４．自己評価

前期は，遠隔配信授業がほとんどだった。これまでの授業とは，まったく違った形の授業となった。4年間継続してGoogleclassroomを活用してきていたおかげで，さらに幅広く活用することができた。ZoomやMeetも使い，新しい授業をすることもできた。よい経験となった。今後の授業の形も見えてきた。将来の授業の形について学生に伝えることもできた。

対面授業では，一方的に伝える講義型の授業にならないように心掛けた。授業開始時に授業のメニューを提示して授業の見通しをもたせるようにし，電子黒板を活用して授業の内容を視覚化・焦点化した。また，対話的な学びができるようにホワイトボードを活用し共有化を図った。授業の視覚化・焦点化・共有化は，授業のユニバーサルデザイン化の基本である。引き続きユニバーサルデザイン化された授業になるよう授業の内容を充実させていきたい。また，新学習指導要領で示されているアクティブ・ラーニングという言葉に踊らされないよう「主体的で対話的な深い学び」をめざして授業改革をしていきたい。

今年度も，すべての授業でGoogleClassroom　を活用した。こちらからの課題や質問に答える一方通行にならないよう，学生が投げかけた「問い」に対して，学生が答えを出すと言った双方向的な授業となるよう心掛けた。よりいっそう授業の中身をより充実させ，GoogleClassroomの活用の幅も広げていきたい。

まだまだ，スマートフォンやPCなどの情報機器活用に不慣れな学生もいる。来年度からは，文部科学省のGIGAスクール構想により，学校現場は，一人１台のタブレットＰＣが当たり前になっていく。そのような環境の下でより効果的な学習をどのように進めていけばよいか，どんなＩＣＴ環境であろうとも対応できるよう学生のスキルを高めていきたい。

研究領域

１．専門研究領域：教科教育（生活科，社会科），情報教育

２．研究課題及び概要

「ＩＣＴ機器を活用した授業のユニバーサルデザイン化と情報活用能力の育成」

授業のユニバーサルデザイン化は，誰もがわかるできる授業をめざしている。学校現場のＩＣＴ機器整備環境は，まだまだ不十分ではあるが，与えられた環境の中で効

果的にＩＣＴ機器を活用することで授業のユニバーサルデザイン化を図っていきたい。また，それぞれの教科の特性応じた情報活用能力の育成についても研究を深めていきたい。

３．令和２年度分　研究業績一覧：なし

４．知的財産権の出願・取得状況：なし

５．令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：；なし

６．自己評価

研究課題に対する取り組みを形にあらわすことができていない。研究業績として書けるよう努力したい。

大学内運営

１．活動報告（委員会委員，担任等）

①　広報委員会委員

②　児童学科４年担任（81 名）

③　チューター（22 名）１年(0)名,２年(5)名，３年(7)名，４年(10) 名

社会貢献

１．学会への貢献

２．学校への貢献

３．地域への貢献

個人情報

1　氏名：仁宇暁子

2　職位：准教授

教育領域

1　教育の担当専門領域：図画工作科教育法、図画工作、美術Ａ

2　学部授業担当科目：

前期：図画工作科教育法２年、保育内容〈表現Ｂ〉２年、図画工作①1 年、卒業研究

後期：図画工作②1 年、専門ゼミナール３年、美術Ａ1 年２年、卒業研究４年

3　直接に研究指導した学部学生：7 名（卒業制作、卒業論文指導)、その他９名

4　自己評価：保育内容（表現Ｂ)、図画工作科教育法の今年度の授業は、三分の二が遠隔配信授業であった。子ども一人ひとりを生かす模擬授業や、保育内容〈表現Ｂ〉では、子どもの思いを汲み上げる模擬保育までの実践指導を遠隔配信で行ったため、パワーポイントを一科目につきスライド 400 枚以上作成した。対面での模擬授業や模擬保育は、学生が主体的に活動し、感性を揺さぶる授業を行うことができるように個別指導に時間をかけて対応したが、十分とはいえなかった。また、図画工作①②では、小学校・幼稚園教諭や保育士の採用試験で必要な写実的な鉛筆デッサンをはじめとした基礎基本の技能や知識を身に付けさせた。また、美術 A は、五感を働かせて感性を豊かにする感性トレーニングを駆使し制作に生かした。その結果、殆どの学生が美術に対する苦手意識が軽減し、自信をもって自己表現できるようになった。また、今年度は、新たに、クラスルームで授業の振り返りを客観的に行うことができ、アドバイスや返答を個別に行うことができ、学生の心に迫ることができた。

研究領域

1　専門研究領域：

・感性トレーニングによる心と形の関係性について

・絵画（桜の花びらをモティーフにテンペラ溶剤を使用した抽象絵画の研究、インスタレーション。

・石膏デッサンと感性トレーニングによる創造性の開発

2　研究課題及び概要：

・図画工作科における、「感性トレーニング」が子どもの心と表現に及ぼす効果

・創造の一過程としての石膏デッサンの可能性

・桜の花びら、藍染、キャンバス作品による「命の尊さ」の平面表現、インスタレーションによる空間表現

3　令和２年度分研究業績一覧

【論文・個展：】

第 39 回個展（紅色の絵画展　そごう徳島店）

第 68 回形象派美術協会展誌上作品展出品

【著書】：　「形象」に石膏デッサンと絵画展批評の原稿を掲載

4　自己評価：　「感性トレーニングによる子どもの心の変化と表現の効果」について著書

の執筆を始めることができた。また、今年度は残念ながら、サクラ―イノチシリーズの展覧会は諸事情により延期になった。

大学内運営

1 活動報告（委員会委員、担任等）

・人権委員会
・教員採用試験対策講座担当（絵画、鉛筆デッサン）
・令和２年度教員免許更新講座：令和２年８月 19 日（様々な場材による表現と鑑賞方法）・８月 21 日（現場で活かされる水彩画の基礎講座、表現と鑑賞の方法）
・国立台北教育大学芸術院と児童学科の交流締結
・児童学科オープンキャンパス担当
・児童学科広報担当
・児童学科４年生担任８１名、1 年生チューター２名、2 年生６名、3 年生チューター６名、4 年生チューター6 名

社会貢献

1　学会への貢献：学会への貢献は該当なしであるが、美術団体としての貢献は日本形象派美術協会　審査委員長並びに研修委員長を務めた。

2　学校への貢献：

・国立台北教育大学と児童学科の交流締結
・徳島市立高等学校への出張講義を行う。
・とくしま「新しい生活様式」発信事業の実践に絵画ワークショップで協力。県庁 HP に掲載
・全国教育美術展　地方審査委員を務めた。

3　地域への貢献：

・全国公募展「AWA 現代アート展」の審査員を務めた。
・三好市の病院で２歳から 100 歳までに「元気になる絵画ワークショップ」を年に 2 回行った。
・徳島市の公民館で市民や不登校の児童生徒を対象に絵画ワークショップを毎月 3 回開催した。
・とくしま動物園の写生大会などの展覧会審査員を務めた。

個人情報

１．　氏名：川端　惠子

２．　職位：准教授

教育領域

１．　教育の担当専門領域：　幼児教育

２．　学部授業担当科目

前期：　保育内容（環境）Ａ、保育内容（人間関係）Ａ、事前・事後指導（児童学科・保育科）

保育内容（環境）Ａ（保育科）

後期：　保育内容（環境）Ｂ、保育内容（人間関係）Ｂ、専門ゼミナール

保育・教職実践演習、保育内容（人間関係）Ａ（保育科）

３．直接に研究指導した学部学生：７名

４．　自己評価

・保育内容の指導において「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の記載内容がしっかり理解できるように留意するとともに、幼児期の特性や小学校以降の学びとの違いについての理解や認識が深まるように努力した。

・学生の理解度を把握しながら応答的に授業を進めることに配慮した。

・ビデオ・スライドなどを活用し視覚を通して学ぶことや、グループで学習し発表する機会を設けることで、楽しい授業を目指した。

・幼稚園の現場での経験を生かし、実際の幼児の姿や事例を多く取り入れ理論と関連付けた授業を展開することに努めた。学生が実習で経験したことを事例に仕上げ、考察を基にディスカッションした経験は有意義であったと考えている。

・４年生の授業では実践的な内容を中心とし、保育現場で応用できるよう配慮するとともに、保育の現場で求められる保育者としての資質を高めることに意識をおいて授業内容や演習内容に留意した。模擬保育の後、現場で行われているような模擬的な協議会の形式を取り入れて学んだこともリアルで好評だった。

・理論面においては新たに学ぶことや研究すべき事項が今年度も多々あった。教材研究は私自身の向上につながっており、次年度にもより良い授業を目指して取り組んでいきたい。

研究領域

１．　専門研究領域：保育内容

２．　研究課題及び概要

①「幼児期における道徳性・規範意識の芽生えについて」

近年の生活環境の変化が、子どもの成長・発達においてどのように影響を及ぼしているかについての研究を引き続き深めていきたい。とりわけ、道徳性・規範意識等が培われることについては、担当科目の保育内容（人間関係）と重なる部分であり、今後も研究したい。

②「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」等について理解を深め、各幼児教育施設での教育・保育の在り方について引き続き研究していきたい。

３．　令和２年度分 研究業績一覧

４．　知的財産権の出願・取得状況：　なし

５．　令和２年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：　なし

６．　自己評価

幼児期における道徳性・規範意識の芽生えについて、著名な研究者の考えを参考にしながら私自身の実践を基にした理論を追究し、指導に生かしていきたい。「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」を理解し、学生に伝達することに努力した。しかし、学会や研修会はビデオ等になったことから積極的に参加ができなかった。

大学内運営

１　活動報告

①　オープンキャンパス担当

②　児童学科４年Ａクラス担任

③　１年チューター５名、２年チューター２名、３年チューター７名、４年チューター６名

④　幼・保採用試験対策へのサポート

社会貢献

１　学会等への貢献

日本保育学会会員

２　地域社会への貢献

①　徳島県幼児教育推進体制構築事業調査研究実行委員

②　徳島県保育・幼児教育スーパーバイザー

③　徳島県幼稚園等新規採用教諭研修会委員

④　徳島県幼稚園ミドルリーダー研修（8/6）

⑤　幼稚園教諭免許認定講習講師（11/13）

⑥　徳島県幼稚園教育課程研究協議会助言者（8/2）

⑦　松茂町幼稚園教育研究協議会講師（7/6、11/4）

⑧　坂野認定こども園研修会講師（12/23）

個人情報

1. 氏名：林向達
2. 職位：准教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：情報教育、教育学
2. 学部授業担当

前期：教育方法・技術論、情報処理、保育原理

後期：教育方法・技術論、情報科学、情報ネットワーク論、保育原理、専門ゼミナール

3. 直接に研究指導した学生：

学部：3年生２名（専門ゼミ）、4年生６名（卒業研究／チューター指導）

大学院：なし

4. 自己評価：

今年度は、遠隔（オンライン）授業と対面授業を状況に応じて切替えながら授業することとなった。講義形式と演習形式の授業について、前者は音声講義、後者は動画講義として授業を構築することとなった。

音声講義では、教科書や用意された資料を用いて、調べ課題の出題部分と解説部分とに分けて音声コンテンツを配信した。質疑は授業支援システム（Google Classroom）上の文字ベースで行なった。教科書を設定しなかった授業では、スライド資料を中心に進めたが、後半部分ではスライド資料を含めた動画コンテンツとして配信した方が視聴に便利であるとの意見もあったため、動画を用いる形に変化していった。

動画演習は、情報処理の科目で、実際のコンピュータ操作画面を解説しながら動画収録したものを配信した。コンピュータ教室の限定された環境に縛られず、多様な機種や事例を紹介することができたこと。具体的な操作をクローズアップして解説することができたことなどが幸いし、授業内容としては充実した。一方で、受講生側の端末環境が異なるため、演習面では個別対応となり、フォローが難しかった面もあった。

研究領域

1. 専門研究領域：教育情報化史、教育課程論、教育工学
2. 研究課題及び概要：デジタル教材開発、教育と情報の歴史資料収集と整理
3. 令和元年度分、研究業績一覧

①［文献共訳］稲垣忠編訳『デジタル社会の学びのかたち Ver.2』北大路書房 2020.10

②［小論執筆］林向達「そもそも学校は、何のために「デジタル化」するのか」『教職研修』2021年3月号

③［小論執筆］林向達「１人１台の懸念に応える」『教職研修』2020年6月号

5. 自己評価

今年度は、オンライン授業の製作環境構築と運営に時間を割いたこともあり、研究関連成果は少なくなった。昨年度から引き継いだ課題である、プログラミングとデジタル関連の学習教材の開発は、ネットワーク基盤を利用するツールの製作が進んだ。今後の研究成果に役立つと期待している。

大学内運営

1. 活動報告

①児童学科 3 年生担任

社会貢献

1. 学会等への貢献

・文部科学省 ICT 活用教育アドバイザー（2020 年 4 月 － 2021 年 3 月）

・その他、外部委託業務あり

2. 地域社会への貢献

①徳島新聞社「小学生プログラミング教室」（12 月 19 日開催）講師

②徳島新聞社「小学生プログラミングコンテスト」審査委員

③岡山県総合教育センター「岡山県小学校プログラミング教育実践事例集 2020」執筆

④京都府「ICT 教育の推進に関する意見聴取会議」委員

⑤学習ソフトウェア情報研究センター「学習デジタル教材コンクール」審査

⑥大阪市教育センター学校教育 ICT 活用事業コーディネーター

以上

個人情報

１　氏名：土岡　大介

２　職位：准教授

教育領域

１　教育の担当専門領域：健康・スポーツ，スポーツ科学，幼・児童体育

２　学部授業担当科目

前期：体育②（児童 3ABC），健康スポーツ A（建築 1,総合政策 1A，人間生活 1，短大音楽 1，商科 1，口腔保健 1），児童保健学特論Ⅱ，児童保健学演習

後期：健康スポーツ B（看護 1A，看護 1B，食物栄養 1B，総合政策 1B，心理 1A），児童保健学特論Ⅰ

３　直接に研究指導した学部学生：その他（3 名）

４　自己評価

これまで主に実技形式で行ってきた健康スポーツ授業の遠隔化に伴い，大きく内容の変更を余儀なくされた．遠隔授業においても，授業の目的に沿って，運動・スポーツ活動の重要性と，その継続的な実施に関連した健康，体力の維持増進方法などについて各回授業資料を作成し，遠隔授業を行った．スポーツ活動の科学的な背景について理論的にも理解を深めると共に，遠隔授業期間中にも部屋や屋外で安全に実施できるストレッチや簡単なトレーニングの内容を示し，記録しながら取り組ませることができた．継続的にコンディショニングを行うことで，遠隔授業期間中の運動不足の解消にも繋がり，受講生には好印象であったようだが，遠隔授業期間のみならず，４年間を通じて継続的に取り組む方法やその必要性についても強調し，また対面授業が再開された後の学内施設の利用方法，運動時間の確保等，具体的な実施方法についても扱うことができた．

研究領域

１　専門研究領域

健康・スポーツ科学，運動方法学(バレーボール)，指導者養成

２　研究課題及び概要：

・幼児を対象とした体力・運動能力の向上に関する研究（継続）

・バレーボール競技力向上・公的資格を持つ指導者育成に関する研究（継続）

・バレーボール競技人口の拡大・普及発展に関する研究（継続）

３　令和 2 年度分 研究業績一覧

・幼児の運動能力と運動および生活習慣の関係－徳島県内のある幼稚園の調査結果－，共著，四国体育・スポーツ学研究第 6 号，pp. 1-10

・令和 2 年度公益財団法人日本バレーボール協会公認講師認定講習会講師，及び認定審査会進行と審査員として 11 名の審査担当，Web 開催

４　知的財産権の出願・取得状況 なし

５　自己評価

新型コロナウイルス感染症による社会情勢によって，東京オリンピックは延期となり，全国でスポーツ活動や大会も中止・延期が相次ぐ中，これまで毎年開催してきたスポーツ分野に関連した講演・講習会なども中止となっていった．年度後半には，少しずつではあるが，遠隔配信形式による講習会などを企画・運営する体制をつくることができ，例年より少ない人数ではあるが，公的なスポーツ指導者資格を認定することができた．現在は，遠隔での講習会などにおける実技の取り扱いについて JSPO 日本スポーツ協会とも連携し，その質的保証について議論を進めている．このような社会情勢においても，他の中央競技団体とも連携を深めつつ，スポーツ活動の停滞を最小限にすべく遠隔での講習会内容の充実を図っていきたい．また今年度を教訓として講習会実施の円滑化を進め，今後も継続して専門的な知識・指導方法を身につけた指導者の輩出と指導者を養成（指導）することを目的とした公認講師資格取得者を育てていきたいと考える．

大学内運営

1　活動報告

・教員採用試験対策講座担当(体育実技)
・全学共通教育センター学習支援アドバイザー
・一般教養科目充実協議会準備委員会委員
・防火・防災管理委員会委員 7 号館責任者，6 号館 AED 管理責任者
・スポーツ推薦入試（バレーボール窓口）・高校訪問担当，入試面接担当
・附属幼稚園特設保育体育あそび教室（平成 15 年より毎年約 35 回実施）担当
・男女バレーボール部部長，女子バレーボール部監督，クラブ総会指導
・高校生のバレーボール強化練習会・合宿の受入，スポーツ OC の実施
・6 号館体育館の使用申請責任者・管理業務
・8 号館トレーニングセンターでのトレーニング実技指導，トレーニングマシン管理
・体育科カリキュラム作成に関わる業務・用品申請管理
・入学・卒業式の総代指導・会場設営等，学内体育設備管理　等

社会活動

1　地域社会への貢献

・徳島県国際スポーツ局スポーツ振興課競技力向上プロジェクト推進委員
・公益財団法人日本バレーボール協会国内事業本部指導普及委員会副主事
・公益財団法人日本バレーボール協会公認講師認定審査員
・JSPO 日本スポーツ協会公認コーチ認定審査員（バレーボール専門科目）
・日本ヤングクラブバレーボール連盟理事，事務局
・全日本大学バレーボール連盟女子強化委員
・西日本大学バレーボール連盟学識理事
・四国大学バレーボール連盟副会長
・四国大学総合体育大会実施委員会委員
・徳島県バレーボール協会参与，一貫指導体制推進委員
・徳島県大学バレーボール連盟会長
・国立大学法人鳴門教育大学・大学院学校教育研究科（非常勤）

個人情報

1. 氏名：金子　紗枝子
2. 職位：講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域：教育心理学，認知心理学，学校心理学，保育心理学
2. 授業担当科目

   前期　【短期大学部】　保育内容（言葉）A，保育の心理学 I，教育心理学，教育相談（カウンセリングを含む）

   後期　【学部】　幼児理解，保育の心理学 II，教育心理学

   　　【短期大学部】　保育の心理学 II，幼児理解
3. 直接に指導した学生：専門ゼミナール 2 名，卒業論文指導 4 名，チューター担当 21 名（専門ゼミナールおよび卒論指導担当学生を含む），子どもの学び支援センターでの指導 22 名。
4. 自己評価

   今年は遠隔配信で授業を実施することが多かったが，なるべくこれまでと同様の学修を保障できるよう，オンラインでのグループ学習や意見交換，映像配信などの工夫を行った。授業評価アンケートの結果はおおむね好意的であった。今後も学修や学生支援のひとつの方法として遠隔配信を活用できるよう，より良い方法・内容を検討していきたい。

研究領域

1. 専門研究領域：認知心理学，教育心理学，学校心理学。特に認知心理学の知見を踏まえた学習方法について研究している。また学習に困難を抱える子どもへの支援活動の実施や，その活動が支援実施者へ及ぼす影響についても検討している。
2. 研究課題及び概要

   ①「テストに取り組むこと」が学習を促進するという現象について，学習者の能動的な情報処理（検索）の観点から，そのメカニズムの解明と教育活動への利用について研究している。

   ② 認知カウンセリング（認知心理学の知見をふまえた学習支援活動）について，支援者として参加する大学生の教職意識や力量の形成に及ぼす影響を検討している。
3. 令和 2 年度分研究業績一覧

   【学会発表】

   金子紗枝子・岡直樹　大学の相談室における認知カウンセリングが参加児童とその保護者に及ぼす効果　日本心理学会第 84 回大会　2020 年 9 月　東洋大学（ポスター発表）
4. 知的財産権の出願・取得状況：なし
5. 令和 2 年度分科学研究費補助金・各種助成金の申請・交付状況

   科研費（若手研究）「主体的な学習はなぜ効果的なのか―誤検索効果を用いた検討」研究代表者
6. 自己評価

   研究課題①について，本年度は昨年度実施した実験を完了させ，加えて新たな実験を実施する予定であった。しかし新型コロナウィルスの影響により対面での実験実施が困難となり，予定を遂行することができなかった。また研究成果を発表することもできなかったため，来年度は実験実施と研究成果の発表を積極的に行っていきたい。

   研究課題②については，2 年前から継続しているきらきらルームの活動を，後期の

みではあるが実施することができた。新型コロナウィルスの影響下ではあったが申し込みも多く，参加した小学生や保護者の満足度も高かった。今後も地域の方により満足いただける活動を目指していきたい。また活動を通じた小学生の学力や学習観，大学生の指導力などの変化について検討し，その成果を発表していきたい。

大学内運営

活動報告

児童学科 1 年生担任，1-4 年生チューター，学科内宿泊セミナー担当，学科内子どもの学び支援センター「きらきらルーム」支援員

社会貢献

地域社会等への貢献

徳島県社会福祉審議会 委員，一般社団法人学校心理士認定運営機構主催 SV 研修（SV 研究協議会）（10 月 31 日，11 月 1 日実施） 企画運営

個人情報

1. 氏名：那住　公子
2. 職位：講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域：英語科・英語科教育法・小学校英語教育

2. 学部授業担当科目
   前期：英語 A①(薬学１年、児童１年)、児童英語活動、外国語科教育法、
   文理学、卒業研究
   後期：英語 A②(薬学１年、児童１年)、児童英語活動指導法、小学校英語、
   専門ゼミナール、文理学、卒業研究

3. 直接に研究指導した学部学生：2 名（専門ゼミナール）5 名（卒業研究）

4. 自己評価
   例年行っている授業の「振り返り」は、紙媒体での「振り返りシート」であったが、本年度は、遠隔授業で授業が開始したこともあり、毎時間、対面授業でも classroom で行った。紙媒体で振り返りを行うよりも classroom で行う方が利便性も高く、学生の質問にも丁寧に答えられるので、これからもこの方法で行いたいと考えている。
   一般教養科目の児童学科の英語 A に関しては、本年度テキストを新しくして、より実際に小学校や幼稚園など児童を接する時に使用できる英語を多く取り入れた。薬学部の英語 A については、来年度テキストを変更の予定である。
   「コミュニケーションのための英語」の重要性を学生にも理解してもらうため、授業では、ペア活動やグループ活動をとりいれている。遠隔授業においても、classroom で学生がやりとりできるように時間をとることをこころがけた。また、全英語科目（英語 A、小学校英語、外国語科教育法、児童英語活動、児童英語活動指導法）において、実技テストを実施する予定であったが、本年度は遠隔授業等のため、実施できなかった。来年度はぜひ実施したい。
   今年度、始めて「卒業研究」を５名担当し、なんとか全員無事に満足のいく「卒業研究」をまとめあげることができた。
   それぞれの学部や学科で必要な英語は何かを考えて授業を計画するため、教材研究や授業準備に膨大な時間がかかるが、大切なことなので今後も続けていきたい。

研究領域

1. 専門研究領域：英語教育、フォニックス、リフレクティブ・プラクティス

2. 研究課題及び概要
   ①「リフレクティブ・プラクティス」
   中学校英語教員時代からずっと「振り返りシート」を使用してきたが、そのことについて研究するということはなかった。授業の振り返りが研究分野としてあることを知り、現在、大学の授業で実践してる「振り返り」がよりよいものとなるように研究をしていきたいと考えている。
   ②「小学校教員のための英語」
   これまでずっと中学校英語教育に関わってきたため、小学校英語に関しては多くの研修を必要としているのが実情である。小学校教員を養成する児童学科の英

語科担当者として、どのようなことが必要か研究していきたい。本年度は研究大会への参加は、COVID-19 の関係で、かなわなかった。今後とも書物等を読んで研修・研究していきたい。

3. 令和２年度分　研究業績一覧
論文・著書：特になし
学会発表：特になし

4. 知的財産権の出願・取得状況：特になし

5. 令和２年度分科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：特になし

6. 自己評価
多くの授業が遠隔での授業となったため、これまで以上にオンラインでの授業準備に驚くほど多くの時間を必要とした。また、正課外の講座や、担任・チューターとして平常の学生の指導等に加えて、コロナ下で生じた個々の学生への指導等にも多くの時間と労力を費やすため、じっくりと研究に取り組むことが困難な状況にある。ただ、授業研究等を重ねるなかで、徐々にではあるが小学校英語について、理解を深めていっている。今後は研究の時間を確保し、継続して研修や研究に励み、形あるものを創りあげていきたいと考えている。

大学内運営

1. 活動報告
① 児童学科１年 A クラス担任
② １年チューター生４名　２年チューター生１０名　３年 ゼミ生２名
４年ゼミ生５名、
③ 児童学科オープンキャンパス主担当
④ 児童学科宿泊セミナー担当
⑤ 児童学科教育相談担当
⑥ 児童学科就職支援委員
⑦ 全学共通教育センターの学習支援アドバイザー
⑧ 小学校採用試験対策へのサポート

社会貢献

1. 学会等への貢献
徳島大学英語英文学会会員
鳴門教育大学英語教育学会会員
四国英語教育学会会員
全国英語教育学会会員
2. 地域社会への貢献
とくになし

個人情報

１．　氏名：森　万里子

２．　職位：講師

教育領域

１．　教育の担当専門領域：　乳児保育・幼児保育

２．　学部授業担当科目

前期：　乳児保育①・児童文化・保育実習指導Ⅰ①・保育実習指導Ⅱ

後期：　乳児保育②・保育実習指導Ⅰ①・保育教職実践演習

３．　直接に研究指導した学部学生

４．　自己評価

・初年度で、授業、講座の準備や実習の調整、仕事を覚えること等に時間を要し、率的に仕事を進められなかった。その中でも、実習調整は、保育実習・施設実習ともにコロナ禍の影響を受けて、延期、中止となる所もあり、再調整を行う等スムーズには行かなかった。

・コロナウイルス感染拡大状況下、不安や戸惑いがある中、予防に細心の注意を払い試行錯誤しながら取り組んだ事で、従来どおりを考え直す新たな学びもあった。

・乳児保育、幼児保育についての指導において、まず、3 法令「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の内容を押さえながら授業を行い関連するところを確認しながら進めていった。

・保育所の現場での経験を生かし、具体的に乳幼児の実際の事例を紹介しながら、応答的に授業を展開することに努めるとともに、保育現場で求められる保育者の資質についても知らせ、授業内容や演習内容を考慮した。

・実習に向けて学生に寄り添った丁寧な指導を行うよう心がけたが、対面授業から突然遠隔配信になる等、計画通りに行かない事態も起こり得るので、早めに事前事後指導を行い一人ひとり提出書類や準備物等を確認し、対処することが求められる。

・わかりやすく、より良い授業をめざして自己研鑽し、先輩先生方のご指導やアドバイスを参考に、教材研究等に努めたい。

研究領域

１．　専門研究領域：保育内容

２．　研究課題及び概要

①　環境を通して行う主体的な保育の取り組みについて

②　平成 29 年度告知の「保育所保育指針」等について理解を深め、保育施設での養護と教育の在り方について研究していきたい。

３．　令和２年度分 研究業績一覧

４．　知的財産権の出願・取得状況：　なし

５．　令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：　なし

６．　自己評価

コロナウイルス感染拡大の状況下で、県外への研修会参加ができず、リモートで研修を受けたり、保育、教育についての本を読んだり等、自己研鑽に努めた。著名な研究者、実践者の考えを参考にしながら、自身の実践研究を進め、必要に応じ授業や指導に反映させていった。今後、さらに探求していきたい。

保育、教育のベースになる 3 法令「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読み解き、学生への適切な指導理解に繋げていく。

授業準備、講座、実習調整等に時間を要した事と、コロナ禍で、保育現場へ行けなかったこともあり、十分に実践できなかった事を反省している。次年度、引き続き実践研究したい。

大学内運営

１　活動報告(委員会・活動等)

①　教育開発機構の一般教育教育研究部会、防災対策検討委員会

②　児童学科４年生クラス担任

③　１年チューター(10 名)，２年チューター(5 名)，３年チューター　(なし)，４年チューター(6 名)

④　全学共通教育センター　教育支援アドバイザー，幼・保採用試験対策へのサポート

社会貢献

１　学会等への貢献

ネイチャーゲームリーダー

２　地域社会への貢献

第４節　　メディアデザイン学科

個人情報

１．氏名：篠原　靖典
２．職位：教授

教育領域

１．教育の担当専門領域：　　総合領域 情報学 知能情報処理

２．学部授業担当科目
前期
　　メディアデザイン通論、専門ゼミナールⅠ、Web プログラミング入門
　　情報システム演習Ⅰ、プログラミング入門、卒業研究

後期
　　情報セキュリティ論、専門ゼミナールⅡ、Web プログラミング応用
　　情報システム演習Ⅱ、プログラミング応用，応用データベース、卒業研究

３．直接に研究指導した学部学生：　卒業論文　（3）名

４．自己評価：
・Web 教材やパワーポイント等の資料や教材を用意し、内容の理解度を伸ばすように工夫した点が評価される。
・専門ゼミナールⅠ，Ⅱにおいて、ゼミの学生によるエコバッグプロジェクトを実施し、レジ袋削減に対する意識啓発を行った
・専門ゼミナールⅠにおいて、徳島大学総合科学部と共同ゼミナールを実施した。この中で、県内企業の魅力を学生目線で情報発信し「若者のとくしま回帰」を促進する。

研究領域

１．専門研究領域：
　　総合領域 情報学 知能情報処理

２．研究課題及び概要
　「ニューラルネットワークを用いた画像の領域分割に関する研究」
　「電子書籍開発」　「インターネットを利用したインタラクティブ学習」

３．令和２年度分 研究業績一覧
学会発表
　日本保育学会 第 73 回大会
　保育者を対象としたピアノの再教育の試み（３）
　―オンラインピアノレッスンのためのアプリケーション開発―

４．令和２年度分
科学研究費補助金
各種助成金等の申請
交付状況

５．自己評価
・専門的知識を用いて学内の共同研究をサポートした。
・行政との連携による地域再生・活性化事業において、役割を果たすことができた。

大学内運営

１．活動報告：
・メディアデザイン学科長
・大学院生活環境情報学専攻 専攻主任
・教務委員会委員
・教員養成対策委員会委員
・情報センター副所長
・防火・防災管理委員
・地域連携センター運営協議会委員
・1 年生～4 年生チューター
・本学入試監督・面接

社会貢献

１．地域社会への貢献
・e-とくしま推進財団 評議員
・徳島県西部地域政策総合会議計画推進評価部会 副部会長
・徳島県立工業技術センター試験研究評価委員会委員
・とくしまＯＳＳ普及協議会 幹事
・大学と高等学校との連携事業・教育情報作業部会委員
・南部津波減災対策推進会議委員
・徳島県警察との連携事業「ネットウォッチャー」事業実施
・徳島県警察との連携事業「情報発信ウォッチャー」事業実施
・徳島県個人情報保護審査会委員

個人情報

1.　氏名：古本　奈奈代
2.　職位：教授

教育領域

1.　教育の担当専門領域：社会調査・統計解析　プレゼンテーション論
2.　学部授業担当科目:

前期：メディアデザイン通論 ,プレゼンテーション技法,社会調査論,社会調査研究Ⅰ,
　　専門ゼミナールⅠ, 卒業研究

後期:生活と情報Ｂ,社会調査研究Ⅱ,プレゼンテーション演習,プレゼンテーション論,
　　専門ゼミナールⅡ, 卒業研究, 看護研究Ⅱ（看護学研究科）

3.　直接に研究指導した学部学生：　卒業論文（1）名
4.　自己評価:

①　講義全般においてスライド教材作成、補助教材プリントの作成により学生の理解を助けるように努め、授業評価アンケートにおいて成果が確認された。
②　社会調査士資格認定校として社会調査関係の認定科目を指導し、特に「社会調査研究Ⅱ」においては少人数グループによるフィールドワークを実施し、報告書をまとめることにより資格取得希望者全員が資格を取得することができた。
③　学外の企業や徳島県内の行政機関行政などと連携し、地域貢献事業に積極的に参加した。課題発見型授業を実践することができたと同時に、その実績は高い評価を得た。

研究領域

1.　専門研究領域：数学　数学一般（確率論・統計数学）
2.　研究課題及び概要:

①　ランダムデータの統計的処理とその応用に関する研究
②　教育従事者における自己評価とその再教育に関する研究

3.　令和 2 年度分 研究業績一覧:

論文

①　Dental Caries in Children Under Five Years of Age in Mongolia International .Journal of Environmental Research and Public Health 17,2020
②　保育所に基づく乳幼児の音楽表現の姿について-3歳児未満の場合-:徳島文理大学研究紀要　第99号59-66,2020

学会発表

①　保育者を対象としたピアノの再教育の試み(3)−オンラインピアノレッスンのためのアプリケーション開発−日本保育学会 第 73 回大会

4.　令和 2 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

①　令和 2 年度とくしま COC 教育・研究・社会貢献プログラム(徳島大学との共同研究)：350,000 円

5.　自己評価:

①　調査分析の専門家を認定する社会調査士資格取得者を輩出することができた。
②　調査分析に関する専門的知識を用いて他学部他学科の研究をサポートした。
③　徳島県が推進する地域再生事業に対する大学の役割を遂行することができた。

大学内運営

1.　活動報告:

①　人間生活学部広報委員会委員

②　本学入学試験

③　オープンキャンパス

④　担任・チューター

社会貢献

1.　地域社会への貢献:

①　e-とくしま推進会議委員

②　徳島県総合計画審議会委員

③　徳島県環境審議会委員

④　徳島県科学技術県民会議委員

⑤　徳島県新事業分野開拓者認定審査委員

⑥　徳島県地域情報化表彰審査会委員

⑦　とくしま障がい者雇用促進県民会議委員

個人情報

１．氏名：加治　芳雄
２．職位：講師

教育領域

１．教育の担当専門領域：情報学基礎、ソフトウェア、情報ネットワーク、データベース、知能情報学
２．学部授業担当科目
　前期：情報通信ネットワーク論、情報データベース、情報処理Ⅰ、メディアデザイン通論、情報システム論A、オペレーションズリサーチ、プログラミング論B、専門ゼミナールⅠ、知能科学、生体計測技術学実習
　後期：プログラミング論A、情報数学、コンピュータネットワーク論、コンピュータネットワーク演習、情報システム論B、専門ゼミナールⅡ
３．直接に研究指導した学部学生：卒業論文　０名
４．自己評価：
　今年度、前期は遠隔授業が主となったため、授業で説明した内容等の振り返りができるよう、説明はGoogle Classroomのストリームに全て記載するとともに、講義資料としてパワーポイントによる資料を作成した。また、プログラミング系の演習科目等も遠隔で演習できるよう工夫した。

研究領域

１．専門研究領域：生体医工学、生体情報工学、認知科学、知能情報学
２．研究課題及び概要
　1）脳波を利用した脳機能解析
　2）医用福祉分野への応用に関する研究

令和２年度分 研究業績一覧

1.　論文

1）Morimoto, J., Horio, M., Kaji, Y., Kawata, J., Higuchi, M. and Fujisawa, S. : Method to Expand the CMAC Model to Composite-Type Model. Journal of Robotics and Mechatronics, Vol.32, No.4, pp.745-752, 2020.
2）Kaji, Y., Yamamoto, Y., Kawata, J., Morimoto, J. and Fujisawa, S. : EEG Variations During Measurement of Cognitive Functions Using Biosignal Acquisition Toolkit. Journal of Robotics and Mechatronics, Vol.32, No.4, pp.753-760, 2020.

2.　学会発表

1）藤澤正一郎，坂見健二，坂口友哉，青木隆功，森本滋郎，河田淳治，加治芳雄，樋口峰夫，伊藤伸一，佐藤克也：点滅する視覚障害者誘導用発光ブロックの視認性の検証，The Robotics and Mechatronics Conference 2020，2020年5月
2）田上 大地，芥川 正武，榎本 崇宏，七條 文雄，加治 芳雄，木内 陽介 ： 磁気センサを用いた嚥下運動の測定および機能評価，電子情報通信学会技術研究報告(MEとバイオサイバネティックス)，Vol.120，No.111，5-8，2020年7月.
3）藤田浩基，村川昂弘，森本滋郎，堀尾　誠，河田淳治，加治芳雄，樋口峰夫，藤澤正一郎：笑顔認識のための評価基準に関する一考察，電気学会 制御研究会「人間中心型システムのための情報・制御技術，および制御一般」,CT-20-97，pp.9-10，2020年10月.
4）河田淳治，森本滋郎，加治芳雄，樋口峰夫，藤澤　正一郎：現場ニーズに基づく福祉ロボットの開発，電気学会 制御研究会「人間中心型システムのための情報・制御技術，および制御一般」，CT-20-98，pp.11-14，2020年10月.

5) 加治芳雄，山本由和，河田淳治，森本滋郎，樋口峰夫，藤澤　正一郎：簡易測定装置を利用した暗算負荷時の脳波変化の調査，電気学会 制御研究会「人間中心型システムのための情報・制御技術，および制御一般」，CT-20-99，pp.15-16，2020 年 10 月.
6) 藤田浩基，村川昂弘，森本滋郎，河田淳治，加治芳雄，樋口峰夫，藤澤正一郎：表情認識の評価基準に関する一考察，計測自動制御学会第 21 回システムインテグレーション部門講演会，pp.234-235，2020 年 12 月.
7) 河田淳治，森本滋郎，加治芳雄，樋口峰夫，藤澤正一郎：介護現場におけるニーズ分析と福祉ロボットの開発，計測自動制御学会第 21 回システムインテグレーション部門講演会，pp.236-239，2020 年 12 月.
8) 藤澤正一郎，坂見健二，坂口友哉，青木隆功，桶川誠貴，森本滋郎，河田淳治，加治芳雄，樋口峰夫，伊藤 伸一：弱視者のための発光ブロックの点滅光による誘導，計測自動制御学会第 21 回システムインテグレーション部門講演会,pp.240-245，2020 年 12 月.
9) 加治芳雄，山本由和，河田淳治，森本滋郎，樋口峰夫，藤澤正一郎：認知機能計測時の若年者と高齢者における脳波変化の調査，計測自動制御学会第 21 回システムインテグレーション部門講演会，pp.253-254，2020 年 12 月.
10) 藤澤正一郎，佐々木晶浩，桶川誠貴，坂見健二，森本滋郎，河田淳治，加治芳雄，樋口峰夫，伊藤伸一：発光ブロックの点滅による刺激と視認性について，電気学会 制御研究会「制御理論・制御技術一般（スマートシステムと制御技術シンポジウム 2021)」，CT-21-010，pp.35-38，2021 年 1 月.
11) 藤澤正一郎，赤堀晃哉，河田淳治，森本滋郎，加治芳雄，樋口峰夫，坊岡正之：自走式車いすのタイヤ空気圧と乗り心地について，電気学会 制御研究会「制御理論・制御技術一般（スマートシステムと制御技術シンポジウム 2021)」，CT-21-011，pp.39-41，2021 年 1 月.

3. 知的財産権の出願・取得状況

記載事項なし

4. 令和 2 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

1) 科学研究費補助金申請、基盤研究（C)「脳機能解析と脳波モニタリングに関する研究」

自己評価

今年度は、コロナ禍により、実験に苦労したが、論文をまとめることができた。また、学会等で成果を発表できた。今後も継続して努力したい。

大学内運営

活動報告

1) 2 年生学年担任、チューター担当(1 年 8 名、3 年 4 名、4 年 2 名)
2) 教育研究委員会委員、自己点検・自己評価委員会委員
3) オープンキャンパス：模擬授業担当(1 回)，学生スタッフ指導など
4) 入試（監督、面接業務）

社会貢献

1. 学会等への貢献
   1) 電子情報通信学会四国支部学生会顧問(2015 年 4 月～)

2. 地域社会への貢献
   1) 出前授業　徳島科学技術高等学校(1 年生 30 名)
   2) 教員免許状更新講習　選択科目担当
   3) SMART 運営委員（2007 年 4 月～）

個人情報

１.氏名：山城　新吾

２.職位：講師

教育領域

１.教育の担当専門領域

総合領域　科学教育・教育工学　教育工学

総合領域　情報学　情報学基礎　メディア情報学

２.学部授業担当科目

前期：インストラクショナルデザイン　インストラクショナルデザイン演習　コンピュータグラフィックス論Ⅰ　コンピュータフラフィックスⅠ　メディア基礎論　メディア制作論　専門ゼミナールⅠ　メディアデザイン通論　卒業研究

後期：メディア基礎演習　メディア教育演習　メディア教育論　専門ゼミナールⅡ　基礎ゼミナールB　情報科学　卒業研究

３.直接に研究指導した学部学生

卒業論文（ 6 ）名、大学院修士（ 0 ）名

４.自己評価：

全授業で視聴覚教材の提供や学生による課題遂行・レポート提出・プレゼンテーションを推進した。その他、「メディア基礎演習」でティームティーチング実施、「インストラクショナルデザイン演習」で学生によるｅラーニング教材制作と実践を行った。

研究領域

１.専門研究領域

総合領域　科学教育・教育工学　教育工学

複合領域・社会・安全システム科学・社会システム工学・安全システム

２.研究課題及び概要

「課題」防災教育・啓発プログラム・教材の開発

学校等における災害対応・教育再開における課題

「概要」東日本大震災の発生前より、近い将来発生が予想される南海トラフ巨大地震に備え、防災や津波に対する対策の必要性を訴える教材開発や各種教育活動を実施してきた。令和 2 年度は保育所における災害対応と保育再開や、平成 30 年西日本豪雨や令和元年台風 19 号の被災地での調査についてまとめた。

３．令和 2 年度分 研究業績一覧

論文・著書

1. 山城 新吾，中野 晋，金井 純子，長谷川 真之「令和元年東日本台風による長野県内の保育園の被災と業務継続」土木学会論文集 F6（安全問題）,Vol.76,No.2,p. I_1-I_8,2020.
2. 中野 晋,金井 純子，山城 新吾，長谷川 真之「平成 30 年 7 月豪雨における広島県内の保育所の被害と対応」土木学会論文集 F6（安全問題）,Vol.76,No.2,p. I_155-I_164,2020.
3. 金井 純子，中野 晋，山城 新吾，三上 卓「令和元年東日本台風による越辺川

沿いの社会福祉施設の被災と業務継続に及ぼす施設特性」土木学会論文集 F6（安全問題）,Vol.76,No.2, p.I_211-I_218,2020.

学会発表
土木学会安全問題討論会’20（2020 年 11 月 27 日）
・令和元年東日本台風による長野県内の保育園の被災と業務継続
山城（徳島文理大学），中野，金井，長谷川（徳島大学）
・平成 30 年 7 月豪雨における宇和島市内の保育園の災害対応と保育継続
中野，金井（徳島大学），高橋（香川大学），中内（徳島県）
・令和元年東日本台風による越辺川沿いの社会福祉施設の被災と業務継続に及ぼす施設特性
金井，中野（徳島大学），山城（徳島文理大学），三上（エイト日本技術開発）
知的財産権の出願・取得状況
（なし）
令和 2 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
（なし）
自己評価：
平成 29 度から継続中の防災教育系の分野で、今年度は令和元年台風 19 号や平成 30 年西日本豪雨災害に関する調査結果について発表した。

大学内運営
活動報告
・人間生活学部　入試委員会　委員
・人間生活学部　広報委員会　委員
・人間生活学部メディアデザイン学科　4 年生担任・1～3 年生チューター

社会貢献
・教員免許状更新講習「マルチメディアに関する講習」講習担当　2020 年 8 月 4 日
・エフエムびざん「B-STEP TALKING」2020 年 10 月 5 日ライブ出演
集中講義「情報メディア論」受講学生 2 名とともに紹介
・徳島県肢体不自由児者父母の会連合会「第 5 回 Online バリフリ BOX」
プレイベント配信支援　2020 年 10 月 25 日
メインイベント配信支援　2020 年 11 月 22 日
・とくしま就活ナビ 2022（徳島新聞社）「シュウカツのギモン??」
コンテンツ制作支援　2020 年 8 月～12 月
・四国放送ラジオ「中四国ライブネット 阪神淡路大震災から 26 年 あの時何が起こったか」出演　2021 年 1 月 17 日

個人情報

１.氏名：長濱太造

２.職位：助教

教育領域

１.教育の担当専門領域：統計科学，マルチメディア

２.学部授業担当科目

前期：メディアデザイン通論，コンピュータ概論，情報処理論，生活と情報Ａ，情報処理

後期：応用統計学，社会調査法，コンピュータ基礎演習，コンピュータグラフィックス演習Ｉ，ＣＧアニメーション

３.直接に研究指導した学部学生：卒業論文（０）名、大学院修士（０）名

４.自己評価：

・全ての授業で、PowerPoint やＥｘｃｅｌ、テキストファイルで指導案を配布し、受講者の理解がより深まるように工夫している。

・学習内容が定着するよう、授業のひとまとまり毎にレポート提出や小テストを実施している。

・コンピュータグラフィックス系の授業では、コンテストを開催し、受講者のモチベーションが向上するよう工夫している。

・社会調査法で昨年度から導入した反転授業を改良し、手応えを感じた。

研究領域

１.専門研究領域：統計科学，マルチメディア，教育工学関連

２.研究課題及び概要：

１．アクティブラーニングと学生の講義への取り組み方が基礎的・汎用的能力に及ぼす影響

２．徳島市における特別支援教育推進調査のテキストマイニングによる分析

３．鳴門市　福祉に関するアンケート調査のテキストマイニングによる分析

４．コンテンツ工学を活用した地域コンテンツに関する研究

３.令和２年度分 研究業績一覧：

学術論文

１.「幼児の運動能力と運動および生活習慣の関係 －徳島県内のある幼稚園の調査結果－」，四国体育・スポーツ学研究６号，（金子憲一，長濱太造，土岡大介，田子孝仁，天羽博昭，石井信子）

２.「前腕の回外・回内動作を引き出す運動プログラムの介入が幼児の投能力に 与える変化」，四国体育・スポーツ学研究７号，（金子憲一，天羽博昭，長濱太造）

３.「反転授業を活用した授業実践とその効果 ―大学生への「学校保健」の授業を通して―」，徳島文理大研究紀要 第 100 号：29-35，（貴志智恵子，竹内理恵，長濱太造，山崎勝之）

学会発表

１.「子どもの主体性・探究心を育てる養護実践のあり方を問う　事例“歯の自分

史”を省察して」2020.10.10，日本養護教諭教育学会 2020 年学術集会，オンライン学会，（貴志知恵子，竹内理恵，長濱太造）

２.「子どもの主体性・探究心を育てる養護実践とは（第２報）　―実践を振り返って見えてくるもの―」2020.10.10，日本養護教諭教育学会 2020 年学術集会，オンライン学会，（竹内理恵，貴志知恵子，長濱太造）

４.知的財産権の出願・取得状況：なし

５．令和２年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

１.徳島文理大学令和２年度「特色ある教育・研究」事業（採択番号：２　教育１，課題番号：TBU2020-1-1）

２.令和 3(2021)年度基盤研究（Ｃ）（一般）申請済み

６.自己評価：

・「アクティブラーニングと学生の講義への取り組み方が基礎的・汎用的能力に及ぼす影響」は、本学図書館で課題解決型アクティブラーニングを実施し、アクティブラーニングによる学習と学生の講義への取り組み方が、学生の「基礎的・汎用的能力」の変化に及ぼす影響を客観的に示すことで、学生が「基礎的・汎用的能力」を獲得するための効果的なアクティブラーニングの活用方法を検討することを目的としている。現在進行中である。副産物的な成果ではあるが、本学図書館を舞台に次のような企画を実行し、成果を上げた。

・図書館ホームページおよび Twitter の改善
・３種類の新しいパンフレット製作・配布
・ブックカバーコンテスト開催
・POP コンテスト開催
・オリジナルグッズ開発のためのニーズ調査
・Google ストリートビューを活用した広報の検討
・図書館とカフェロティのコラボ企画実施

大学内運営

１.アカンサス会本部役員
２.アカンサス会徳島県支部役員
３.アカンサス会高知県支部立ち上げ委員
４.新入生セミナー運営委員
５.人間生活学部学生指導委員
６.人間生活学部教員養成推進委員
７.オープンキャンパス　模擬授業講師２回担当
８.令和２年度入学生担任，平成 29～令和元年度入学生チューター
９.入学試験　監督・面接

社会貢献

１.日本養護教諭教育学会　第 29 回学術集会実行委員（2021 年開催）
２.第 55 回徳島県高校放送コンテスト審査員（徳島県高等学校文化連盟）
３.教員免許状更新講習「マルチメディアに関する講習」　講習担当
４.阿波の狸　奉賛会世話人

第５節　　建築デザイン学科

個人情報

１．氏名：森田　孝夫
２．職位：教授

教育領域

１．教育の担当専門領域：建築計画学、都市計画学
２．学部授業担当科目
　前期：建築計画論、都市計画論、住宅政策論、生活施設計画、住宅設計製図Ⅱ、卒業研究
　後期：住居学、景観論、人間工学、インテリアデザイン基礎、専門ゼミナール卒業研究
３．大学院授業担当科目
　博士前期課程：住生活環境学特論Ⅰ・Ⅱ、地域・市場調査演習Ⅱ、住居学特論
　博士後期課程：住生活環境学特別講義、住生活環境学特別研究、生活習慣環境学域
４．直接に研究指導した学部学生、大学院生：
　　卒業設計（　７　）名　　修士論文（　０　）名
５．自己評価：
＜専門科目・基礎分野＞
住居学（1 年）、都市計画論（3 年）、生活施設計画・住宅政策論・景観論(4 年)は専門書を読む必要がある。近年の学生諸君は、スマホを使ってコピペによりレポートをまとめる傾向があるようだが、大学の図書館を利用する課題を作り、興味深い都市や建築の新聞記事を配布して読ませて、できるだけ読書機会を増やすように努めている。
＜専門科目・設計分野＞
建築計画論・住宅設計製図Ⅱ・インテリアデザイン基礎（2 年）、人間工学（3 年）である。講義で習ったことを設計製図のテーマに反映させて、講義と設計を関係づけて、学修効率をあげる工夫をしている。しかし学生の中にはデッサン力が不足する者もおり、製図力を向上させることが課題である。なお 2020 年度はコロナ禍のために、設計製図の授業が遠隔配信授業になった。夏休み期間中に前期の住宅設計製図Ⅱの補講を行い、後期も遠隔配信授業になる恐れがあるので、インテリアデザイン基礎の授業は、夏休みに先取り授業を行った。遠隔配信授業では、自宅や下宿の製図環境に差があり、学生同士の教え合いができないために、意欲が弱まり作品を提出できなかった学生が増えた。
　後期のインテリアデザイン基礎では、地域公共図書館のインテリア設計を課した。内部空間だけでなく建物全体も設計する課題にして、総合的な設計課題になるように考えた。本学の図書館を生きた教材として活用して、インテリアのスケッチなどをさせた。次に和室のインテリアの課題もある。和室は日本の室内意匠の基本であるが、和室が自宅にない学生が増え、教え方がむずかった。

研究領域

１．専門研究領域：　建築計画、都市計画

２．研究課題及び概要

研究課題：フランスの文化の家とル・コルビュジエ

研究概要：1965 年に死去した建築家ル・コルビュジエは，1960 年代インド・チャンディガールの州都の建設に没頭したが，フランス中西部のフィルミニ市における都市計画と建築設計も忘れてはならない。ル・コルビュジエの建物を世界遺産に登録する運動が始まると，ル・コルビュジエの再研究が次々に出版され、その中にフィルミニ市に関する出版もある。2020 年度は，それらの翻訳作業を続けたが、学術論文をまとめるに至らなかった。

３.令和 2 年度分 研究業績一覧

なし

４.知的財産権の出願・取得状況

なし

５.令和 2 年度分 科学研究費補助金・各種助成金の申請・交付状況

なし

６.自己評価

コロナ禍のために、建築学会活動を行わなかった。ただし、日本建築学会地域施設計画シンポジウムの論文審査を依頼され、学術論文 2 編を審査した。

大学内運営

１）人間生活学部長

２）大学院人間生活学研究科長

３）大学院人間生活学研究科人間生活学専攻主任

社会貢献

１．学会等への貢献：

１）日本建築学会会員（学会論文の査読に協力した。）

２）国画会絵画部会員（国立新美術館における展覧会はコロナ禍のために中止。）

２．文化活動

１）森田孝夫展、9 月 15 日（火）～9 月 27 日（日）、ギャラリー恵風、京都市。

個人情報

1　氏名：森岡 英之
2　職位：教授

教育領域

1　教育の担当専門領域：住宅施工、住宅構造Ⅰ、住宅構造Ⅱ、図学、住宅材料学Ⅰ、住宅材料学Ⅱ、住居安全論、住宅管理、専門ゼミナール
2　学部教授担当科目

前期：		後期：	
文理学	・・・・・1年生	住宅構造学Ⅰ	・・1年生
図学	・・・・・1年生	住居安全論	・・・3年生
住宅構造学Ⅱ	・・2年生	住宅材料学Ⅰ	・・3年生
住宅施工	・・・・3年生	専門ゼミナール	・3年生
住宅材料学Ⅱ	・・4年生	住宅管理	・・・・4年生

3　直接に研究指導した学生
・コンペテーションに作品制作者２名の指導。
・3年生のうち、建設会社を希望する８人に対し、徳島中央警察署の工事現場及び市内にある住宅新築工事現場、更には藍住町の幼稚園者の新築工事現場へ研修を行った。
4　自己評価
・「施工」は、特に建築専門用語を理解させることと、工（構）法やモノの組合せ、また仕組みを学ぶために、映像や見本（サンプル）による指導に時間を投じた。そのほか例年通り、要点に絞った内容のミニテストに力を注ぎより具体的な学習により理解度を高めた。
　また、3年生全員を対象に「徳島中央警察署建設工事」現場に見学に出向き、まもなく卒業して社会に出ることで、建設産業への魅力や関心をより深める授業の一環として実施した。
　また、２級建築士程度及び２級建築施工管理技士程度の演習問題を実施した。
・「図学」は、三次元のモノを二次元に表現する作図法に要点をしぼり、実践的な課題を実施することにより理解度を高めた。
・「材料学Ⅰ」は、建物を建てるための仮設、土工、躯体から仕上げに至るまでのすべてに用いる主要な材料の映像や見本（サンプル）など個々の用い方、また重要な点を要点的に指導した。なお、実験は、狭い実験室での密集（コロナ禍）が避けられないために、事前に技師6名を実験室に招き、約一日かけて動画（音声により説明）の作成に切り替えた。従って、学生への目前での学習ができなかったので、Google classroomを利用し配信した。内容は、骨材のふるい試験から圧縮強度試験までを実施した。
・「材料学Ⅱ」は、材料の持つ力学的性質を理解させるための簡単なコンクリートのひずみ実験を実施する予定であったが、実験室での密集（コロナ禍）が避けられないために、実験の内容を記した資料の配布に変更した。また、座学（一部は遠隔授業）は、材料力学となる内力（内部に働く応力）と、外力（物体の外に働く力、つまり建築構造物の自重、荷重、土圧、水圧、地震力）などの違いを、図解を用い理解し判断できるように指導した。
　また、２級建築士程度及び２級建築施工管理技士程度の演習問題を実施した。
・「構造学Ⅰ・Ⅱ」は、構造部材（骨組）の構成や関連付け（納まり）の理解、各種構造の性能が理解できるような映像、そのほかサンプルなどを用いて理解度を高めた。また、要点を絞った内容のミニテストや現場作業の動画鑑賞により、より理解度を高めた。
　更には、２級建築士程度及び２級建築施工管理技士程度の演習問題を実施した。
・「安全論」は、特に「建物の火災について」を要点に絞って指導をした。

・「住宅管理」は、長寿化が進み、且つ高度な文明が発達した現代、住環境も急激に変化して、それに伴う住宅管理も専門的になってきて、一個人では解決できない状況になってきた昨今である。従って授業は一個人で処理・調整などに手が届くメンテナンスや、集合住宅の管理、居住地の管理に重点をおいた内容として理解を求めるようにした。

研究領域

１　専門研究領域：特になし
２　研究課題及び概要：特になし

大学内運営

１　活動報告
　・学科長
　・チューター

社会貢献

１　地域社会への貢献
　・コロナ禍により活動が出来なかった。
２．徳島県建築士会主催の「建築おもしろ」発表会
　・コロナ禍により活動が出来なかった。
３．11 月 28 日徳島県藍住町で建設中の仮称「藍住文化ホール等複合施設」へ学生（３年生）引率した。
４．3 年生全員を対象とした、学科独自での「就職セミナー」の開催を 5 回にわたり実施した。

個人情報

１．氏名：山田　實

２．職位：教授

教育領域

１．教育の担当専門領域：　建築環境学、建築設備

２．学部授業担当科目

前期：家庭電気・機械　１年生、食物栄養１年生、人間生活２～４年生、メディア４年生

福祉住環境論　２年生

住生活環境学Ⅱ　３年生

住宅設備Ⅰ　１年生

環境保全論　４年生

文理学　１年生

後期：住居環境学　３年生

住生活環境学Ⅰ　２年生

住宅設備Ⅱ　３年生

専門ゼミナール　３年生

住居衛生学　食物栄養２年生、

３．直接に研究指導した学部学生：

卒業論文（０）名

４．自己評価：

・前期及び後期の一部で遠隔授業となったので、質問を挟んで全員が興味を持てるよう授業を進めたが、家庭電気・機械など受講生の多い科目では全員の質問回答に対応しなくてはならないので苦労した。

・「福祉住環境論」では、今後増加すると考えられる老健施設等の計画を行う時の基本的な事項について、現時点での法規制・実施例を教育した。

・「住生活環境学Ⅰ」と「住生活環境学Ⅱ」では、住居環境の基本的な項目である温熱・空気・光・音・水等について２年生の「住生活環境学Ⅰ」では全般概論を講義し、３年生の「住生活環境学Ⅱ」演習問題を主体に学生が自から考えて学べるような授業とした。

・「住居環境学」では実施例等を紹介し、人間の生理と関連付けた講義を行うことにより学生の理解度をより深めるようにした。

・「住居衛生学」では受講生が少人数であったので対話形式で学生が建築環境の基本的な事項を理解するように講義した。また、建物冷暖房負荷計算、騒音計算等を随時演習として組み入れて学生の理解度を高めるようにした。

・「住宅設備Ⅰ、Ⅱ」では、実務経験での不具合事例を交えて講義することにより、より興味を深めるようにした。特に建築計画をするうえで建築と設備とのかかわりを重点的に講義した。「住宅設備Ⅱ」では冒頭に学生に空調に関しての不満を発表させ後の授業で具体的な解決策を考えさせ講義した。

・「環境保全論」ではアクティブラーニングを導入し、学生が環境に関して問題と考えていることを発表させ、各々の課題の具体的な解決策を考えさせた。

研究領域

１．専門研究領域：　建築環境学、建築設備

２．研究課題及び概要

研究課題：　建物における最適エネルギーシステムの研究

研究概要：

本年度は専門ゼミのテーマをエネルギーシステムとしたので、学生の研究結果も参考にした。

地球温暖化、省エネルギー、環境問題等、建物のエネルギーシステムをどう組み立てるかは大きな課題である。そこに原子力発電所の問題が起こり、再生可能エネルギーの活用をはじめ、日本のエネルギーを如何にするかは国家的な課題である。実務で経験した、蓄熱システム、コージェネレーションシステム等を有効に組み合わせて最適エネルギーシステムを構築する。

３．　令和元年度分研究業績としての論文等は無。

４．　知的財産権の出願は無。

５．　令和元年度年度分科学研究費補助金等は無。

６．　自己評価：研究についてはあまり成果を上げられなかった。

大学内運営

１. 活動報告

①オープンキャンパスでの学科説明、模擬授業

②人間生活学部入学試験委員会委員

③人間生活学部教育研究委員会委員

⑤保護者会保護者面談（徳島）

⑥建築デザイン学科３年生担任（４４名）

社会貢献

２. 学会等への貢献：

１）空気調和衛生工学会会員

２）建築設備技術者協会会員

個人情報
１　氏名：川村　恭平
２　職位：教授

教育領域
１　教育の担当専門領域：
　　工学：　建築学　建築環境・設備　情報工学
　　家政学：　住居学
２　学部授業担当科目
　前期：ＣＡＤ演習Ｉ、住生活論（製図を含む)、住居意匠学
　後期：住生活論（製図を含む)、日本建築史、コンピュータ演習Ｉ、ＣＡＤ演習Ⅲ、
　　専門ゼミナール
３　直接に研究指導した学部学生 10 名
４　自己評価
　授業については紙媒体も含めＩＴ機器の活用などに努めた、しかしながら授業者としてＩＴの活用（特に PowerPoint）の使用した授業の工夫・改善の必要があると痛感した。
授業者は多くのデータ（通常の授業の 3 倍程度の情報量）に対して授業を受ける学生側の準備ができていないことがある、結果として流れた授業になった。

研究領域
１　専門研究領域：
　工学　　建築学　建築環境・設備
　家政学　　住居学
２　研究課題及び概要：
　日本の住居形式と熱環境（伝統的な住まい方）についての研究
　３Ｄプリンタの活用による建築模型の製作方法の研究
　ドローン(無人航空機)による建築分野での活用方法の研究
３　令和２年度分 研究業績一覧
４　令和２年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
５　自己評価
　研究については、本学 25 号館の東側全面ガラス窓の熱環境、特に日射について実測調査を行い熱環境の分析と対応策の検討をおこなった。
　また、本学で実施している避難訓練を学生の側からみた自主避難マニュアルを作成し、卒業論文の資料とした。
　２５年度徳島県立光慶図書館の３D 復元 徳島県立文書館)および村崎女子職業校の３D 復元と卒業論文の指導
　２６年度は千秋閣３D 復元と卒業論文の指導
　２７年度はフランクロイドライトの落水荘の再現に関する卒業論文の指導
　２８年度は３Ｄプリンタの建築プレゼンテーションの活用及戦前の徳島市の著名な建築物の再現に関する卒業論文の指導
　２９年度徳島県ビジネスチャレンジメッセに３D プリンタの建築分野での活用というテーマで出展、また吉野川市美郷において旧診療所や小学校のリノベーションに参画、とくしま科学技術アカデミーステップアップ事業として徳島文理大学建築デザイン学科フェアを実施
　３０年度は３Ｄプリンタによる建築模型の製作及び間取り作成用のパーツを試作し、住宅会社における試用を開始している。また、高等学校家庭科の住居分野における間取り作成ツールを製作し、実際の高等学校の授業で使用している。
　また、卒業研究で展示用の大学全景模型（１/３００）の２号館を作成した。
３１年度は特に３D プリンタの建築分野での活用ということで。建築会社、住宅会社、設計事務所と共同開発で建築模型の製作を行った。
令和２年度、３Ｄプリンタの活用において、県内設計事務所、住宅産業等とのコラボによる住宅模型の製作のノウハウが確立できた。
　また、令和２年トクシマビジネスチャレンジメッセに文理大学としてオンライン

による展示・出品を行った。

大学内運営

１　活動報告
　　人間生活学部教員養成推進委員
　　人間生活学部学生指導委員

社会貢献

１　学会等への貢献:
　　日本環境学会（大阪市立大学）
２　地域社会への貢献：
　　１９年度　徳島県のＬＯＨＡＳな徳島入門講座でｅｃｏな生活、ｅｃｏな住まいのテーマで講演
　　２０年度　徳島県緑化マイスター講習会で講演
　　２１年度　徳島県エコオフィス事業との連携による壁面緑化の効果に関する研究
　　２２年度　徳島県エコオフィス事業との連携による壁面緑化の効果に関する研究
　　２３年度　Yes２１においてボランティアによる住宅間取り相談
　　２４年度　とくしまエコみらいハウスの評価助言指導
　　２４年度　徳島県立光慶図書館の３D 復元 作業(徳島県立文書館)
　　２５年度　徳島県立光慶図書館の３D 復元 徳島県立文書館および村崎女子職業校の３D 復元の完了
　　２６年度　千秋閣の３D 復元の完了および徳島県との地域連携として髙開の石積みの擁壁の測量を行った。
　　２７年度　徳島県との地域連携の 2 年目として髙開の石積みの擁壁の測量を行った。この際ドローンの積極的な活用を行った。
　　２８年度　３Ｄプリンタの建築プレゼンテーションの活用及戦前の徳島市の著名な建築物の再現に関する指導、さらにドローンの建築現場における活用を行った。
　　２９年度　徳島県ビジネスチャレンジメッセに３D プリンタの建築分野での活用というテーマで出展、また吉野川市美郷において旧診療所や小学校のリノベーションに参画、とくしま科学技術アカデミーステップアップ事業として徳島文理大学建築デザイン学科フェアを実施
　　３０年度　徳島県ビジネスチャレンジメッセに３D プリンタの建築分野での活用というテーマで出展、また吉野川市美郷において廃校となった種野小学校のリノベーションに参画、とくしま科学技術アカデミーステップアップ事業として徳島文理大学建築デザイン学科フェアを実施
　　３１年度　特に３D プリンタの建築分野での活用ということで。建築会社、住宅会社、設計事務所と共同開発で建築模型の製作を行った。
　　令和２年度　特に３D プリンタの建築分野での活用ということで。建築会社、住宅会社、設計事務所と共同開発で建築模型の製作し、ノウハウを確立した。
　　令和２年度　徳島県ビジネスチャレンジメッセに文理大学としてオンラインによる展示・出品を行った。

個人情報

１．　氏名：池田　文夫
２．　職位：教授

教育領域

１．　教育の担当専門領域：　建築関連法律、設計（意匠、構造）全般、コンピュータ（ＣＡＤ）

２．　学部授業担当科目：
前期：住宅設計製図Ⅲ、建築法規、西洋建築史、ＣＡＤⅡ
後期：住宅設計製図Ⅰ、コンピュータ演習Ⅱ、専門ゼミ

３．　直接に研究指導した学部学生：
卒業論文（1）名、その他（　　）名
専攻科（　）名、大学院修士（　）名

４．　自己評価
6 年目を迎えて授業で使用する資料は、かなり学生のレベルを考えながら自分なりに、充実できたと考える。学生によってかなり学習能力にバラつきがあり、全体的な学習バランスをとるのが難しいと感じている。実務的な、法的、設計的な知識を身に着けさせる授業を行うのが理想であると考えるが、全体的バランスの中で授業方法のあり方を模索してる。

研究領域

１．　専門研究領域：建築関連法律全般
２．　研究課題及び概要
保有耐力法等による最新耐震設計技術の動向の研究

令和２年度分 研究業績一覧

１．論文
特に無し

２．学会発表
特に無し

３．知的財産権の出願・取得状況
特に無し

４．令和２年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
特に無し

自己評価

建築学会などの関連する講習会に 2 回出席した。最新の情報を身につけるためにも今後はもって積極的に参加してあたらしい知識、技術を身につけるよう努力したい。

大学内運営

１）活動報告
① 国家試験取得に向けての取り組み
1 学年希望者を対象として、宅地建物取引士セミナーを昨年 11 月から週 2 回のペースで行い、在学中に試験合格を目指す取り組みを行っている。

令和 2 年 1 月末現在　参加者数約 5 名
試験日　平成 2020 年 10 月中旬

② 広報担当として、広報活動、学科ホームページの更新等の広報活動を行った。

社会貢献

特に無し

個人情報

１．氏名：笠井　敬正
２．職位：准教授

教育領域

１．　教育担当専門領域：構造力学、建築計画　インテリアデザイン
２．　学部授業担当科目
　前期：構造力学Ⅱ、測量学、インテリア計画、
　後期：構造力学Ⅰ、住宅設計論、インテリアデザイン論、インテリアデザイン応用、
　　住宅設計製図Ⅳ、専門ゼミナール
３．　直接に研究指導した学部学生：　卒業論文（1）名
４．　自己評価

「構造力学Ⅰ」については毎時間前回の復習をしながら進めていった。本年度は特に数学・理科を不得意とする学生が多く厳しい面もあったが、基本に重点を置き、課題を増やしフィードバックすることによって少しでも学生の理解度が高まるよう心掛けた。

「測量学」は、座学・外業・内業という一連の流れを通して知識としてだけでなく自分の経験として身につく授業であるが、本年度はコロナ禍のため、いつものような十分な実習が行えなかったのが残念である。

「インテリアデザイン応用」では、本年度前期に自分が設計した木造住宅のパース作成およびインテリアを含めた模型製作そして自分が興味を持った有名なデザイナーの椅子２脚の模型製作、以上３テーマを課題とした。特に木造住宅や椅子の模型製作では、学生たちは興味を持っていろいろ考えながら楽しく取り組んでくれた。

「住宅設計製図Ⅳ」では最後の設計製図として将来受験するであろう建築士試験を見越しての課題を設定し、図面そしてパースまたはイメージ図の提出を課した。学生たちにはその建築物についてしっかり調べさせることから始めた。例年と同じく、構造、法規、設備上の問題等わからないところもたくさんあり当初なかなか考えがまとまらなかったようだが、最後にはきちんと完成させることができた。

その他の実習等を伴わない授業、特にインテリア系に関しては、映像で理解度を深め、レポート提出で復習の機会を設けた。

学生にとって授業第一と考え、いろいろな方法を模索しながら進めている。しかし本年度はコロナ禍ということで遠隔配信授業が増え、対面授業と同じようにはいかなかった。今後の状況はわからないが、遠隔配信授業はいつでもできる準備だけはしておかなければいけないと思う。遠隔配信授業での学生の理解度をいかに対面授業の理解度に近づけていくか、今年度の反省の上に立ち、来年度以降その方法等しっかり考えていく必要があると感じた。

研究領域

１．専門研究領域：建築計画
２．研究課題及び概要
研究課題：地域の状況から見える古民家の特徴についての調査に関する研究
研究概要：家の様相は過去から現在そして未来へと大きく変化していく。その変化の様子はかつてその地域に根ざした人々の生活の上にたって起こりうるものと考えられる。私達のまわりの地域の歴史や特徴、そしてそこに住む人々の生活の状況並びにそこに現存するまたは過去に存在した古民家の特徴を調査・研究していく。
３．令和２年度分 研究業績一覧（なし）
４．知的財産権の出願・取得状況：　（なし）
５．令和２年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：　（なし）
６．自己評価

研究についてはあまり成果を上げられなかった。

大学内運営

１　活動報告

・建築デザイン学科２年担任

・宿泊セミナー運営委員会委員

社会貢献

１　学会等への貢献（なし）

２　地域社会への貢献（なし）

第６節　　心理学科

個人情報
１．氏名：青木　宏
２．職位：教授

教育領域
１．教育の担当専門領域：心理学（臨床心理学、犯罪心理学、学習心理学等）
２．学部授業担当科目
　　前期：心理学概論、臨床心理学概論，学習・言語心理学，異常心理学
　　後期：生理心理学、教育相談、ジェンダー論、ライフサイクル論、専門ゼミナール
３．直接に研究指導した学生：卒業論文３名，修士論文１名
４．自己評価：学生の興味を引き，知的好奇心を刺激するために，映像や動画をふんだんに盛り込んだ自作のプレゼンテーションを使用した。また，テーマによっては，グループディスカッションや模擬面接，PGR 測定器を用いた実習なども実施し，主体的な取り組みを促した。ゲストスピーカーを招いての講義も実施した。途中，幾度も遠隔授業となったが，グーグルクラスルームのストリームを活用し，双方向性を確保することによって，授業の質を担保した。

研究領域
１．専門研究領域：臨床心理学、犯罪心理学
２．研究課題及び概要
「若者のストーカー被害実態調査」
　徳島県警察本部との共同研究である。３年計画の３年目にあたり，２度目の大規模調査を実施し，その結果を県警本部と共同で発表した。また，研究全体の報告書も作成中である。。

令和２年度分 研究業績一覧
１．論文
　若者のストーカー被害実態調査．徳島文理大学研究紀要，第９９号
２．学会発表
　該当なし
３．知的財産権の出願・取得状況
　該当なし
４．令和２年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
　該当なし

自己評価
　一部の研究スケジュールがコロナの影響を受けたが,おおむね予定した研究を進めることができた。

大学内運営
1) 心理学科長
2) 教務委員会に所属し，科目ナンバリングの見直し，GPA の低い学生に対する個別指導の在り方の検討などを行った。
3) 心理学科各学年のチューターとして学生の個別指導に当たった他，チューターでない学生からの相談事にも応じた。
4) オープンキャンパスにおいて心理学科の学科説明を実施した。
5) 高校生の大学見学の際にミニ講座を実施した。

社会貢献

1) 教員免許状更新講習で発達障害の少年に対する処遇についての講義を受け持った。(2020.8)
2) 日本犯罪心理学会全国区理事(2018.12～)

個人情報

１.氏名： 岡林　春雄
２.職位： 教授

教育領域

１.教育の担当専門領域： 認知心理学　学校心理学　認知―感情インタラクション
２.学部授業担当科目
　前期： 児童心理学、福祉心理学、心理統計学演習
　後期： 専門ゼミナール、知覚・認知心理学、学校心理学、卒業研究
　大学院
　前期： 特別研究（院 1）、特別研究（院 2）、臨床心理実習Ⅰ、学校臨床心理学、心理統計法特論、研究法特論、臨床心理学研究法特論、臨床心理実習Ⅱ
　後期： 臨床心理実習Ⅱ、特別研究（院１）、心の健康教育に関する理論と実践、心理学特別演習、特別研究（院２）
３.直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（6）名、大学院生：修士（1）名
４.自己評価：
大学院の授業では、プレゼンテーションからディスカッションという院生主体の考える授業を目指しており、その成果は見えだしている。学部の授業でも学校心理学の授業ではスピーチならびにアクティブラーニングを導入した。これまで、受け身的で、座っているだけという授業に慣れていた学生にとっては脅威であったようである。しかし、やる気のある学生にとっては、アクティブな関りをもとめる授業は好評であった。大学に入ったばかりの１年生に対する知覚･認知心理学の授業では、プレゼンテーションを導入し、“アサイメント―プレゼンテーション―ディスカッション”のシークエンスから徹底して、論理展開に気を配った文章作成、ならびに、ポイントを他者に伝えることができるアサーションスキルを身につけることができた。今後とも、学生自ら思考する学生主体（Student Centered）の教育への意識改革を行っていきたい。

研究領域

１．専門研究領域：認知心理学　認知科学　ダイナミカルシステム
２．研究課題及び概要
　・会話における意思疎通性を生体信号のリズムから解析
　・リアルタイムでの認知―感情インタラクションからマクロタイムのパーソナリティ形成への自己組織化作用
　・「わかる」という心理作用は、般化によるものなのかカオス現象なのか

令和 2 年度分 研究業績一覧

1. 論文
　なし
2. 学会発表
　なし
3. 知的財産権の出願・取得状況
　なし
4. 令和 2 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
　なし

自己評価：
　大学ならびに学会を通して、若手の研究者を育成している。

大学内運営

１．活動報告

①大学院心理学専攻主任

②大学院修士論文主査１件，副査１件

③教育研究委員会委員

④全学研究者倫理教育委員会委員

社会貢献

①提供福祉専門学校　こころのしくみ　非常勤講師

個人情報

１．　氏名：　貴志　知恵子

２．　職位：　准教授

教育領域

１．　教育の担当専門領域：教科教育学・保健

２．　学部授業担当科目

前期：　学部：事前・事後指導、養護概説、救急処置及び看護法Ⅰ、養護学特講、卒業研究、学校ボランティア

後期：　学部：救急処置及び看護法Ⅱ、養護実践演習、教職実践演習、専門ゼミナール、健康相談活動、学校保健、卒業研究、学校ボランティア

３．　直接に研究指導した学部学生：　６名、その他５名

４．　自己評価

卒業論文については将来、教職志望学生であり教育現場での研究活動に繋がる課題を選んだ学生が多かった。また、教育実習やボランティア活動等での子ども達との関わりや社会体験から幅広い学修を含めた内容となったが、全員が書き上げたことで、今後の教職生活に生かして欲しいと思う。

研究領域

１．専門研究領域：性教育、健康相談、反転授業

２．研究課題及び概要

1)　性教育と人権の問題について、将来、養護教諭を目指す学生への指導において、学校教育の中で、性の多様性を学ぶことで自己を見つめることや他者理解を進め、心情に配慮したきめ細かい教育がおこなえるような方策について検討している。

2)　養護教諭のおこなう健康相談活動において、これまでのカウンセリング的対応に加えて、思考パターン、言語パターン、反応パターン等に気づきやり方や行動を変えるコーチングのアプローチを取り入れることで生きる力の具現化をはかる方策を志向する。

3)　反転授業を採用し、学修の一部を予習として行い、授業ではアクティブラーニングを重視した展開にしている。

令和２年度分 研究業績一覧

１．　論文

・「反転授業を活用した授業実践とその効果－大学生への「学校保健」の授業を通して－徳島文理大学　研究紀要　第 100 号　2020.9

・「性別違和のある子どもの支援と養護教諭　出会いと対話による協働・コミュニティー

２．学会発表

・子どもの主体性・探究心を育てる養護実践のあり方を問う－事例“歯の自分史”を省察して

日本養護教諭教育学会第 28 回学術集会　福岡 2020.10.11

２．　知的財産権の出願・取得状況

該当なし

４．令和 2 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

自己評価

研究では、性教育関連や健康相談、さらに反転授業について検討した。今後は、科学研究費補助獲得に向けて、研究をすすめたい。

大学内運営

1)　教職課程委員会委員

2)　教員養成推進委員会委員

3)　教員養成対策委員会委員

4)　人権教育推進委員会委員

5)　全学共通教育センター学習支援アドバイザー

6)　教員免許更新講習　講師

7)　学部：1･2･3･4 年生チューター（36 名）

社会貢献

１　学会等への貢献

1)　日本養護教諭養成大学協議会代表評議員

2)　日本養護実践学会理事

3)　日本学校保健学会代議員

２　地域社会への貢献

1)　救急救命指導員として救急救命講習活動に参加

2)　徳島県養護教諭初任者研修として学校での救急救命講習を実施

3)　徳島県養護教諭 2 年次研修として学校での授業力向上研修を実施

4)　地域連携センターとの共催で第 6 回徳島県養護教諭研修会「新学習指導要領がめざす保　健教育の効果的な進め方」を実施

5)　小松島高校（出前授業）

個人情報

1　氏名：中津　達雄

2　職位：教授

教育領域

1．　教育の担当専門領域：臨床心理学　人格心理学

2．　授業担当科目

前期：社会・集団・家族心理学（家族心理学）（学部３）、人格心理学特論(院１)、臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅰ)(院２)、特別研究（院1、院2）

後期：人格・感情心理学(学部１)，専門ゼミナール(学部)、投映法特論(院 1)、心理実践実習Ⅱ(院1、院２)、臨床心理基礎実習Ⅱ(院２)、特別研究（院1、院２）

3．　直接に研究指導した学部学生：　卒業論文（４）名、その他（　　）名、専攻科（　　）名、大学院修士（１）名

4．　自己評価

各教目の準備時間には１コマにつき平均３時間程度をかけ，すべての科目においてレジメを作成し，理解度を高めることに配慮した。また授業については終了時に小レポートを実施し，学生の理解度を確認した。しかし、本年度も臨床心理士、公認心理師養成のための実習調整に追われ、学生指導に十分な時間がとれなかった。そのため、学生からの評価はやや低く、反省するところである。

ただ、本年度は学部において平成 30 年度入学生が３年生となり、公認心理師受験資格取得カリキュラムに心理演習が加わるなど本格的実施となる。また大学院生も同カリキュラム２年目入って、受験資格取得のための実習も本格化し、翌年度は最初の修了生が同資格受験をする予定である。今後も教科、実習演習科目指導の一層の充実に努めたい。

研究領域

1．　専門研究領域：社会科学・心理学・臨床心理学

2．　研究課題及び概要

・心の問題理解，特に社会構築主義的な立場に立ってのナラティブ・アプローチ及びセラピー

・描画法，特に樹木画テストのアセスメントとしての量的研究と、描画の持つ治療的側面検討のための質的研究

令和２年度分 研究業績一覧

1.　論文

該当なし

2.　学会発表

該当なし

3.　知的財産権の出願・取得状況

該当なし

4.　令和２年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

自己評価

学科、研究科の実習を中心とした運営業務に追われ、殆ど研究活動は行えていない。

大学内運営

活動報告（委員会委員，担任等）

1）自己点検・評価委員会（全学）

2）チーム医療促進委員会（学部）

3）教員養成対策委員(全学)

4）臨床心理相談室相談員（委嘱）

5）全学共通教育センター支援アドバイザー（委嘱）

社会貢献

1　学会等への貢献

1）県臨床心理士会選挙管理委員（2014.4.1～）

2　地域社会への貢献

1）徳島県保健福祉部　社会福祉審議会委員（2011.4.1～）

2）徳島県警察本部　少年サポート・アドバイザー　（2011.4.1～）

3）令和２年度教員免許状更新研修講師（2020.8.4、8.25）

4）徳島県青少年こころの電話相談業務スーパーバイザー(2021.1.22～)

5）徳島県発達障がい者総合支援センター家族サポート教室講師(2021.1.27)

個人情報

１　氏名：小板　清文

２　職位：教授

教育領域

１　教育の担当専門領域：犯罪心理学

２　学部授業担当科目

前期：心理検査法Ⅱ，心理学実験

後期：心理学特講，専門ゼミナール，コミュニティ心理学，心理学統計法，心理学Ａ，卒論指導

大学院

前期：心理統計法特論，犯罪心理学特論

後期：修論指導

３　直接に研究指導した学生：卒業論文３名，修士論文１名

４　自己評価：

・　犯罪心理学特論では，矯正施設での勤務経験や法務総合研究所での研究経験を活かして，犯罪者や非行少年の実像を理解やすいようにした。

・　心理学特講では，公務員試験，教員採用試験，企業の一般常識試験に向けて実戦的な授業となるように工夫した。

・　心理学統計法では，エクセルの統計解析への理解・習熟が進むように，数多くの例題を実際に解きながら，丁寧な説明を繰り返した。

・　心理学Ａでは，心理学を専攻科目としない学生が心理学の基本的な知識を習得できるよう，平易で印象に残りやすい授業になるように工夫した。

研究領域

１　専門研究領域：犯罪心理学

２　研究課題及び概要

卒業論文を指導：卒業論文作成希望者が３名あり，令和２年の年末まで資料・文献の収集について指導を続けていたが，いずれも就活等との兼ね合いから，卒論の作成を断念することとなった。

修士論文を指導：「大学生の「キャラ」を介した友人関係に関する研究―いじられキャラの危うさを中心に分析する―」の調査票の作成，調査の実施，データ分析，参考文献の検討等の指導を行った。

令和２年度分研究業績一覧

①　　論文

犯罪性の低減に影響する心理要因の検討―10 代後半のデータをもとに―，2021，第 101 号

②　学会発表

該当なし

③　　知的財産権の出願・取得状況

該当なし

④　　令和２年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

自己評価

卒論の指導では，担当した学生の取り掛かりが非常に遅く，時間的な制約が大きかったが，何とか期限内までに提出することができた。

年齢犯罪曲線に関する研究に精力的に取り組み，徳島文理大学研究紀要に論文（査読あり）を投稿した。また，現在，査読論文１本が校正中である。

大学内運営

1)　学生指導委員会
2)　退学者防止対策検討員会
3)　全学入学試験委員会

社会貢献

１　地域社会への貢献
1)　徳島学院安全管理委員会委員
2)　令和２年度徳島県児童自立支援専門員選考試験の試験委員
3)　徳島大学総合科学部非常勤講師（犯罪心理学の特別講義）
4)　徳島県再犯防止連絡協議会委員
２　学会等への貢献
1)　日本犯罪心理学会編集委員

個人情報
１．氏名　福本浩行
２．職位　教授

教育情報
１．教育の担当専門領域：心理学（臨床，発達，教育，産業）
２．学部授業担当科目
　前期：心理療法演習Ⅱ，発達障害論，心理的アセスメントⅠ
　後期：専門ゼミナール，心理演習Ⅰ，心理検査法実習Ⅰ，心理検査法実習Ⅱ
大学院授業担当科目
　前期：臨床心理面接特論Ⅰ，心理実践実習Ⅱ，臨床心理査定演習Ⅰ
　後期：心理実践実習Ⅱ，臨床心理学特論Ⅱ，臨床心理実習Ⅱ，心理実践実習Ⅱ
３．直接に研究指導した学生：卒業論文１名，その他３名
４．自己評価：毎講時，自己制作のプレゼンテーション用スライド及び視聴覚教材を活用したほか，授業の重要事項に関する詳細な解説を盛り込んだ補助教材を配布し，受講生の理解を深めさせた。授業内容とは別に，折に触れ公認心理師資格試験に係る情報を提供したり，過去の試験問題を解説するなどし，資格試験に対する動機付けを高める工夫をした。

研究領域
１．専門研究領域：臨床心理学，犯罪心理学，神経心理学
２．研究課題及び概要
「犯罪者プロファイリング研究」
通り魔や迷宮化した事件の捜査に資するため，警察と共同し，犯行現場等から得られる数少ない犯人情報を多変量解析し，過去に蓄積したデータベースとの照合により犯人の特定化を行う方法について考究している。また，ここで得られた知見を活かし，SNS による人権侵犯事案加害者の心理的分析及び被害防止の広報等を行っている。

令和２年度分　研究業績一覧
１．　論文
該当なし
２．　学会発表
国連主催犯罪防止国際会議「京都コングレス」における”Unserious Session”発表
３．知的財産権の出願・取得状況
該当なし
４．令和２年度分　科学研究費補助金・各種助成金の申請・交付状況
該当なし
自己評価
法務省退官後，矯正施設被収容者のデータを収集することには制約が生じているものの，日本ゲシュタルト療法学会や日本心理臨床学会等各種学会に入会することにより学会誌の論文等に自ら啓発を受けるとともに，学会の新鮮な情報を専門ゼミの学生に還元している。

大学内運営
１）心理学科広報委員として，大学案内の作成やオープンキャンパスの実施等を行い，心理学科の広報を行った。また，オープンキャンパスでは，心理学科の学科説明や模擬授業を実施した。

２）心理学科各学年のチューターとして学生の個別指導に当たったほか，チューターでない学生からの相談にも応じた。
３）臨床心理相談室の担当官として，一般外来のクライエントに対するカウンセリングを行った。
４）高校生の大学見学の際にミニ講座を実施した。

社会貢献
１）板野郡中学校生徒指導主事研究会定例会に原則月１回アドバイザーとして参加し，事例について助言を行った。
２）さぬき薔薇会に所属し，市が管理する公共公園内の薔薇園を，年間を通してボランティアで整備した。
３）新聞社から犯罪の加害・被害等の心理的解説に係る取材を受け，犯罪心理学及び犯罪者プロファイリング研究の知見からコメントを行った。

個人情報

１．氏名：土中　幸宏
２．職位：教授

教育領域

１．教育の担当専門領域：臨床心理学，犯罪心理学
２．学部授業担当科目
　　前期：司法犯罪心理学，心理学的支援法，心理療法演習Ⅱ，文理学
　　後期：人間発達学，心理演習Ⅰ，心理検査法実習Ⅰ，心理検査法実習Ⅱ，文理学，臨床心理学，専門ゼミナール
３．直接に研究指導した学生：該当なし
４．自己評価：オンライン・対面と授業形態が大きく転換する中，工夫を凝らしたプレゼンテーションを使用した講義を実践した。また，オリジナルフリップボードを用いて学生の授業への参加意欲を喚起し，積極的な意見提出を促すよう工夫した。

研究領域

１．専門研究領域：臨床心理学，犯罪心理学
２．研究課題及び概要
　芸術療法・認知行動療法の実践・研究，実務と連動した心理査定のあり方，進化心理学の進展を踏まえた人間発達学の展望等について

令和２年度分 研究業績一覧

１．論文
　該当なし
２．学会発表
　該当なし
３．知的財産権の出願・取得状況
　該当なし
４．令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
　該当なし

自己評価

　講義の準備等に時間を取られ，研究活動は滞っている。

大学内運営

1）心理学科１年担任
2）心理学科１～４年計 35 名のチューター
3）心理学科入学試験面接官
4）オープンキャンパスでの模擬授業
5）専攻科入学試験問題作成

社会貢献

1）岡山就実大学非常勤講師夏期集中講義（司法・犯罪心理学）担当
2）徳島県臨床心理士会研修会での講義（2021.2)）

個人情報

１．　氏名：　原田　耕太郎

２．　職位：准教授

教育領域

１．　教育の担当専門領域：社会心理学、教育心理学

２．　学部授業担当科目

前期：青年心理学、教育心理学、心理学実験、心理学Ａ

〈以上、徳島キャンパス＞

医療コミュニケーション学、図書館総合演習

＜以上、香川キャンパス＞

後期：専門ゼミナール、産業・組織心理学、心理学研究法、

社会・集団・家族心理学（社会心理学）、生徒指導（進路指導を含む）

＜以上、徳島キャンパス＞

人間関係論、教育心理学、心理学Ａ、教職実践演習

＜以上、香川キャンパス＞

大学院

前期：心理実践実習Ⅰ、心理実践実習Ⅱ、臨床心理実習Ⅰ

後期：心理実践実習Ⅰ、心理実践実習Ⅱ、臨床心理実習Ⅰ

産業・労働分野に関する理論と支援の展開

３．　直接に研究指導した学生：卒業論文１名

４．　自己評価：卒業論文の指導については、受講生が本学大学院への進学を希望していたので、修士論文作成の予行練習という位置づけで指導を行った。合わせて、大学院の受験指導も行った。なお、当該学生は、Ⅰ期入試で合格を獲得し、来年度大学院に入学予定である。担当講義においては、指定のテキストをベースにしたオリジナルの資料を用いている。内容としては、基本的な内容を分かりやすく説明するとともに、適宜時事問題や、視聴覚資料、一部高度な内容を盛り込むなど、単調にならないように配慮している。この試みは、おおむね成功していると判断している。

研究領域

１．専門研究領域：社会心理学

２．研究課題及び概要

社会的公正知覚に関する研究。社会的公正とは社会活動を維持させ機能させる上で重要な規範の一つであり、社会的動機の一つだということもできる。しかし、「公正か否か」に関する客観的あるいは絶対的基準はなく、あくまでも知覚者の主観によって決定される。それゆえに、公正をめぐる対立やバイアスの介在といった、心理学上興味深い事象が存在する。つまり、社会的公正知覚の研究は、心理学の観点からの社会活動の理解につながる。

令和２年度分 研究業績一覧

１．論文

該当なし

２．学会発表

該当なし

３．知的財産権の出願・取得状況

該当なし

４．令和２年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

自己評価

年度末には新規研究の論文を投稿する見込みである。研究活動に関する課題は多いものの、何とか工夫して活発化させたいと考えている。

大学内運営

1)　ＦＤ委員会委員
2)　教職教養講座　講師
3)　公認心理師実習指導員
4)　臨床心理相談室相談員
5)　教員免許更新講習　講師
6)　修士論文主査 1 件
7)　学部 4 年生担任
8)　学部チューター担当（1 年～4 年計 36 名）
9)　オープンキャンパスミニ講義担当
10）大学院受験希望者への面談および進路説明

社会貢献

１　学会等への貢献

該当なし

２　地域社会への貢献

放送大学面接授業「心理学実験 1」非常勤講師

教員免許更新講習「必修領域 1 科目」「選択必修領域 2 科目」担当

個人情報

１．氏名：渡邉　悟

２．職位：教授

教育領域

１．教育の担当専門領域：臨床心理学、心理査定

２．授業担当科目

前期（学部）：心理学実験、老年心理学

前期（大学院）：臨床心理学特論、臨床心理基礎実習Ⅰ、心理実践実習Ⅰ

後期（学部）：パーソナリティ障害論、心理検査法実習Ⅰ、心理検査法実習Ⅱ、専門ゼミナール、卒業研究

後期（大学院）：臨床心理査定実習Ⅱ、臨床心理実習Ⅱ、心理実践実習Ⅱ、特別研究

３．直接に研究指導した学部学生：卒業論文 2 名、修士論文 1 名

４．自己評価：対面授業の際には、パワーポイントにより授業を行うとともに、それを印刷して補助教材として活用した。また、遠隔授業の際には、グーグルクラスルームのミートやチャットを活用し、それぞれの授業形態において、学生に授業内容の理解を促した。

研究領域

１．専門研究領域：臨床心理学、犯罪心理学、心理査定

２．研究課題及び概要

非行・犯罪臨床における心理査定のあり方

令和 2 年度分 研究業績一覧

1. 論文

1)渡邉　悟　「関係行政論　第 2 版　司法・犯罪分野に関係する法律・制度(3)　少年非行」(遠見書房)　p.193-207 (2020.4)

2)渡邉　悟　「司法・犯罪心理学　トピックス 1　反社会性パーソナリティ障害やサイコパスの心理アセスメント」(ミネルヴァ書房)　p.31-32（2020.11）

3)林　秋成、小澤久美子、馬淵聖二、村松朋子、中村紀子、野田昌道、佐々木貴弘、津川律子、浦田　洋、渡邉　悟　「ロールシャッハ 100 年記念大会マップ・プロジェクト中間報告－温故知新－」 包括システムによる日本ロールシャッハ学会誌　第 24 巻第 1 号　p.51-57（2020.10）

2. 学会発表

1)野田克哉、三角　健、後藤祐佳子、海原美香、渡邉　悟　「矯正施設に勤務する心理技官の個別方式の心理検査の実施状況調査」　日本犯罪心理学会第 58 回大会（2020.11）

3.学会等主催研修会出席

1)一般社団法人　日本臨床心理士会司法矯正領域委員会研修会（2020.11）　司会

2)一般社団法人　日本公認心理師協会司法・犯罪分野委員会研修会（2020.12）　講師

3)包括システムによる日本ロールシャッハ学会解釈講座（2020.10）　講師

4)包括システムによる日本ロールシャッハ学会認定資格研修会（2020.10）　講師

4.知的財産権の出願・資格取得状況

該当なし

5.令和 2 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

自己評価：査読論文はないものの、書籍の分担執筆，学会大会や研修会への参加等により、自己の専門性の向上を図った。

大学内運営

1)徳島文理大学臨床心理相談室長

2)心理学科就職支援委員

3)修士論文主査及び副査

4)大学院及び学部入学試験の面接官

5)心理学科 1 ～ 4 年生のチューター

6)オープンキャンパスでの学科説明

7)保護者会での保護者との面談

社会貢献

1)一般社団法人　日本公認心理師協会　司法・犯罪分野委員会委員長

2)一般社団法人　日本公認心理師協会　専門認定資格委員会委員長

3)一般社団法人　日本臨床心理士会　司法矯正領域委員会副委員長

4)包括システムによる日本ロールシャッハ学会副会長

5)日本犯罪心理学会編集委員

6)徳島県警察留置施設視察委員会委員

7)徳島県ライフサポーター指導員

8)徳島ロールシャッハ・テスト研究会代表

9)法務省矯正研修所法務技官（心理）基礎科研修での講義（2020.10）

10)法務省矯正研修所法務技官（心理）応用科研修での講義（2020.12）

11)法務省高松少年鑑別所事例検討会での講義（2020.11，2021.2）

12)徳島県警察学校専科研修での講義(2020.11)

編集後記

今号は，まさにコロナ禍における我々の教育研究活動を振り返るものになりました。教育研究活動においても変化が求められましたが，もちろんそのような中で，変わらないもの，変化してはいけないものがあることも忘れてはなりません。この自己点検・自己評価報告書もそのひとつだと思います。ただ，変わらず作成することは大切ですが，その内容については変化が必要だったかもしれません。今になって考えてみれば，自己点検評価の中にそのような項目を盛り込むべきであったとも思います。

大学人として，教育活動の面でも研究活動の面でも，変わっていこうとするその元年の記録は貴重であると考えています。コロナ禍が早く収束することを祈りつつ，令和２年度のこの報告書がコロナ後の教育研究活動へ活かされていくことを願っております。

徳島文理大学人間生活学部 令和２年度　自己点検・自己評価委員会	
人間生活学科	池添　純子
食物栄養学科	小川　直子
児童学科	岡　直樹　（委員長）
メディアデザイン学科	加治　芳雄
建築デザイン学科	池田　文夫
心理学科	中津　達雄

編集責任者：岡　直樹

教育・研究紀要

第7号（2023）

徳島文理大学人間生活学部